

「NEXCO中日本」ブランド



ブランド・ネーム

会社の英語表記の一部である「Nippon Expressway Company」の頭文字であると同時に「NEXT(次なる)」「Co(共に)」という、ふたつの言葉を組み合わせ私たちの姿勢や熱意を表現しました。

ロゴマーク

シンボルマークは、頭文字「N」を3次元的に造形することによって、未来へと続く高速道路のダイナミズムをあらわすと同時に「道进行ること」がもたらしてくれる心の躍動感をあらわしています。ロゴタイプは、丸みと広がりを持たせたボールド書体によって、ゆとりある道路空間を表現しています。

ブランド・カラー

ネクスコ・オレンジ。中部日本エリアの活発なにぎわいをイメージした、力強くいきいきとしたオレンジ色。

ご案内

■ NEXCO中日本お客さまセンター

お客さまからのお問い合わせに正確にわかりやすくご案内いたします。

0120-922-229

■ 道路緊急ダイヤル

高速道路で異常を発見された際の専用ダイヤルです。ご協力をよろしくお願いいたします。

#9910

■ ハイウェイテレホン

お客さまのいる場所から最も近い地域のハイウェイテレホンに接続する専用ダイヤルです。最新の高速道路の交通情報を24時間自動音声で提供しています。

#8162

■ 交通情報携帯サイト「I Highway 中日本」



VOC(揮発性有機化合物)を含まない
植物油インキを使用しています。



印刷工程で有害廃液を出さない
水なし印刷方式で印刷しています。



適切に管理された森林から生産されたことを
示すFSC認証用紙を使用しています。



視認性、判読性に優れたユニバーサルデザイン
フォント(書体)を使用しています。



中日本高速道路株式会社

名古屋市中区錦 2-18-19
三井住友銀行名古屋ビル 〒460-0003
TEL:052-222-1620 FAX:052-232-3736
<http://www.c-nexco.co.jp>

道を通じて感動を 人へ、世界へ



CSR報告書 2011

道を通じて感動を 人へ、世界へ



事業概要

高速道路事業

建設事業：高速道路の整備

計画から施工までのすべての段階で、事業のスリム化とリスク管理の徹底を図りながら着実かつ効率的・効果的に事業を推進し、早期開通などの地域の期待に応えます。



保全・サービス事業：高速道路の維持管理

日本の東西基幹交通を担う大動脈である東名・名神をはじめ、沿線の皆さまの生活を支える高速道路の管理・運営を通じて、お客さまに満足していただけるサービスを24時間365日提供します。



関連事業

サービスエリア事業

サービスエリア事業では「お招き」と「おもてなし」の心による接客を心がけるとともに、お客さまに感動していただき、何度も訪ねたくなるようなサービスエリアを創造します。



その他事業

その他の事業では、旅行業やカードサービス事業などを推進するとともに、当社グループの培ってきた技術・ノウハウを活用して海外での事業を積極的に展開します。



編集方針

本報告書は、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションツールとして、NEXCO中日本グループの事業活動のうち、社会からの期待に応えるために重要と考えているものを中心に報告をしています。

本報告書では、特集、CSRマネジメント、社会的報告、環境報告に分けて主な取り組みを紹介しています。また前年度に報告した事項であっても各部門が重要と考えるものについては、継続して報告しています。

特集

社会情勢の変化を踏まえ当社グループとして特に重要な取り組みを「特集」として取り上げています。

CSRマネジメント

当社のCSRを推進するための組織体制や内部統制に関すること、グループ総合力の強化や国連グローバル・コンパクトなどへの参加をはじめとしたCSRに関するさまざまな取り組みについて報告しています。

社会的報告

当社の主な事業に関する取り組みについて、ステークホルダーごとに整理して紹介しています。

環境報告

当社の主な事業に関する取り組みについて、特に環境に関するものを紹介しています。

お客さま、国民(株主)の皆さま、地域社会、国際社会、取引先の皆さま、グループ会社も含めた社員などのステークホルダーの皆さまを读者として想定しています。

CSR情報 | <http://www.c-nexco.co.jp/corporate/csr/>

報告範囲など

対象組織：NEXCO中日本及びグループ会社

期 間：2010年4月1日～2011年3月31日
(一部2011年度も含まれます)

発 行：2011年6月(次回発行予定2012年6月)

参考としたガイドライン：

GRI(Global Reporting Initiative)
「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第3版」
環境省「環境報告ガイドライン(2007年度版)」
環境省「環境会計ガイドライン(2005年度版)」

【お問い合わせ先】
NEXCO中日本(中日本高速道路株式会社)
企画本部 経営企画部 経営企画チーム
〒460-0003
名古屋市中区錦2-18-19 三井住友銀行名古屋ビル
TEL:052-222-1620(代表) FAX:052-232-3736
※受付時間 平日9時～18時(土日祝日は除く)
<http://www.c-nexco.co.jp>

目次

NEXCO中日本グループの概要	P03
トップコミットメント	P05
NEXCO中日本グループの企業ビジョン	P07
KPI(重要業績評価指標)	P09
NEXCO中日本グループのCSR活動	P10
CSR活動と各種ガイドラインとの関連	P11
特集01 東日本大震災を踏まえた安全・安心の提供	P13
特集02 高速道路ネットワークの充実	P15
特集03 お客さまに感動していただけるサービスエリアへ	P17
主な事業活動と今後の方針	P19
CSRマネジメント	
CSR推進体制、コーポレートガバナンス	P21
リスクマネジメント、コンプライアンス	P22
情報セキュリティ、国連グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークでの活動	P23
社会的報告	
お客さまとともに	P25
国民(株主)の皆さまとともに	P33
地域社会とともに	P35
国際社会との関わり	P41
取引先の皆さまとともに	P43
社員とともに	P44
環境報告	
環境方針	P49
環境活動	
地球温暖化の抑制	P50
資源の3Rの推進	P55
地域環境への配慮	P57
環境技術	P63
環境マネジメント	P65
環境会計	P67
CSR懇談会	P69
ステークホルダーコミュニケーション	P71
第三者からのコメント	P72

NEXCO中日本グループの概要

私たちNEXCO中日本グループは、高速道路事業（新東名高速道路や首都圏中央連絡自動車道などの新規ネットワークの早期完成、東名・名神高速道路、中央自動車道などのわが国の基幹をなす路線を24時間365日「安全・安心・快適」に提供するための管理運営、大規模災害時の迅速な対応など）及び関連事業（魅力あるサービスエリアの創造や、積極的な海外事業の展開など）を通じて、地域社会の発展と暮らしの向上、日本経済全体の活性化、そして世界の持続可能な成長に貢献していくことを使命としています。

会社概要



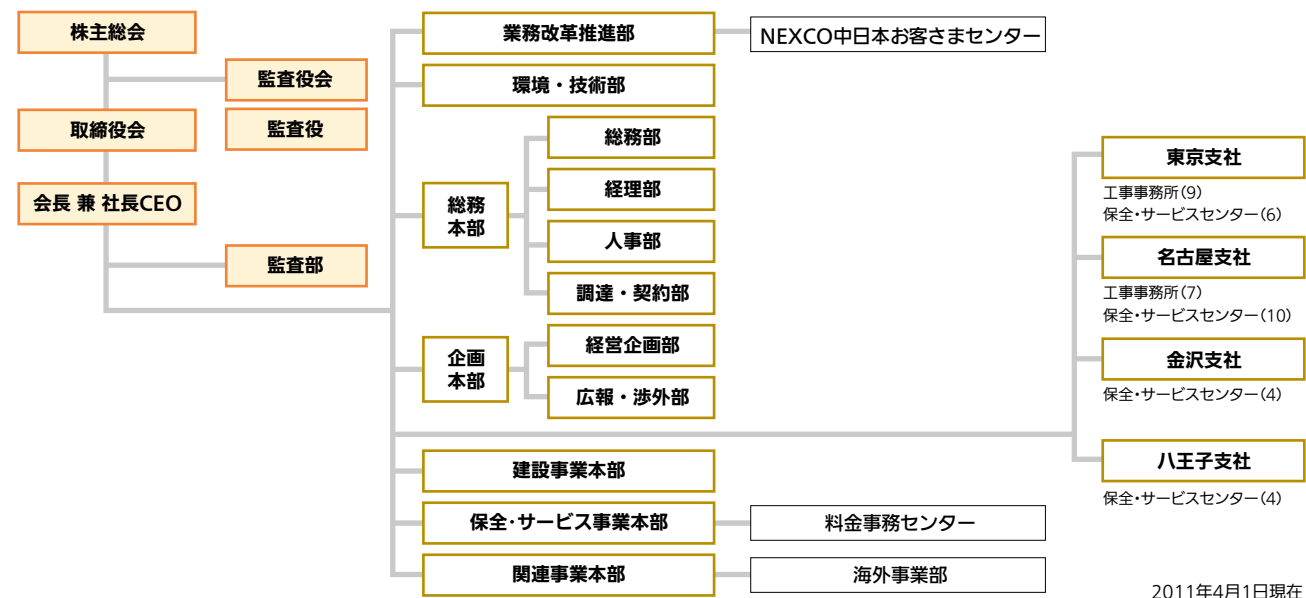
商号：中日本高速道路株式会社
(Central Nippon Expressway Company Limited)
代表者：代表取締役会長 兼 社長CEO 金子 剛一
本社所在地：名古屋市中区錦2丁目18番19号
設立年月日：2005年10月1日
従業員数：2,117名[連結従業員数8,609名] 2011年3月31日現在
グループ会社：13社(持分法適用関連会社7社)
資本金：650億円
事業内容：高速道路の建設、保全・サービス事業、サービスエリアその他の関連事業

事業状況

高速道路事業	営業延長			1,774km	2011年4月1日現在
	利用台数			188万台／日	2010年度
	営業収益			6,079億円	2010年度
	建設延長			407km	2011年4月1日現在
関 連 事 業	休憩施設	施設数	サービスエリア・パーキングエリア	166箇所※	2011年4月1日現在
		店舗売上高		1,590億円	2010年度
	関連事業営業収益			514億円	2010年度

※上下線別、無人施設14箇所を含みます。この他に当社が敷地を保有しない19箇所(上下別)があります。

組織体制



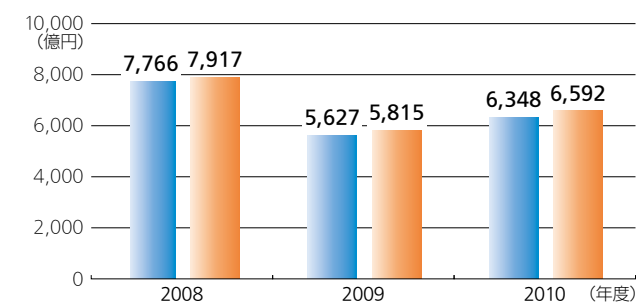
2011年4月1日現在

グループ概要

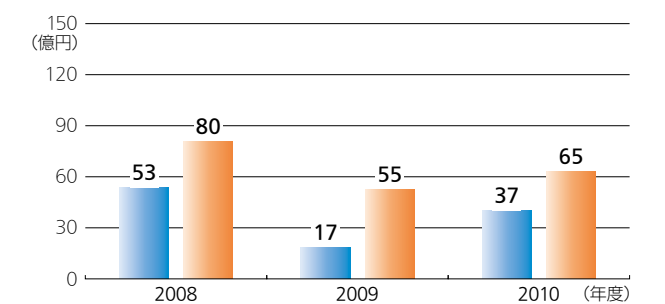


グループ業績

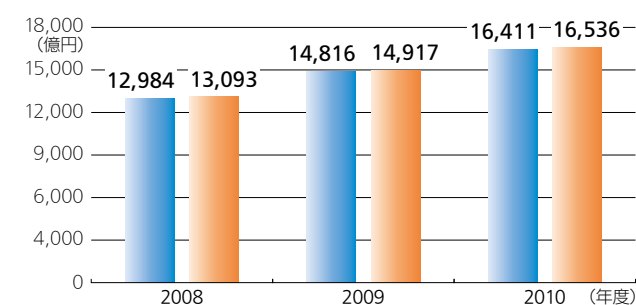
▼営業収益の推移



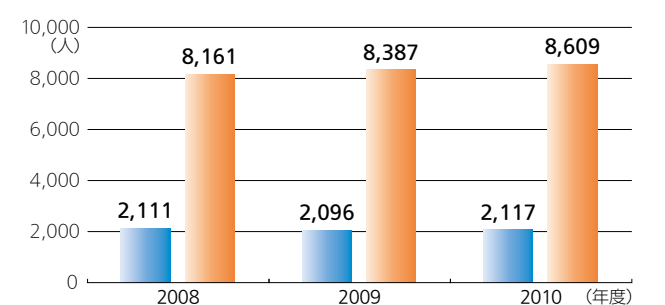
▼当期純利益の推移



▼総資産の推移



▼従業員の推移



『道を通じて感動を 人へ、世界へ』 世界一の高速道路会社、 さらには『夢』を実現できる会社をめざして。

初めに、3月11日の東日本大震災により被災された方々に対し、心からお見舞いを申し上げます。

今回の地震という大きな災害を通じて、高速道路という社会インフラがどれほど世の中に必要とされているものであり、それを造り、守る私たちの仕事に対する期待の大きさを改めて認識いたしました。

こうした本来の役割に立ち返り、あらゆる事業活動を通じて、地域社会の発展と暮らしの向上、日本経済全体の活性化、そして世界の持続可能な成長に貢献していくことが私たちの使命だと考えています。

私たちの企業ビジョン

この使命を達成すべく、経営環境がどのように変わろうとも、変わることのない経営理念の根幹として、将来に「『夢』を実現できる会社」という企業ビジョンを掲げ、5年後に「世界一の高速道路会社」となる明確な目標を立てました。

お客さま第一の徹底をはじめ、安全・安心・快適な高速道路空間の創出やお客さまの期待を超えるサービスエリアの創造などを通じて、ステークホルダーの皆さまに感動と満足をお届けするとともに、海外事業をはじめとする新たな事業領域への積極的な展開や次世代高速道路の実現に向けた取り組みなどを通じて、飛躍へのためめ挑戦を続けてまいります。

本業を通じたCSRの実践

高速道路という重要な社会インフラを担う当社グループにとっては、CSRは本業そのものであり、本業を通じてCSRを実践するという経営姿勢に立っています。

コーポレートガバナンスやコンプライアンスへの取り組みはもとより、このたび、当社グループならではのCSR活動として、「安全・安心・快適の推進、感動の提供」「地域連携の強化、地域社会・経済への貢献」「環境・持続可能社会への貢献」を3つの重点領域と定めました。今後は、これらの領域についても、社会やNPOなどと連携しながら、積極的に活動を進めていきます。

私たちは、2008年7月に国連グローバル・コンパクトへの参加を表明し、ジャパン・ネットワークの分科会活動などに積極的に参加しています。

また、社会的責任に関する国際規格である「ISO26000」についても、CSR活動を推進するための手引きとし、当社グループのCSR活動を展開してまいります。

安全・安心・快適の推進、感動の提供

「お客さま第一」と「安全・安心・快適」は最優先施策であり、お客さまに「安全・安心・快適」な高速道路をご利用いただけるよう、日々取り組んでいます。

営業中の高速道路の事故対策や渋滞対策はもちろんのこと、新たな技術を取り入れた新東名高速道路や首都圏中央連絡自動車道などの建設により、高速道路ネットワークの充実を図っています。

また、国民生活に必要な不可欠な高速道路を、健全な状態で百年以上維持し、後世に継承するための「百年道路」を実現します。

さらには、新しいスタイルのサービスエリア「EXPASA」をはじめとする、お客さまの多様なニーズにお応えする魅力あるサービスエリアの創造などを通じて、すべてのステークホルダーの皆さまへ感動と満足をお届けします。

地域連携の強化、地域社会・経済への貢献

地域の皆さまに信頼され、地域社会へ貢献する事業運営を行うためにも、2010年度までにすべての沿線都県との包括的提携協定を完了しました。

この枠組みを活かし、地域産業の発展、広域観光や地産地消の促進、災害時の協力体制の強化など、高速道路を活用した地域連携の強化により、地域社会・経済の活性化に貢献します。

また、サービスエリアにおいては、地元産品など地産地消の拡大や地域色豊かな店舗の導入とともに、高速道路をご利用いただくお客さまだけでなく、「ぶらっとパーク」を通じて、サービスエリアが高速道路と地域との交流の拠点となるよう、さまざまな施策を展開しています。

環境・持続可能社会への貢献

環境・持続可能社会への貢献についても、最重要課題として取り組んでいます。

5年後の世界一の高速道路会社をめざして、環境負荷低減のための活動や技術開発に挑戦し、高速道路ネットワークの整備などの事業活動を通じて、地球温暖化の抑制や資源の3R(Reduce・Reuse・Recycle)を推進します。

また、太陽光や風力、湧水などの再生可能エネルギーを休憩施設や道路設備に活用するだけでなく、電気自動車の普及に対応した急速充電システムの整備も進めています。

2010年10月開催されたCOP10などを踏まえ、生物多様性に配慮したエコロード(自然環境に配慮した道)づくりに取り組むとともに、生活環境の保全や道路景観の整備にも積極的に取り組んでいます。

グループ経営計画「チャレンジV」とCSR報告書

経営計画「チャレンジV」では、「世界一の高速道路会社」を5年後に実現するための具体的な指標として、KPI(重要業績評価指標:Key Performance Indicator)を設定しました。当社グループ全体で共有する指標として、施策の達成状況を把握し、社員全員が新たな発想でチャレンジし、目標を実現してまいります。

このCSR報告書は、経営計画の進捗状況や、世界一の高速道路会社をめざす私たちの日々の取り組み状況をご紹介しますものです。

是非ご一読いただき、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

2011年6月

中日本高速道路株式会社
代表取締役会長 兼 社長CEO

金子剛一



NEXCO中日本グループの企業ビジョン

■ 経営理念

Our Mission

■ 私たちの役割

私たちは、常に変革と向上を求め、**安全・安心・快適**で、時代をリードする高速道路空間を創出し、地域社会の発展と暮らしの向上、日本経済全体の活性化、そして世界の持続可能な成長に貢献します。

CORPORATE PHILOSOPHY

Our Six Basic Corporate Policies

■ 私たちの基本姿勢

私たちは「より良い会社でより強い会社」をめざすことにより、私たちの役割を果たします。

その方向付けとして、以下の『6つの基本姿勢』を掲げます。

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. お客さまを第一にする | 4. 環境を重視する |
| 2. 社会の信頼を獲得する | 5. 現場に立って考え行動する |
| 3. 革新的であり続ける | 6. チームワークを大切にする |

■ 経営方針

Basic Management Policy through 5 years

■ 5ヵ年を通じた経営基本方針

『世界一の高速道路会社をめざして』

～ すべてのステークホルダーの皆さまに感動と満足を ～
～ 飛躍へのたゆまぬ挑戦 ～

MANAGEMENT POLICIES

Management Policies in fiscal year 2011

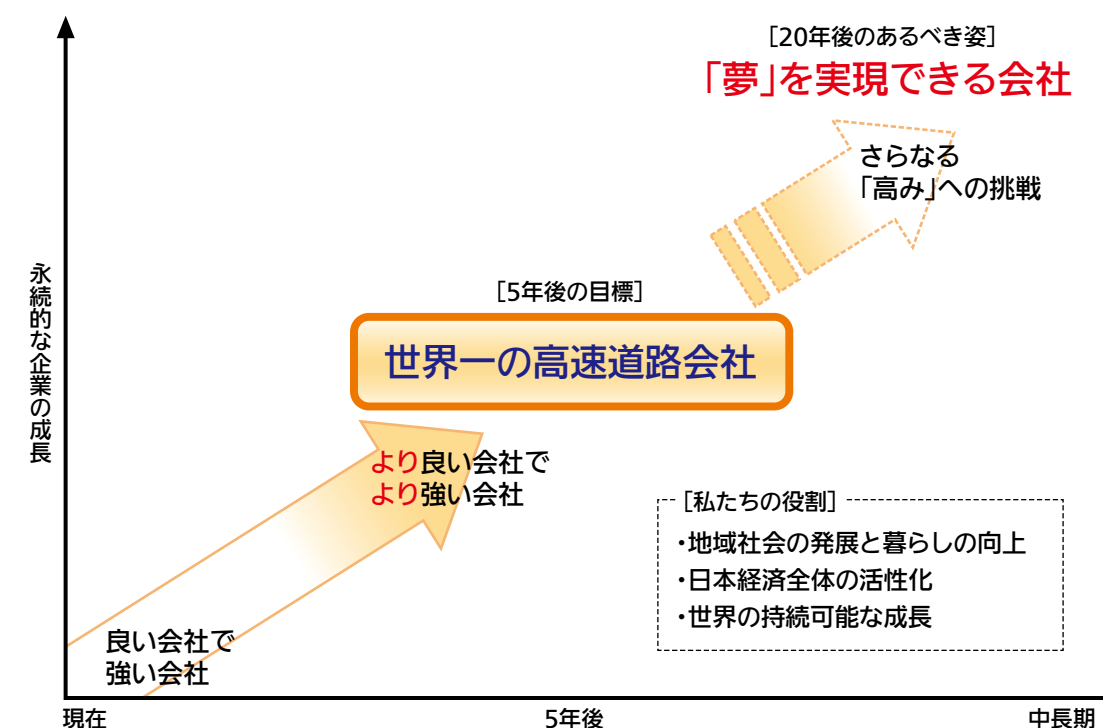
■ 2011年度の経営方針

1. 「世界一の高速道路会社」への着実な第一歩
～ 2011年度施策の確実な実行 ～
2. 環境変化への柔軟な対応
3. イノベーションの加速

■ コーポレート・スローガン

『道を通じて感動を 人へ、世界へ』

私たちはお客さまに私たちのサービスを通じて、感動を得ていただけるように常に努めていきます。この感動を、より幅広くさまざまな人へ、さまざまな国へ広げていきます。そして未来につないでいきます。



■ 企業ビジョンの策定にあたって

この企業ビジョンは、全グループ社員が参加した企業ビジョンキャラバンを68回開催し、そこで出された約6,300の意見を反映するよう、何度も議論を重ねて決定したものです。さらに2011年3月に策定した経営計画をグループ全員で真に共有し、思いを一つにして目標に向かって進んでいくため、2011年4月から5月にかけて、再度、企業ビジョンキャラバンを78回実施しました。



企業ビジョンキャラバン

KPI (重要業績評価指標)

当社グループでは、「世界一の高速道路会社」を5年後に実現し、さらには自立した「夢を実現できる会社」をめざします。そのために、現在の姿を示す指標としてKPI(重要業績評価指標：Key Performance Indicator)を設定することにより、施策の達成状況を把握し、実行することで皆さまの期待に応えていきます。

カテゴリ	サブカテゴリ	カテゴリ測定指標	現状値	2011	2015
お客さま	安心・安全	通行止め時間	1,208時間	1,200時間	1,170時間
		死亡事故率	1.6人/10億台*。	1.6人/10億台*。	1.4人/10億台*。
	快適・感動	渋滞損失時間(※1)	1,267(812)万台・時間	1,264(801)万台・時間	680万台・時間
		CS調査値(高速道路、SA・PA)	61.9点[平均]	64.3点[平均]	74.0点[平均]
		感動指数	——	(※2)	(※2)
社会的責任	環境	CO ₂ 排出量(オフィス活動)	10,327t-CO ₂ (※3)	10,223t-CO ₂	9,810t-CO ₂
		CO ₂ 排出量 (保・サ事業及び関連事業活動、お客さま車両の走行)	5,293t-CO ₂ /km(※4)	5,241t-CO ₂ /km(※4)	4,520t-CO ₂ /km(※4)
	地域連携	社会貢献活動件数	700件	760件	1,000件
拡大成長・技術	関連事業	サービスエリア店舗総売上高	1,485億円	1,530億円	1,900億円
	新規事業	新事業プロジェクト件数	0件	2件	10件
		新商品・サービス件数	0件	5件	40件
		事業多角化指数 (関連事業売上／(料金収入+関連事業売上))	27%	29%	33%
	海外事業	海外事業プロジェクト案件数	0件	1件	3件
	技術開発	パテント出願件数	9件	15件	20件
組織・人材	モチベーション	E S調査値(働きがい)	3.46点[平均]	3.50点[平均]	3.66点[平均]
		経営職登用年齢(最年少)(※5)	45歳	45歳	38歳
	イノベーション	イノベーションからの事業化件数	0件	1件	8件
		イノベーションポスト提案件数	300件	1,000件	10,000件
	ダイバーシティ	女性管理職数(※5)	5名[累計]	5名[累計]	10名[累計]
生産性	生産性	建設コスト削減累計額	104億円	145億円	310億円
		Km当たり管理費	69百万円/km	69百万円/km	66百万円/km
		サービスエリア事業売上高営業利益率 (サービスエリア事業営業利益/サービスエリア事業営業収益)	19%	19%	23%
		従業員1人当たりサービスエリア事業売上高 (サービスエリア事業営業収益/サービスエリア事業従事社員)	102百万円/人	105百万円/人	116百万円/人
		総労働時間	2,038時間	2,000時間	1,800時間

※1 渋滞損失時間値の()は休日特別割引による影響を除いたものです。

※2 2011年度内に「感動指数」の具体的な目標値を設定します。

※3 2009年度の実績をベースに試算しています。

※4 ネットワーク整備などによる一般道路との交通の転換も考慮しています。

※5 NEXCO中日本(グループ会社を除く)の数値を示しています。

NEXCO中日本グループのCSR活動

本業を通じて的確に社会の期待に対応することが私たちのCSR活動です。

NEXCO中日本グループは、経営理念を実践し、私たちの役割を果たすことによって、持続可能な社会づくりに貢献します。

ISO26000などの国際規格を参考に、企業価値を維持するための『基本的CSR活動』と合わせて、自社の経営資源や強みを活かした『NEXCO中日本ならではの』CSR活動として、「安全・安心・快適の推進、感動の提供」「地域連携の強化、地域社会・経済への貢献」「環境・持続可能社会への貢献」の3つの重点領域に積極的に取り組んでいきます。



CSR活動と各種ガイドラインとの関連

NEXCO中日本グループは、グローバル社会において、持続可能な社会に貢献するとともに、他企業や他機関とCSRの価値観を共有し、連携を図っていくことが重要であると考えています。

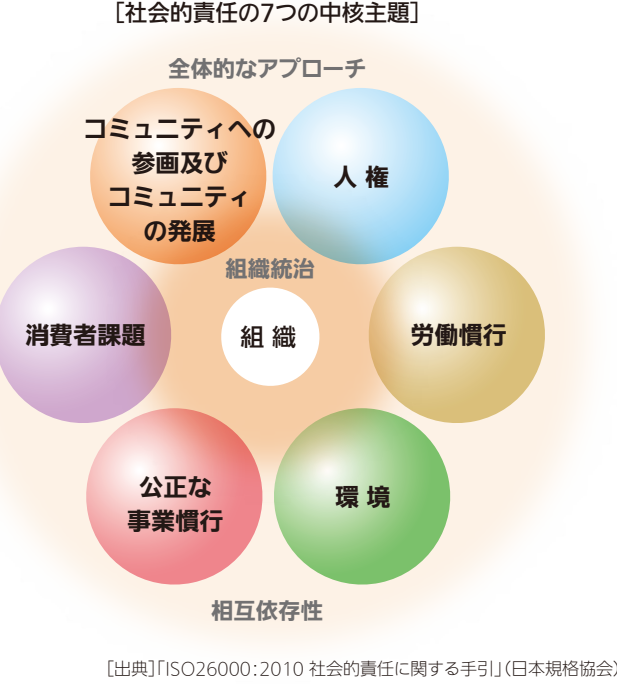
当社は、2008年7月に国連グローバル・コンパクトの10原則に賛同・署名し、グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク(GC-JN)に参加しています。また、2010年11月に発表されたISO26000の視点を取り入れ、CSR活動の課題や重点施策を抽出し、各施策の達成状況をKPIによって把握し、PDCAサイクルを回しながら、CSR活動を推進しています。

ISO26000の7つの中核主題

ISO26000は、組織の社会的責任に関する国際規格で、認証を前提としないガイダンス規格です。

90を超える国及び40を超える地域機関のエキスパートが関与する、マルチステークホルダーアプローチという手法により、5年余りの年月をかけて発行されました。

ISO26000では、組織が取り組むべき社会的責任の7つの中核主題を示しています。



国連グローバル・コンパクトの10原則

国連グローバル・コンパクト(GC)は2000年にアナン前国連事務総長の提唱により創設されたものであり、現在では世界の約140ヵ国で8,000以上の企業・団体が参加しています。

GCは、企業が影響力の及ぶ範囲内で、人権、労働基準、環境、腐敗防止の4分野で遵守すべき10原則を示しています。

「国連グローバル・コンパクト(GC)」の10原則		
人権	原則 1	企業は、その影響の及ぶ範囲内で国際的に宣言されている人権の擁護を支持し、尊重する。
	原則 2	人権侵害に加担しない。
労働基準	原則 3	組合結成の自由と団体交渉の権利を実効あるものにする。
	原則 4	あらゆる形態の強制労働を排除する。
	原則 5	児童労働を実効的に廃止する。
	原則 6	雇用と職業に関する差別を撤廃する。
環境	原則 7	環境問題の予防的なアプローチを支持する。
	原則 8	環境に関して一層の責任を担うためのイニシアチブをとる。
	原則 9	環境にやさしい技術の開発と普及を促進する。
腐敗防止	原則 10	強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗を防止するために取り組む。

本報告書での主な内容とISO26000の中核主題及び国連グローバル・コンパクトの10原則との関連をまとめると下表のとおりです。

本報告書での主な報告内容		掲載ページ	ISO26000中核主題	国連グローバル・コンパクト
CSR推進体制／コーポレートガバナンス	P21		組織統治 公正な事業慣行	腐敗防止 原則10
	P22			
	P23			
情報セキュリティ／国連グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークでの活動				
社会的報告	お客さまとともに		消費者課題	人権 原則1 環境 原則9
	お客さま第一の徹底	P25		
	お客さまとのコミュニケーション	P26		
	交通事故対策	P27		
	交通渋滞対策	P28		
	「安全・安心・快適」な次世代の高速道路空間の創出	P29		
	「百年道路」計画の推進	P30		
	より快適な高速道路空間をめざして	P31		
	新事業によるサービスの展開	P32		
	国民(株主)の皆さまとともに		公正な事業慣行	腐敗防止 原則10
	資金調達とIR活動	P33		
	公正・効率的な料金収受	P33		
	コスト削減とインセンティブ助成金	P34		
	技術・ノウハウの活用	P34		
	地域社会とともに		コミュニティへの参画 及び コミュニティの発展	—
	スマートICなどの整備	P35		
	地域と密着したサービスエリアづくり	P36		
	地域とのふれあい	P36		
	包括的提携協定による地域活性化	P37		
	災害発生時における迅速な復旧・救援対応	P38		
	地域・福祉への貢献	P39		
	教育への貢献	P39		
	文化・スポーツ活動	P40		
	高速道路関連社会貢献事業の推進	P40		
	国際社会との関わり		公正な事業慣行	環境 原則7、8 腐敗防止 原則10
	海外への展開	P41		
	国際交流・国際貢献	P41-42		
	取引先の皆さまとともに		公正な事業慣行	環境 原則7、8 腐敗防止 原則10
	公正・透明な取引関係を築くために	P43		
	社員とともに		人権 労働慣行	人権 原則1、2 労働基準 原則3、4、5、6
	人事制度	P44		
	ダイバーシティ・マネジメント	P44		
	人材育成の充実	P45		
	ワークライフバランスの促進	P45		
	労働災害ゼロをめざして	P45		
	健全な労使関係の維持	P45		
	イノベーションの推進	P46		
環境報告	地球温暖化の抑制		環境	環境 原則7、8、9
	高速道路ネットワークの整備	P50-52		
	省エネルギーへの取り組み	P52-54		
	資源の3Rの推進			
	廃棄物の発生抑制	P55		
	廃棄物の再使用・再生利用	P55-56		
	地域環境への配慮			
	生物多様性への配慮	P57-59		
	沿道環境への貢献	P60-62		
	環境技術・環境マネジメント	P63-66		



特集01

東日本大震災を踏まえた安全・安心の提供

NEXCO中日本グループは、被災地の一日も早い復興を願い積極的に支援します。また、防災体制をさらに強化し、お客さまに安全で安心してご利用いただける高速道路空間を提供します。

東北地方・関東地方に甚大な被害をもたらした東日本大震災で被災された方々やNEXCO東日本に対し、物資の支援や応急復旧への支援など、さまざまな支援を行いました。今回の大震災を受けて、高速道路という社会インフラの重要性を再認識し、防災体制をさらに強化するとともに、新東名高速道路（新東名）の開通による東名高速道路（東名）とのダブルネットワークの形成など、大規模な災害の際にも国民生活に不可欠な交通確保をめざします。

NEXCO中日本グループの東日本大震災対応

■ NEXCO東日本への支援

飲料水や食料品などの物資や標識車・電源車などの車両支援を実施し、復旧作業に全面的に協力しました。



規制作業支援状況

■ 福島県いわき市への物資輸送支援

トラックを応援派遣し、全国からの救援物資が集まるハブセンターから、避難所各所に物資を届ける輸送支援を行いました。



輸送支援状況

■ 計画停電と節電対応

東京電力管内では、自家発電設備や移動式発電機などにより、お客さまにご迷惑をかけないように計画停電対応を行いました。今後も本線やトンネル、休憩施設の照明の減灯を行うなど、節電対策を実施します。

■ 建設中の新東名を利用した緊急車両の通行

大津波警報発表により東名が通行止めとなったことから、静岡県からの要請により建設中の新東名を利用し、被災地へ向かう緊急車両の通行を確保しました。



緊急車両通行状況

■ 宮城県石巻市への給水及びトイレ支援

給水車を応援派遣し、浄水場から避難所各所に給水支援を行いました。また、バイオトイレカーを派遣し、トイレの支援も行いました。



給水支援状況

■ さまざまな取り組み

救援物資の提供や義援金の寄付、被災された方の優先雇用に取り組むとともに、被災地の復興支援を目的にチャリティーキャンペーンを開催しています。



東北物産フェア

現状の防災に対する取り組み

今回の地震では東名・中央自動車道（中央道）などの一部の路線が通行止めとなりましたが、幸いにも大きな被害はありませんでした。しかし、「東海・東南海・南海地震」及び「首都直下地震」をはじめ、管内には大きな被害を及ぼす恐れがある地震が想定されています。またこれらの地震が連動して発生する可能

性も指摘されています。

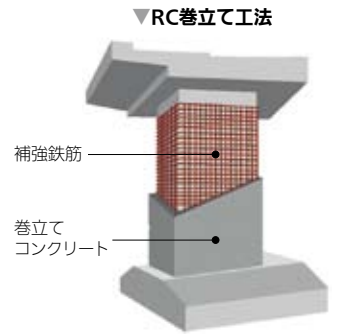
当社では、お客さまに安心して高速道路をご利用いただくため、従来から災害に備えてグループ一体となった防災体制を整えるとともに、道路の点検や、橋梁の耐震補強、盛土補強対策など災害に強い道路づくりに取り組んでいます。

■ 安全点検の実施

当社では地震発生後は速やかに道路の点検を実施し、道路の安全性を確認します。また、橋梁のコンクリート片のはく落対策などによる第三者被害防止に向け、緊急安全点検の結果に基づき、ほかの道路との交差箇所などの対策を2012年度までに完了します。また、補修完了後も点検を継続し、「百年道路」計画に基づき構造物の適切な管理を行います。

■ 橋梁の耐震補強

大規模な地震発生時において、甚大な災害を防止するため、1979年以前の道路橋示方書の基準を適用した橋脚について、1995年から工事を実施し、2010年度までに対象9,950基のすべての橋脚の補強が完了しました。



■ 盛土補強対策

2009年8月の駿河湾を震源とした地震により被災した東名 牧之原地区の盛土の本復旧については2010年7月に完了しました。また、被災した盛土の類似箇所の詳細調査・対策計画を踏まえ、2011年度に19箇所の盛土補強対策を実施します。



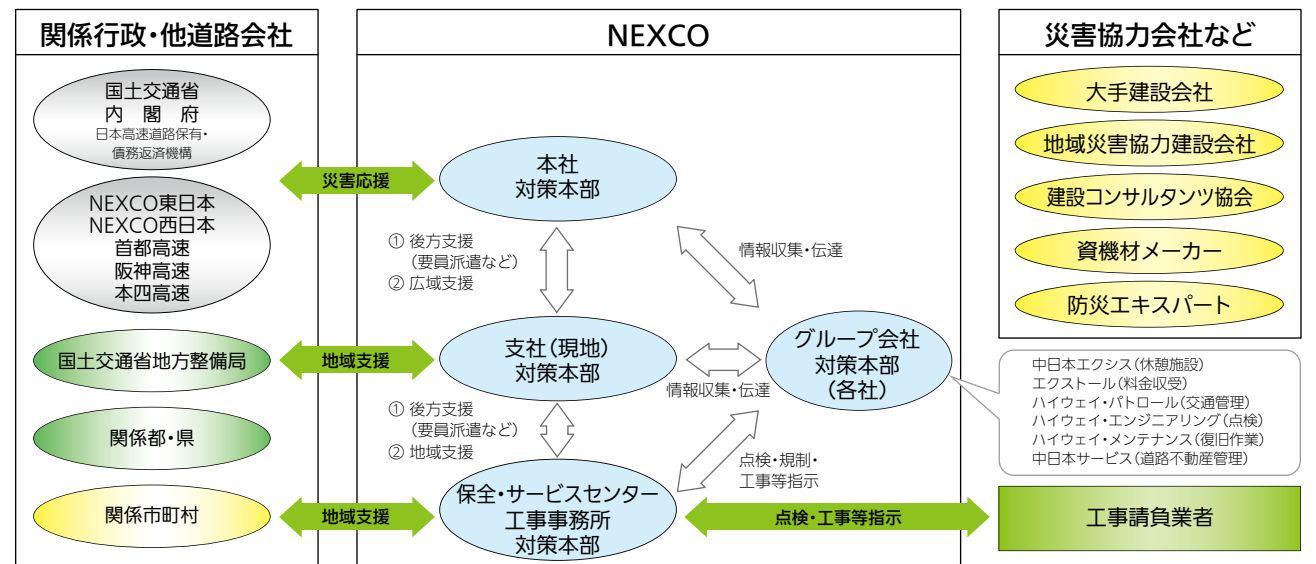
被災直後の状況(2009年8月)



本復旧後の状況(2010年7月)

■ 防災体制の確立

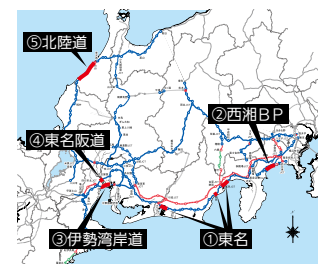
当社では、災害が発生した場合に備えて、早期に高速道路の通行を確保するため、グループ一体となった防災体制を確立しています。また関係機関との連絡体制を構築し、関係行政や地域との連携を図っています。



東日本大震災を踏まえたさらなる防災体制の強化

今回の東日本大震災の教訓を活かし、大規模地震や大津波・原子力発電所などによる災害を想定した業務継続計画(BCP)を全社展開し、グループ一体となった防災体制をさらに強化します。また、大津波を想定した高速道路を走行中のお客さまへの情報提供や、休憩施設のお客さまの避難場所への誘導方法など、詳細な検討を行うとともに、防災訓練を実施するなど地域と一体となった防災体制の強化を図っていきます。

(参考)BCP：業務継続計画(Business Continuity Plan)とは、大規模な災害・事故などが発生した場合に、基幹業務の継続や、早期に業務を再開するために策定する行動計画です。



沿岸部に近接する高速道路



東名における近接箇所(静岡県静岡市)



特集02

高速道路ネットワークの充実

信頼性の高い高速道路ネットワークの構築により、
お客さまにとって安全・安心・快適な高速道路空間を提供します。

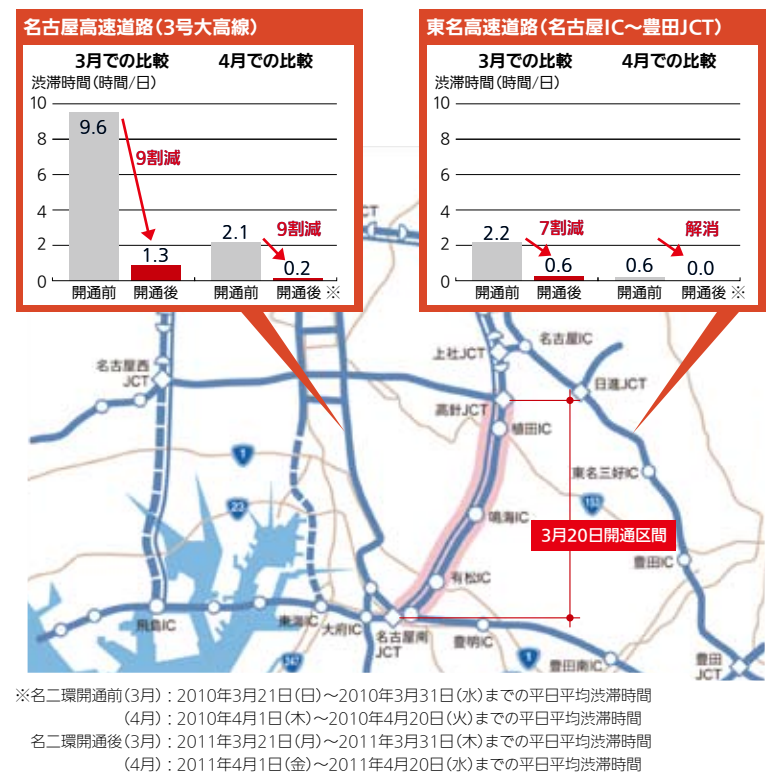
NEXCO中日本グループでは、取り巻く経営環境の変化に機動的に対応しながら、
2015年度までに306kmの高速道路を新規に開通し、社会経済活動の根幹を支えるインフラとして、
地域相互の交流、沿線地域の産業の活性化、他の交通機関との有機的結合による
人・モノ・情報の流れの円滑化などに貢献します。

名二環(名古屋南JCT～高針JCT)は、2011年3月20日に開通しました

名古屋高速3号大高線など名古屋市内の東部・東南部に位置する幹線道路は、これまで慢性的な渋滞が発生していましたが、2011年3月20日に名古屋第二環状自動車道(名二環)(名古屋南JCT～高針JCT)が開通し、伊勢湾岸自動車道(伊勢湾岸道)と接続することで、大幅に渋滞が改善され、お客さまの利便性が向上するものと期待されています。

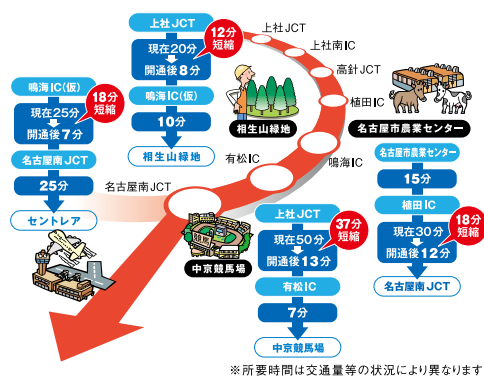
【周辺高速道路の渋滞状況：開通1ヵ月後】

- 名二環と並行する名古屋高速3号大高線では、開通前と比べて3月、4月の1日あたり延べ渋滞時間が約9割減少しています。
- 東名(名古屋IC～豊田JCT)では、3月の1日あたり延べ渋滞時間が約7割減少しており、4月は渋滞が解消しています。
- 両路線ともに、名二環の開通により1日あたりの延べ渋滞時間が減少していますが、東日本大震災(2011年3月11日)の影響も考えられます。



開通直後のお客さまの車両

◎整備効果：所要時間の短縮
セントレアなど主要地点までの所要時間が短縮されます。
例：鳴海IC→セントレア間
開通前50分→開通後32分
(18分短縮：名二環を利用した場合)



主要地方道・名古屋第二環状線の
名古屋市天白区野並付近の渋滞状況



2015年度までの開通予定

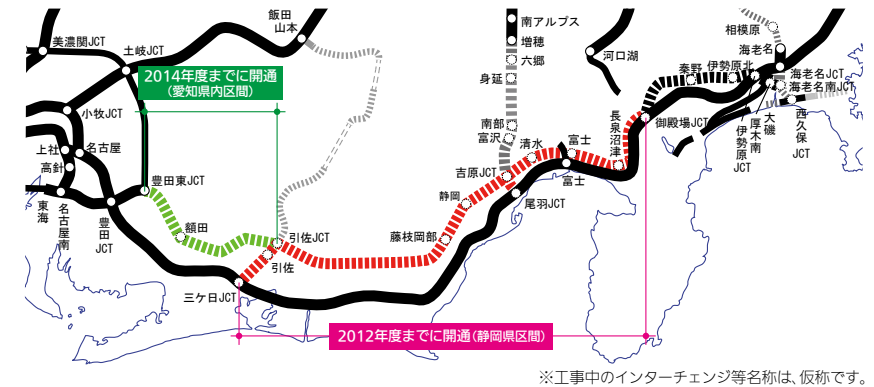
道路名	区間(IC・JCT名は仮称を含む)	延長	完成年度	備考
新東名	御殿場JCT～三ヶ日JCT	162km	2012	新東名静岡県内初の開通
	引佐JCT～豊田東JCT	55km	2014	御殿場以西のダブルネットワーク化
新名神	四日市JCT～四日市北JCT	4km	2015	新名神の着実な延伸
紀勢道	紀伊長島～紀勢大内山	10km	2012	紀勢道の着実な延伸
舞鶴若狭道	小浜～敦賀JCT	39km	2014	舞鶴若狭道全線開通
圏央道	西久保JCT～海老名JCT	9km	2012	中央道・東名・新湘南バイパスが 圏央道を介して接続 《圏央道西側区間の完成》
	海老名～八王子南	25km	2012	
	八王子南～八王子JCT	2km	2011	
計		306km		

※連絡路(引佐JCT～三ヶ日JCT)などを含む延長です。

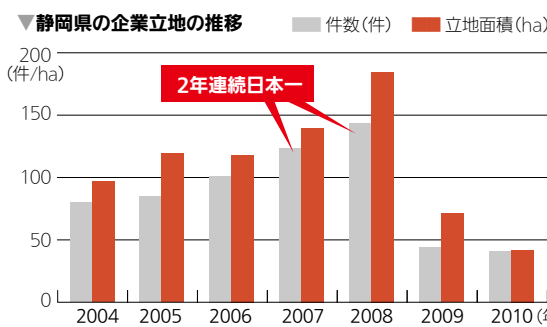
新東名の整備(静岡県区間は2012年度、愛知県内区間は2014年度)

新東名は、混雑が著しい東名との適切な交通分担機能を持ち、日本の産業・文化・社会経済活動の振興に、大きく寄与することが期待されています。また、東名に比べて緩やかなカーブと勾配で計画されており、より安全で快適な走行が可能となります。

静岡県区間(御殿場JCT～三ヶ日JCT)を2012年度までのできる限り早期に、愛知県内区間(引佐JCT～豊田東JCT)を2014年度までに開通させます。また、新名神高速道路(新名神)の四日市JCT～四日市北JCTを2015年度までに開通させます。



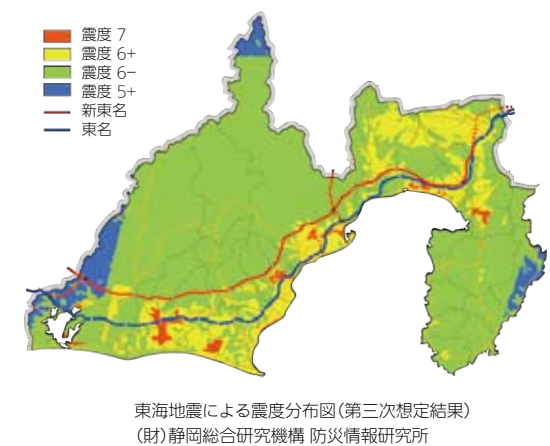
◎想定される整備効果：
新東名開通により高速道路へのアクセスがさらに向上し地域社会に貢献



【ダブルネットワーク形成の効果】

- 東名とダブルネットワーク化することにより、緊急時の代替ルートの確保や「百年道路」計画の実現に向けた東名・名神リニューアル工事の展開が可能となり、大都市間の物流・経済を支える大動脈としての信頼性を確保します。
- 新東名は東名と比べ山側を通過しており、今後30年間に発生する確率が87%※と予想される東海地震が発生した場合にも、被害を受けにくいと想定されています。※地震調査研究推進本部HPより

◎緊急時の代替ルート：
2009年8月の駿河湾を震源とした地震により東名の一部が通行止めとなりました。特に混雑が著しい大井川の渡河区間において、建設中の新東名 大井川橋を地域の皆さまを対象に緊急通路としてご利用いただきました。





特集03

お客さまに感動していただけるサービスエリアへ

お客さまに感動していただけるサービスエリアをめざして、「お招き」と「おもてなし」の心で、「お客さまにとっての真のくつろぎの場」「お客さまと地域のふれあいの場」としてのサービスエリアを創造します。

店舗リニューアルにより複合商業施設化を実現し、新しいショップや新業態を積極的に導入することで、さまざまな場面に応える魅力的なショッピング環境やスタイリッシュなサービスを提供し、お客さまを「お招き」「おもてなし」します。
また、沿線自治体やサービスエリアの周辺地域との連携強化、テナントと一体となったサービスの向上により、お客さまとの交流が広がるサービスエリアづくりを進めます。

新・感動サービスエリア「EXPASA」誕生

お客さまにとって、真のくつろぎの場となるサービスエリアをめざし、新しいサービスエリアのかたちとして「EXPASA(エクスパーサ)」というブランドネームの商業施設を展開しています。

「EXPASA」は、店舗のリニューアルに合わせ施設を大規模に造りなおし、新しいショップや新業態を積極的に導入するべく、MD(商品構成)からリーシングまでゼロから作り上げた施設です。



東名 EXPASA足柄(上り)



2010年度オープン(5箇所)		
東 名	EXPASA足柄	上り・下り
名 神	EXPASA多賀	下り
東名阪道	EXPASA御在所	上り・下り
2011年度オープン予定(2箇所)		
東 名	EXPASA海老名	上り
中 央 道	EXPASA談合坂	下り



東名阪道 EXPASA御在所(下り)



名神 EXPASA多賀(下り)

お客さま満足の向上

お客さまに真に満足していただくために、接客コンテストによる表彰制度の導入やサービスエリアコンシェルジュのサービスのレベルアップを通じて、お客さまを「おもてなし」します。



接客コンテスト競技シーン



サービスエリアコンシェルジュ

お子さまや愛犬と一緒に楽しいドライブ

家族みんなで楽しくくつろぐことのできるサービスエリアをめざし、キッズスペースやドックランを兼ね備えた店舗づくりを進めています。



東名阪道 EXPASA御在所(下り) キッズトイレ



東名 EXPASA足柄(下り) ドッグラン

さまざまなお客さまのニーズに応えるサービスエリアづくり

女性・若手社員で構成するプロジェクトや産学協同プロジェクトによるサービスエリアのプロデュースを推進するとともに、女性に好まれる情報発信をコンセプトに、女性社員によるブログを運営し、耳よりな情報を発信していきます。



女性・若手社員プロジェクト

ブログ『NEX子中日本 HAPPY☆ドライブ』



産学協同プロジェクト



東名 EXPASA足柄(上り) 女性専用トイレ

主な事業活動と今後の方針

項目		2010 年度の主な事業活動と成果	2011 年度以降の方針	ページ
社会的報告	お客さま第一の徹底	お客さま第一の徹底	・季節や曜日特性を踏まえた適切な人員の配置を行うとともに、対応時間の短縮を図ることで、着信率平均90%を確保	P25
		お客さまとのコミュニケーション	・メディアを活用した効果的な広報の展開 ・外国語版Webサイトの充実 ・お客さま感謝イベントの実施	P26
		交通事故対策	・事故多発箇所、逆走事故防止の対策 ・交通安全セミナーなどによる交通安全啓発活動	P27
		交通渋滞対策	・2車線区間の一部区間を暫定的に3車線運用 ・LED標識やモバイルによる情報提供 ・車線運用の変更による渋滞対策	P28
		「安全・安心・快適」な次世代の高速道路空間の創出	・新東名リーディングプロジェクトにおける実証実験	P29
		「百年道路」計画の推進	・後世に優良な道路資産を継承するための「百年道路」計画の推進	P30
		より快適な高速道路空間をめざして	・情報提供の充実、お手洗いの美化、「お知らせアンテナ」の整備、ETCレーン複数化などの推進	P31
	国民生活の皆さまのために	新事業によるサービスの展開	・「環境に配慮した取り組み」を見学するバスツアーの実施 ・カードサービスの拡大、Webサイトの充実 ・占用施設活用事業の実施	P32
		資金調達とIR活動	・必要資金の全額を自主調達 ・企業情報の積極的な開示	P33
		公正・効率的な料金収受	・高性能カメラや開閉バーの設置など、不正通行対策を強化 ・対距離型料金精算機などにより料金収受業務を効率化	P33
		コスト縮減とインセンティブ助成金	・新型の特殊吸音ルーバーの開発による建設コストの縮減 ・インセンティブ助成金の交付申請	P34
		技術・ノウハウの活用	・ネットワーク効果を高め、蓄積した技術の活用のため、新直轄区間の技術支援業務に参画	P34
		スマートICなどの整備	・お客さまの利便性向上、地域との連携強化、産業の活性化などをめざして、スマートICなどを整備(2010年度は新たに1箇所で運用開始)	P35
		地域と密着したサービスエリアづくり	・「ぶらっとパーク」の新設・改築(2010年度は25箇所) ・農匠マーケットの開催など地産地消を推進	P36
地域社会のために	地域社会のために	地域とのふれあい	・沿線住民の皆さまなどとさまざまな活動を通じて交流	P36
		包括的提携協定による地域活性化	・2010年度新たに東京都と包括協定を締結、災害時の協力体制などを充実・強化	P37
		災害発生時における迅速な復旧・救援対応	・グループ一体での総合防災訓練の実施や緊急地震速報装置の整備などを展開 ・地域災害支援の実施	P38
		社会貢献の取り組み	・障がい者団体の就労支援や地域小学生の探検学習などを実施し、地域の施設や教育、文化・スポーツ活動へ貢献 ・高速道路関連社会貢献事業の推進	P39-P40

項目		2010 年度の主な事業活動と成果	2011 年度以降の方針	ページ	
社会的報告	国際社会との関わり	国際交流・国際貢献	・ベトナム道路事業者との関係強化 ・マレーシアPLUS社との人事交流を実施 ・国際会議への積極的な参加、研修・視察の受け入れ、発展途上国への専門家派遣、コンサルティング業務を実施	・海外道路事業者との交流、発展途上国への専門家の派遣を通じて国際社会へ貢献 ・アジア諸国の高速道路事業を中心として、積極的に海外事業を展開	P41-P42
	取引先と皆さまとともに	公正・透明な取引関係を築くために	・技術力を重視した「総合評価方式」の全面実施	・持続可能社会の実現に向けたCSR調達の推進	P43
	社員とともに	人事制度	・社員に期待する役割を明確にし、公正な評価により社員のやりがいを向上	・社員が主体的なキャリア形成に挑戦できる人事制度の推進	P44
		ダイバーシティ・マネジメント	・多様な人材の確保を推進 ・女性や障がい者などがいきいきと働ける職場環境づくりを推進	・引き続き、多様な人材を活かす企業経営をめざした職場環境づくりを推進	P44
		人材育成の充実	・階層別・専門研修や他企業への派遣研修、博士号取得補助や資格取得補助などによる人材育成	・「強い現場力をもつ社員」の育成をめざし、社員がめざすべきキャリアの実現とスキルアップを支援	P45
		ワークライフバランスの促進	・男性社員の育児休業や年休取得促進などを定めた「次世代育成支援行動計画」を達成し、「くるみん」を取得	・適切な勤務時間管理と業務効率化による時間外労働の削減や休暇の取得促進を図ることで総労働時間を短縮	P45
		労働災害ゼロをめざして	・社内委員会における労災分析などを実施	・「労働災害ゼロ」をめざし、安全点検などの実施とともに労災の分析結果を安全対策に反映	P45
		健全な労使関係の維持	・労使懇談会を開催し、意見交換を通じた相互理解と健全な労使関係の維持	・経営環境が大きく変化する中、雇用の安定を第一に、労使相互の信頼関係を維持	P45
	イノベーションの推進	・イノベーションポストの創設やイノベーションタイムの導入などによる社員一人ひとりのイノベーション活動の仕組み構築	・社内外のニーズやシーズを受け止め、アイデア・技術提案を活用した新規ビジネスの創出に向けたイノベーション活動の促進	P46	
環境報告	地球温暖化の抑制	高速道路ネットワークの整備	・高速道路ネットワークの早期整備(名二環) ・北陸道の盛土のり面で13haを樹林化	・高速道路ネットワークの早期整備(圏央道)や、付加車線事業などの渋滞対策の推進 ・北陸道の盛土のり面13haを樹林化し、すべての盛土のり面の樹林化(1,300ha)を完了	P50-P52
	省エネルギーへの取り組み	・再生可能エネルギーの採用 ・足柄SAなどの「エコ・エリア」5箇所の店舗整備	・再生可能エネルギーの採用を推進 ・「エコ・エリア」4箇所の店舗整備	P52-P54	
	3R資源の推進	廃棄物の発生抑制・再使用・再生利用	・長寿命の照明ランプを採用することによる廃棄物の発生抑制 ・植物発生材のリサイクルを継続実施	・建設副産物の発生が少ない設計・施工・適切な工法選択による、資源の3R長期目標値の堅持	P55-P56
	地域環境への配慮	生物多様性への配慮	・圏央道などのエコロードづくりの取り組みをCOP10関連事業などで紹介	・営業中路線の野生動物衝突状況のモニタリング及び対策の実証確認	P57-P59
		沿道環境への貢献	・COP10開催への積極的協力 ・「ハイウェイ緑の里プロジェクト」の継続実施	・地域性苗木の技術を活用し、自治体やNPOによる協議会への参画を推進 ・「ハイウェイ緑の里プロジェクト」の推進	P60-P62
	環境技術・環境マネジメント	技術開発の推進	・高速道路で発生する有機発生材の3Rシステムに関する研究の取りまとめ	・高速道路で発生する有機発生材の3Rシステムに関する研究の実証確認	P63-P64
		環境マネジメントへの取り組み	・CO ₂ 排出削減目標の設定及びISO14001の取得	・CO ₂ 排出削減の推進及びISO14001の認証範囲拡大	P65-P68

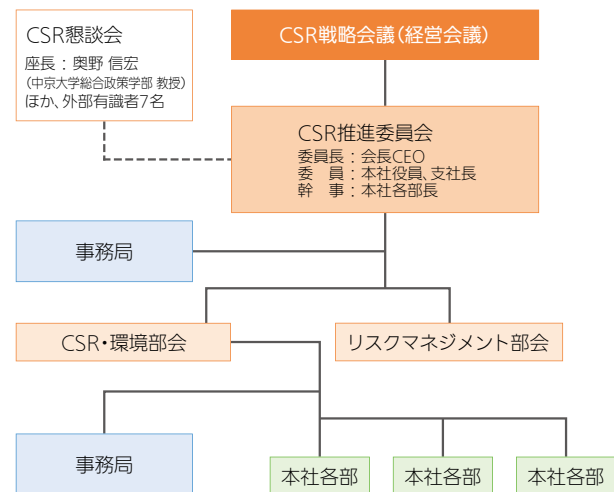
CSR推進体制

NEXCO中日本では、会長CEOが議長である「CSR戦略会議」のもと、CSR推進委員会において、当社のCSR活動を戦略的に展開していく体制を構築しています。

CSR推進委員会の設置

CSRに関するさまざまな取り組みをグループ全体で推進していくため、「CSR推進委員会」を設置しています。委員会は、各(事業)本部や支社の長から構成され、当社グループにおけるCSRの取り組み方針、CSR報告書などに関することを多角的に議論、検討しています。また、個別の案件を審議するため、委員会の下には「CSR・環境部会」、「リスクマネジメント部会」を設置しています。

2010年度は、CSR推進委員会を計5回開催し、CSR活動の重点領域、CSR報告書2010、CO₂削減目標などについて審議を行いました。



CSR意識の社員への浸透

CSRに関する研修をリーダー職層、担当者職層、新入社員に対して行っています。また、2010年度からの新たな取り組みとして、当社のさまざまなCSRの取り組みについて社員が情報を共有し、それぞれの組織が自ら取り組むべき施策を考え行動することを目的とした「CSR報告書を読む会」を開催しました。参加した社員からのCSR報告書についての提案をCSR報告書2011に取り入れました。2011年度は、グループ全体の各部署にCSR担当者を配置し、さらに当社のCSR活動を推進します。



「CSR報告書を読む会」の様子

コーポレートガバナンス

NEXCO中日本では、2006年5月に「業務の適正を確保するための体制に関する基本方針」を策定し、この方針に基づき、各種内部統制システムを整備しています。

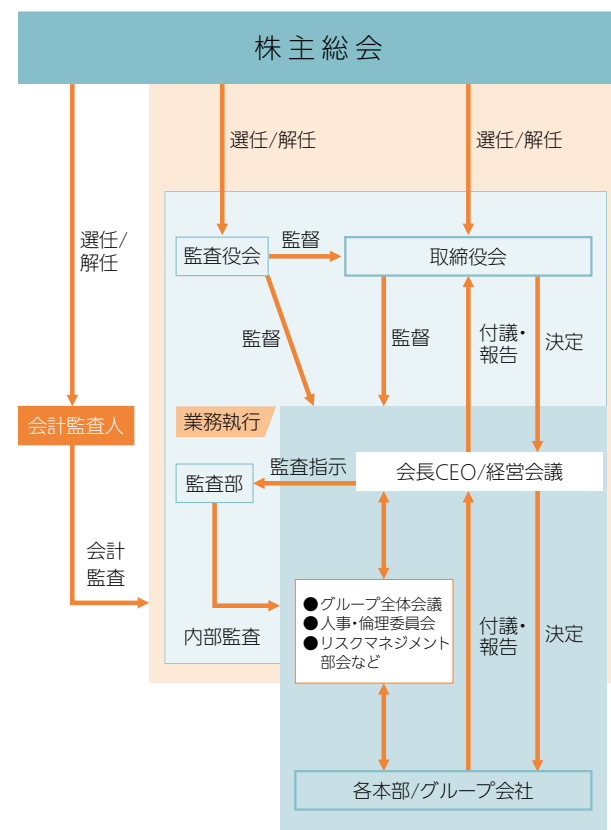
当社は、透明で健全な経営を行い、ステークホルダーの皆さまからの信頼と期待に応えるため、ガバナンスの充実に努めています。

取締役の職務執行が効率的に行われることを確保するための体制

定例の「取締役会」を月1回開催し、重要事項(グループ会社の経営に関する重要な事項を含む)について決定するとともに、取締役の職務執行状況を監督しています。

合わせて、取締役会の機能強化と経営効率の向上のため、全取締役、執行役員などをメンバーとする「経営会議」を月1回開催し、業務執行上の重要事項(グループ会社の経営に関する重要な事項を含む)について審議しています。

また、2007年6月からはグループ全体に影響する全社執行方針の決定・情報共有、グループ全体として共有すべき情報の伝達、確認などのため、全取締役、執行役員などに、グループ会社の社長などを加えた、グループ全体の会議を定期的で開催しています。なお、監査役はこれらすべての会議に出席し、社内全般の業務執行を監査しています。



リスクマネジメント

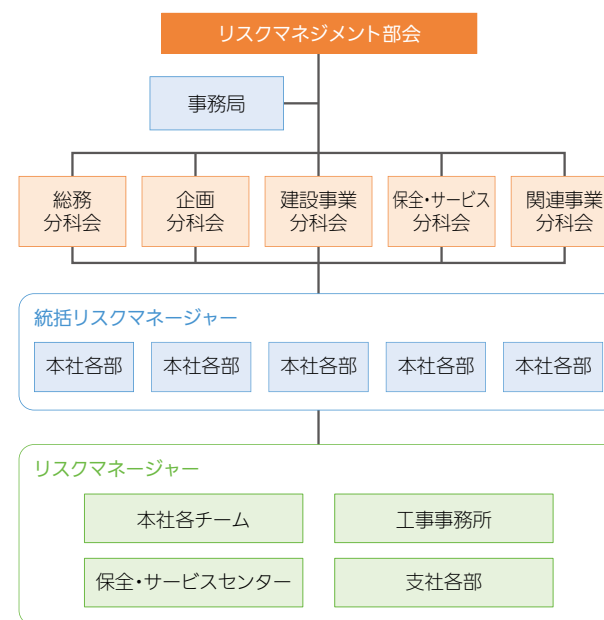
NEXCO中日本グループでは、事業活動に関わるさまざまなリスクに適切に対処するため、内部統制システムの一つであるリスクマネジメントシステムを整備し、グループ全体でリスクマネジメントシステムの確実な運用を図っています。

リスクマネジメント体制

当社が果たすべきミッションの達成を阻害するものをリスクとしてとらえ、全社的視点に立ち、合理的かつ最適な方法で管理するため、「リスクマネジメント規程」や「リスクマネジメント実施要領」を定めています。

また、リスクマネジメントの全社横断的な統括を行うため、「リスクマネジメント部会」を設置しています。

なお、2009年4月からはグループ各社においてもリスクマネジメントシステムを導入し、グループ全体でリスク管理を行っています。



業務継続計画(BCP)

2010年度に策定した大規模地震を想定した業務継続計画を全社展開し、グループ一体となった防災体制をさらに強化します。また、新型インフルエンザ感染拡大に備え、維持管理業務などについて策定した業務継続計画に基づき、高速道路としての機能を保持する体制を強化しています。

コンプライアンス

NEXCO中日本グループがめざす企業像である「より良い会社でより強い会社」の実現に向けてコンプライアンスを徹底しています。単なる法令遵守でなく、社会的要請へ適切に対応することと捉え、積極的取り組みを行っています。

行動規範の整備と周知徹底

2007年8月に「中日本高速道路グループ倫理行動規範」を制定し、役員、グループ社員一人ひとりが高い理念と規範に基づき行動することを認識して、さまざまな局面で実践することとしています。そして、グループ全体の高い倫理観の醸成を図るために、倫理行動規範やコンプライアンスの内容について、社内電子掲示板への掲載や、携帯用カード・マニュアル冊子の配布などにより周知徹底しています。

人事・倫理委員会の設置

役員及び社員の高度な倫理観の確立のために必要な事項や不祥事の原因究明及び未然防止のために講ずべき措置について検討することなどを目的として、外部有識者を委員とした「人事・倫理委員会」(委員長:杉田 和博氏 JR東海(株)顧問)を2005年11月に設置し、2010年度は2回(4月・1月)開催しました。

社内外相談窓口の設置

社内相談窓口として「コンプラホットライン」を開設し、コンプライアンスに関する通報・相談を通じて、社内秩序・規律の保持、不祥事の未然防止などを行っています。

このほか、セクハラに関する社内相談窓口やグループ全体を対象とした社外相談窓口である「コンプラ弁護士ホットライン」など、社員の相談に対する窓口体制の充実を図っています。

▼コンプラホットライン



社員研修・外部講師によるセミナーなどの実施

▼2010年度のコンプライアンスに関する取り組み

項目	内容と実施状況
社内研修	各階層別に社内500名が受講
eラーニング	Web上での研修(グループ内2,600名が実施)
外部講師のセミナー	「飲酒運転撲滅に向けて」、「失敗から学ぶ組織管理」、「思考停止とコンプライアンス」、「コンプライアンスに関して(不当要求対応)」
その他	職場意見交換会(2回/年)、コンプライアンス意識調査(1月)

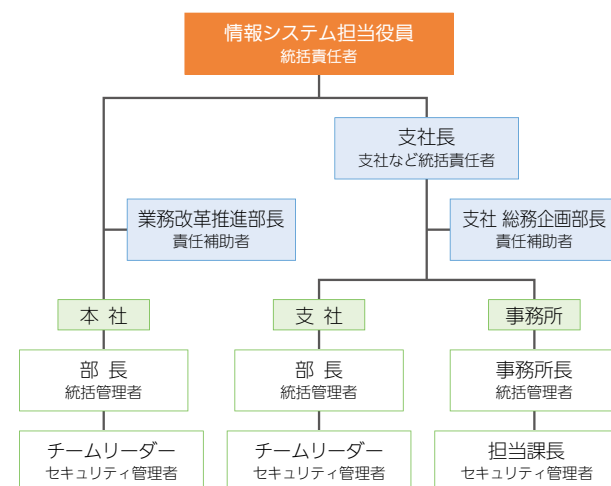
情報セキュリティ

NEXCO中日本グループでは、個人情報をはじめとする情報資産の安全確保のため、引き続き情報セキュリティ対策の充実・強化を図るとともに、業務改革をサポートする総合ICTマネジメントを推進していきます。

情報セキュリティの推進体制

情報システム担当役員のもと、業務の効率化に資するシステム開発を行う一方、日々高まるセキュリティリスクに対応してセキュリティ対策のアップデートや最新技術を採用した対策強化の取り組みを行っています。

特に情報セキュリティ推進体制として、支社・事務所などについては「統括管理者」「セキュリティ管理者」を配置し、各職場レベルまで包括した情報セキュリティ管理体制を構築しています。



情報セキュリティの意識向上と対策

社員の情報セキュリティの意識向上と取り組みの課題確認のため、毎年「情報セキュリティセルフチェック」を行うとともに、各職場より代表者（アフィリエイトスタッフ）を集め、最新のセキュリティ動向を伝え、脅威への対策について議論を行っています。

2010年度の情報漏えい事例はありませんが、いつ発生するかわからないことを念頭にさらなるセキュリティ対策を進めていきます。

主な情報セキュリティ対策

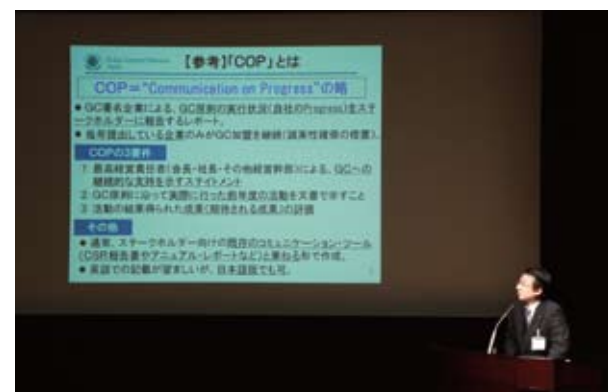
- ・カード認証（フェリカ）の導入
- ・個人の外部記憶媒体の持ち込み禁止
- ・入退室管理システムの導入
- ・PC操作記録システム（SeP）の導入
- ・暗号化ソフトの導入
- ・ウイルス対策機能を持ったUSBメモリの導入

国連グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク（GC-JN）での活動

当社はGC-JNにおいて、CSR報告書研究分科会、地球温暖化分科会、生物多様性分科会に加入しており、特に2009年度からはCSR報告書研究分科会の幹事会社として、分科会加入企業の方々とともに相互のCSR感度の向上に努め、GC-JN参加企業全体のCSR報告書改善に向けた取り組みを行っています。

2010年10月には、グローバル・コンパクト本部より「Notable COP※」の表彰レターをいただきました。また、2010年11月には、「国連グローバル・コンパクト10周年記念シンポジウム」でCSR報告書研究分科会を紹介しました。

生物多様性分科会では、オープンセミナーを開催し、当社のCOP10への関わり、生物多様性への取り組みを紹介しました。



シンポジウムの様子



オープンセミナーの様子

※ COP（Communication On Progress）とはGC加盟企業からステークホルダー、GC本部への義務的な年次活動報告であり、「GC10原則の実現」などについて各企業における取り組みなどが具体的に記載されたものです。「Notable COP」とは優れたCOPであることを意味します。



社会的報告

私たちは、あらゆるステークホルダーの皆さまとのパートナーシップを大切に事業活動を展開しています。日本の基幹交通を担う高速道路の建設・管理などを通して、社会の一員としての企業の社会的責任を果たしていくために、これからも社員一丸となってCSR活動の充実に努めていきます。

目次

お客さまとともに	P25
国民（株主）の皆さまとともに	P33
地域社会とともに	P35
国際社会との関わり	P41
取引先の皆さまとともに	P43
社員とともに	P44

お客さま第一の徹底

NEXCO中日本グループ全体で事業活動を通じてお客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまの満足の向上に努めます。CS活動や社員教育を推進していくことにより、「お客さま第一」を徹底し、信頼と好感を得られる企業をめざします。

推進体制

お客さまのご意見・ご要望をグループ内で速やかに共有し、迅速に企業活動に反映するため、2010年度にグループ全体の共有システムを整備しました。

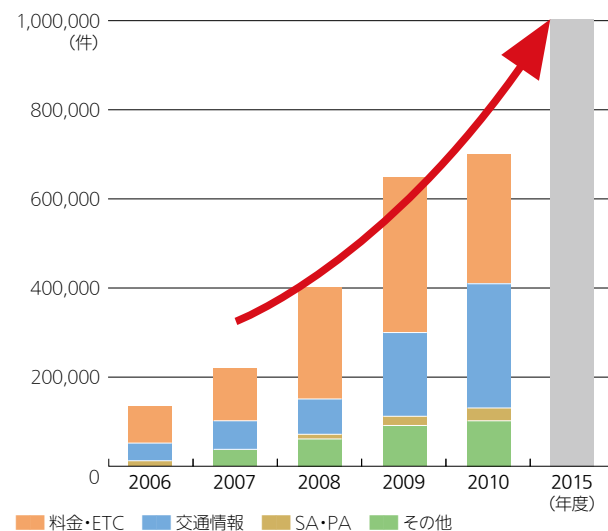
また、「お客さま第一」を徹底するため、お客さまセンターの体制や社員教育の充実を図り、CS向上を推進しています。

お客さまセンターにおける対応の品質向上

すべてのお客さまからのお問い合わせに対応できるように、季節や曜日特性を踏まえた適切な人員の配置を行うとともに、対応処理時間の短縮を図ることで、着信率平均90%を確保しました。

さらに、業務支援チームによるコールセンターの内部評価を行うとともに、お客さまアンケートを実施し、対応品質の向上に努めました。

増加するお客さまの声



NEXCO中日本お客さまセンター

社員教育

グループ会社を含めた社員に対して、研修・講習会を実施し、「お客さま第一」をグループ全体で徹底しています。また、マスコミから講師を招き、緊急時の広報のあり方についてセミナーを開催するなど、広報に関する多面的な教育を行っています。さらに、増大するお客さまの声に対応するオペレーターの教育にも力を入れています。

▼社内研修などの概要

研修名	研修概要
広報基礎研修(9月)	効率的・効果的な外部発信を行うための広報について
広報専門研修(11月)	「危機管理広報」を中心とした内容
広報セミナー(テレビ局、通信社に講師を依頼)(6月、12月)	「報道番組のできるまで」「TV経済ニュースについて」
CS講習会(適宜)	グループを含めた社員に対し、CS向上に向けた啓発



社内広報セミナー(講師:NHK)

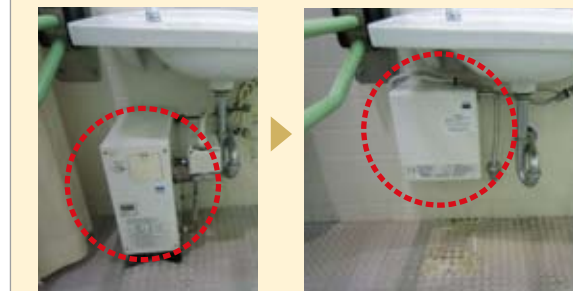


オペレーターの料金所(名二環)での現場研修

TOPICS お客さまの声の反映事例

～障がい者用トイレの改修～

「障がい者用洗面台を車椅子で使用する場合、下部に設置されている機器が支障となり使用しづらい」とのお客さまの声をいただき、速やかに小型のものに交換しました。



お客さまとのコミュニケーション

お客さまにNEXCO中日本グループをより一層ご理解いただくために、グループ一体となって、統一的で効果的な広報・広告活動を展開していきます。また、各種イベントなどを通じて、お客さまと直接ふれあうコミュニケーションも大切にしています。

メディアを使用した広報・広告

重要な社会インフラであり安全・安心・快適な高速道路の価値と、それを支える当社グループが、最高水準のサービスを提供する世界一の高速道路会社をめざす姿勢を広く皆さまに知っていただくために、メディアを活用した広報を展開しています。




上戸彩さんにもご出演いただき、グループ一体となって高速道路を支えていることを表現したテレビCM(2011年4月放映)

ホームページの充実

2010年9月に英語版Webサイトをリニューアルするとともに、中国語、韓国語対応のサイトを開設し、季節ごとの観光情報を提供するなど、外国語版Webサイトの充実を図りました。

また、積極的な情報開示のため、ホームページを活用し、地域情報、企業情報、IR情報、契約情報などの迅速な掲示を行っています。

 NEXCO中日本 Webサイト <http://c-nexco.co.jp>



英語版Webサイトのトップ画面

お客さま感謝イベントの実施

当社グループの事業を紹介するとともに、お客さまとのコミュニケーションを図るため、2010年度はお客さま感謝イベント「ゴーイング☆ハイウェイ2010」などさまざまなイベントを開催しました。また、地域で開催されるイベントにも積極的に出展し、地域のお客さまとのコミュニケーションを図りました。

▼主なお客さま感謝イベント

イベント名	期間	場所
旅フェア2010	5/28～30	幕張メッセ
緑のカーテンプロジェクト	5月～10月	サービスエリア・パーキングエリア
ISAP道のテクノロジー展	8/1～3	名古屋国際会議場
ゴーイング☆ハイウェイ2010	9/25～10/10	サービスエリア16箇所
メッセナゴヤ2010	10/27～30	ポートメッセなごや
ハイウェイテクノフェア	11/11～12	東京ビッグサイト



ゴーイング☆ハイウェイ2010 in 賤ヶ岳SA



旅フェア2010



中央道 双葉SA(下り) 緑のカーテン収穫祭

交通事故対策

お客さまに安全で安心してご利用いただける高速道路空間を提供するため、事故多発箇所や重大事故発生箇所における対策の実施、逆走事故防止対策などを進めるとともに、高速道路の安全走行ガイドの配布や交通安全セミナーの実施による安全啓発活動を進めています。

事故多発箇所における対策

事故多発箇所や重大事故発生箇所の事故防止対策効果の検証や状況調査を行い、速度抑制レーンマーク、薄層舗装（凹凸のある舗装）、高輝度レーンマーク、道路管理用カメラ、渋滞末尾警告システム、逆走防止装置などの必要な対策を、関係機関と協議・選定し、実施しています。



速度抑制レーンマーク

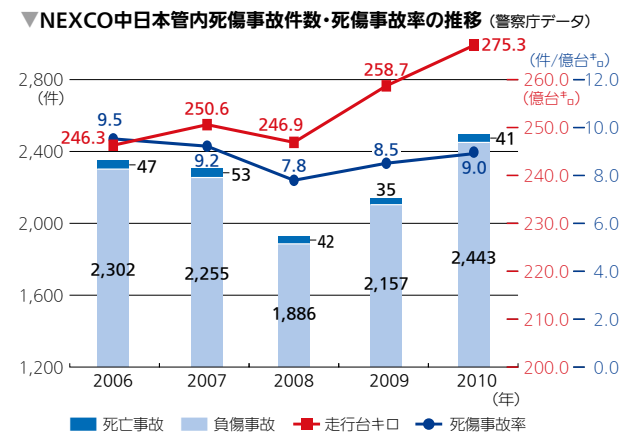


薄層舗装



逆走防止装置

当社管内での死傷事故の発生件数は、2005年度から減少傾向にありましたが、2009年度以降事故率は増加傾向にあります。事故が多発する箇所や重大事故の発生箇所について、事故の発生状況や原因など、事故データを分析し、事故・安全対策を実施してさらなる安全性の強化に努めています。



ITSスポットによる新たな情報提供

2010年度末よりITSスポットの社会実験においてリアルタイム情報の活用による安全運転支援や広域交通情報を提供しています。また、ITS技術を活用した地域連携、社会やお客さまニーズに対応した新たなサービスについて、関係機関と共同して検討します。

また道路保全の視点からの安全運転支援システムの展開として、次世代交通管制システムの構築、路車間の連携強化、画像処理技術の活用、維持管理車両への最先端の車両技術の応用などを図ります。



ITSスポット機器

ITSスポット：情報提供サービスや情報決済サービスなどの高速大量通信を行うため、路側帯に設置される無線機器



ITS対応カーナビ画面



交通安全の啓発活動

お客さまに高速道路の「要注意箇所」や安全走行のアドバイス、各種事故対策などをご紹介した「気をつけガイド」を継続配布するとともに、交通事故の発生状況や安全走行のポイントなどをお客さまに直接お伝えする交通安全の学習会「交通安全セミナー」を2010年度までに約8万名の方々に受講いただきました。

今後は、「お客さまや関係機関と協働した交通安全啓発活動」を積極的に実施します。このため、これまでの取り組みに加え、お客さまの安全意識の変革を推進するために『高速道路の運転マナーガイド』を策定し、安全啓発効果を高めるための活動を実施します。



気をつけガイド



交通安全セミナー

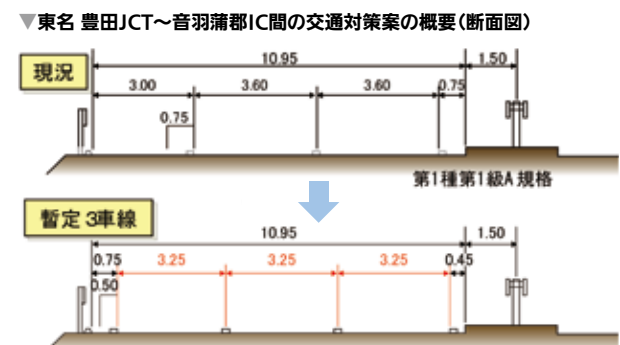
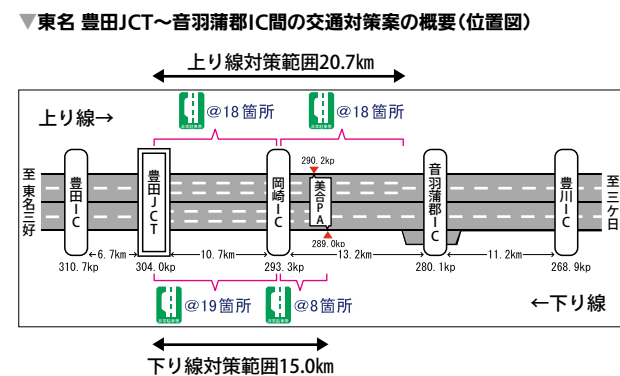
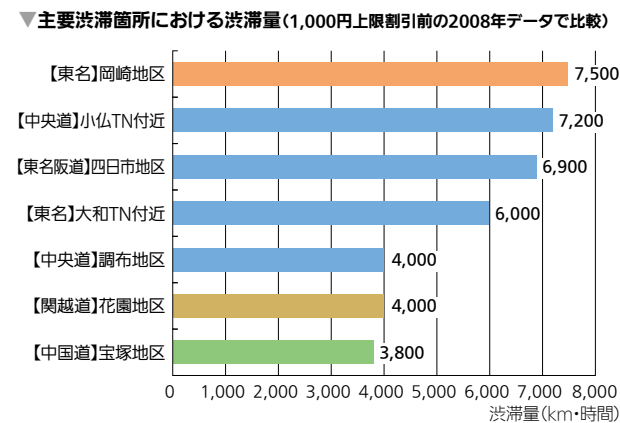
交通渋滞対策

安全・渋滞対策の推進のため、2車線の一部区間を3車線化する暫定運用や、付加車線の設置を行うとともに、既存高速道路ネットワークの機能強化の推進のため、LED標識による情報提供、モバイルを活用した渋滞予測の配信などを実施し、渋滞緩和に向けた取り組みを行っています。

3車線（暫定）運用

渋滞量が全国で最大規模である東名 岡崎地区の渋滞・事故対策として、新東名開通までの間、現在の2車線を暫定的に3車線運用する工事に着手し、2011年秋より運用を開始します。

また、同様に渋滞の激しい東名阪自動車道（東名阪道）四日市地区についても、並行する新名神が開通するまでの間、さらなる渋滞対策の検討を進めます。



付加車線の設置

安全・渋滞対策や既存高速道路ネットワークの機能強化のため、付加車線の設置を進めています。

道路名	区間	延長	完成年度
中央道（下り）	元八王子BS付近	1.0km	2011
東名（上り）	海老名JCT付近	0.6km	2012
東名（上り）	海老名SA付近	0.8km	2017



中央道 元八王子BS付近



東名 海老名SA付近

LED標識による情報提供

サグ部（下り坂から上り坂に変わる部分）などの速度低下に起因する渋滞多発箇所にLED標識板を設置し、お客さまへ速度回復の呼び掛けを行うことにより、渋滞規模の軽減を図っています。



LED標識板



モバイルを活用した渋滞予測情報の提供など

携帯Webサイトを活用した情報提供TDMを、中央道では2008年10月より、東名では2009年4月より実施しています。

Webサイトを通じ、高速道路の渋滞予測や所要時間予測に関する情報を提供することで、お客さまに事前に渋滞を避けることができる走行を検討していただくことができます。また事前登録いただいたお客さまには、渋滞予測情報を自動的にメール配信しています。

東名においては、GWなどの交通混雑期の渋滞時間帯以外に走行いただく「渋滞減らし隊キャンペーン」を実施し、お客さまのご協力により渋滞緩和を図っています。

「安全・安心・快適」な次世代の 高速道路空間の創出

新東名リーディングプロジェクトにおける実証実験を踏まえて、「世界をリードする高速道路システム」を構築します。

■新東名リーディングプロジェクト

当社は、日本の最先端技術を活用した、世界で最も安全で環境負荷の少ない道路交通システムを具現化するため、新東名の静岡県内の概成区間で、2009年度から、さらなる安全性・快適性の向上、環境負荷の低減、コストの縮減などをめざした新技術・サービスの実証実験を行っており、その結果を踏まえて、新東名において各種サービスを着実に展開します。

【主な導入メニュー】

■迅速かつ的確な道路情報の提供

⇒自動事象検知による突発事象情報、渋滞伸縮・通行止め解除見込み情報 など

■トンネル内の安全対策

⇒走行しやすく環境負荷を低減する新たなトンネル照明（プロビーム方式のセラミックメタルハライド・LED）、新たな非常口避難誘導表示 など

対称照明 対称照明では路面は明るく、車はやや暗く見えます。



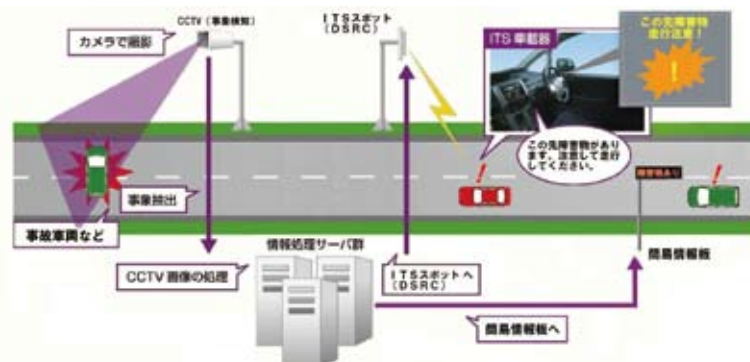
プロビーム照明 プロビーム照明では路面は暗く、車は明るく見えます。



▼新東名リーディングプロジェクト

視 点	長期目標 (新東名の全線開通時(2020年)以降)
安全・安心の実現	・交通事故死亡者限りなくゼロをめざす ・交通事故件数、負傷者数半減をめざす 特に、大型車に起因する悲惨な事故撲滅をめざす
環境への配慮	・二酸化炭素排出量半減をめざす
多様な ライフスタイルの 実現	・SA・PAなどでのユニバーサル対応、 環境保全※1、情報アクセス完備※2をめざす ※1 太陽光発電の導入など ※2 無線LANの全施設整備(本線含む) など
活力ある社会実現	・幹線部の自動車貨物輸送コスト半減をめざす ・安定した速達性、定時性確保をめざす

▼自動事象検知による突発事象情報の提供



美しく清潔で、誰もが使いやすい お手洗い空間の創造 など

⇒ 情報コーナー（多言語表示）、パウダーコーナー、ピクトサイン など



情報コーナー



パウダーコーナー



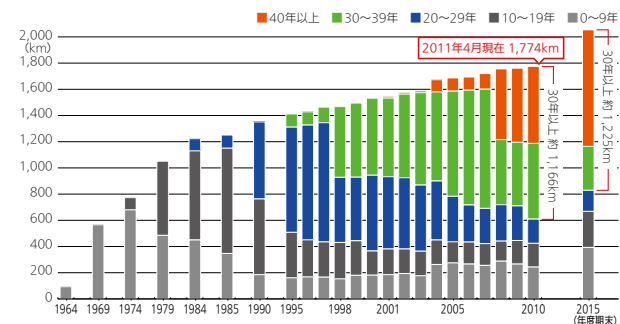
車イスの方によるお手洗いの実証実験

「百年道路」計画の推進

お客さまに安全で安心してご利用いただける「百年道路」をめざして、道路構造物の老朽化、車両の大型化、交通量の増加などの環境変化に対応し、良好な道路資産の維持に向け、効果的かつ効果的な道路機能保全対策を推進します。

■高齢化した高速道路ストックの現状

▼営業中路線延長の推移



当社グループが管理する高速道路(1,774km、2011年4月現在)のうち、供用後40年を経過する東名・名神高速道路(名神)をはじめ、供用後30年を経過する道路が全体の約7割を占めます。4年後の2015年には、経過30年以上の高速道路はさらに60km増加することになり、高齢化する高速道路ネットワークの長期的な保全事業(適切な点検と集中的な補修・補強)の計画立案が急務となっています。

■高齢化した道路構造物 (橋梁、舗装、施設設備)の損傷事例



橋梁の損傷事例/
床版下面亀甲状ひび割れ



施設設備の損傷事例/
道路照明の腐食



舗装の損傷事例/
舗装路盤面のひび割れ



施設設備の損傷事例/
情報板の機能低下

■「百年道路」計画の実行

高齢化する高速道路ネットワークに対し、国民生活に必要な不可欠な高速道路を健全な状態で百年以上維持し、後世に優良な道路資産を継承するため、対症療法的な「事後保全」から「計画保全」への転換を推進する「百年道路」計画を2011年度から実行します。

また、「百年道路」計画の策定に向けて、既存構造物の点検・評価技術及び補修・補強技術の開発を行い、「百年道路」計画に活用することや、新規ネットワークの完成に合わせた交通規制計画、並びに工事実施計画を策定し、工事実施の関係機関調整を実施します。

■安全点検、補修の実施

道路の異常を早期に発見し、安全で快適な走行環境を確保して、お客さまなどへの被害を未然に防止するため、路面・のり面・橋梁などの道路構造物や施設設備(道路照明など)の点検を日常的、または定期的の実施しています。

橋梁のコンクリート片のはく落などによる第三者被害防止に向け実施した緊急安全点検の結果に基づき、ほかの道路との交差点所などの対策を2012年度までに完了します。また、補修完了後も点検を継続し、「百年道路」計画に基づき構造物の適切な管理を行います。

■補修の実施 橋梁補修における事例

断面修復+床版防水



断面修復(コンクリート打設)



床版防水工施工状況

床版増厚



床版増厚施工状況(1)



床版増厚施工状況(2)

床版取替



床版取替施工状況(1)



床版取替施工状況(2)

より快適な高速道路空間をめざして

多様化するお客さまのニーズにお応えし、「お招き」と「おもてなし」の心でお迎えするため、常に「お客さまの声」に耳を傾け、いただいたご意見・ご要望について積極的に対応し、お客さまに快適に走行していただける高速道路空間を提供します。

情報提供の充実

渋滞発生・異常気象・事故・工事などに関する道路交通情報を、より迅速かつきめ細やかに提供します。

ハイウェイラジオやハイウェイテレホン(2009年4月には短縮ダイヤルを#8162に全国統一)、情報板などを活用するとともに、携帯サイトの充実(「I Highway 中日本」の運用を2009年4月から開始)を行いました。さらなる詳細情報の提供や使いやすさをめざし、渋滞原因・渋滞通過時間の表示追加、事故渋滞時の作業進捗情報の提供などのバージョンアップを実施するとともに、通行止め解除見込み情報についても提供頻度の向上をめざします。

▼交通情報携帯サイト「I Highway 中日本」



2010年度末よりITSスポットの社会実験において経路選択を支援する広域交通情報や安全運転支援情報などを提供しています。

2011年度からは情報提供内容の充実を図っていくとともに、関連事業情報や地域連携情報など、ITSスポットを活用したサービスの検討を始めます。

▼ITSスポットによる高速道路本線、SA・PAでのサービス提供例



お手洗いの美化など

休憩施設におけるサービスレベルの向上とユニバーサルデザインを推進します。すべてのサービスエリア・パーキングエリアで、2012年度までにお手洗いの段差解消、障がい者駐車場の上屋整備、オストメイト対応、洗面台の温水化などを行います。

清潔で快適なお手洗いを実現するため、改築によるお手洗いの美化や女性用お手洗いの増設を推進するとともに、節水型便器、LED照明、複層ガラスなどを採用し省エネに努めます。さらにお手洗いを快適にご利用いただけるよう設備故障の迅速な対応や心のこもった清掃に努めます。



お手洗いの段差解消



オストメイト対応トイレ

▼2010年度までの実施状況

	段差解消	オストメイト 対応トイレ	洗浄器付 便座	洗面台 温水化	和式トイレ 洋式化
整備箇所累計数 ()内は2010年度実施分	171 (0)	168 (2)	2,994 (188)	164 (0)	3,341 (140)
実施率	93%	92%	77%	90%	86%

※段差解消、オストメイト対応トイレ、洗面台温水化の整備箇所数は、整備済みのSA・PA数を示します。

※洗浄器付便座、和式トイレ洋式化の整備箇所は、整備済みの基数を示します。

ETCの利便性向上

ETCの普及に伴い、ETCレーンにおける安全性の向上に努めます。ETCレーンのトラブル削減に向けて、ETCカードの未挿入などを事前にお知らせする「お知らせアンテナ」の整備を推進するとともに、ETCレーンにおける速度抑制対策を継続して実施します。

また、ETCレーンでトラブルが発生した場合でも円滑にETCをご利用いただくため、ETCレーン複数化の整備を進めています。2010年度は28箇所の整備を行い、2013年度までにすべて完了する予定です。



お知らせアンテナ



ETCレーンの複数化

新事業によるサービスの展開

NEXCO中日本グループでは、お客さまに高速道路のファンになっていただくためのサービスとして旅行業やカードサービス事業などを推進するとともに、地域・社会に貢献できる新たな事業領域に挑戦します。

「環境に配慮した取り組み」を見学するバスツアー

これまでの「建設中の高速道路ウォーキングツアー」や「高速道路探検隊」に加え、2010年度は新たに、太陽光発電や壁面緑化など、「環境に配慮した取り組み」を行っている高速道路の建設現場や管理施設を見学するバスツアーを実施し、約2,000名のお客さまに高速道路事業への親しみとご理解を深めていただきました。

今後はこれらのツアーに加え、他企業の素材なども組み合わせ、他の旅行会社が取り組めない当社ならではのツアーを開発していきます。



開通前の名二環で太陽光パネルを見学

高速道路の建設現場から採取した地域性苗木※を育成している(株)高速道路総合技術研究所の「緑化技術センター」を見学

※地域性苗木：P59参照



カードサービスの拡大

カード会員の皆さまに、よりお得なカードとして利用していただくため、期間中の利用額が多ければ多いほど上乗せするポイントが増えるキャンペーンなどの各種利用促進策を実施しました。その結果、年間のクレジットカード利用額が前年度比107.3%となりました。

また、ポイント交換方式による、東日本大震災の募金を実施し、カード会員の皆さまが交換されたポイント額を、日本赤十字社へ寄付しています。



キャンペーンバナー

Webサイトの充実

Webサイト『高速日和』では、料金検索エンジン「ドライブコンパス」内で、わかりやすく高速道路の料金やルートの案内サービスを提供しています。

また、当社社員が運営するブログ『NEX子中日本 HAPPY☆ドライブ』におけるサービスエリアのお勧め口コミ情報をはじめとして、四季折々のお勧めのドライブ・観光情報などを提供していますので、ご旅行を計画される時などにお役立てください。

なお、2011年度夏休み前をめざして社内のWebサイトの統合の準備を進めており、さらなるWebサイトの利便性向上に取り組んでいきます。



『高速日和』トップ画面



『NEX子中日本 HAPPY☆ドライブ』トップ画面

占用施設活用事業の実施

高速道路の有効スペースを活用した事業として、現在、東名や中央道などの高架で駐車場を営業しています。また、無人パーキングエリアなどに地域貢献型自動販売機(平時は文字ニュースで情報発信、災害などの発生時には遠隔操作で飲料を無償提供)の設置を進め、2010年度には4箇所で増設しました。



中央道高架下駐車場



地域貢献型自動販売機

資金調達とIR活動

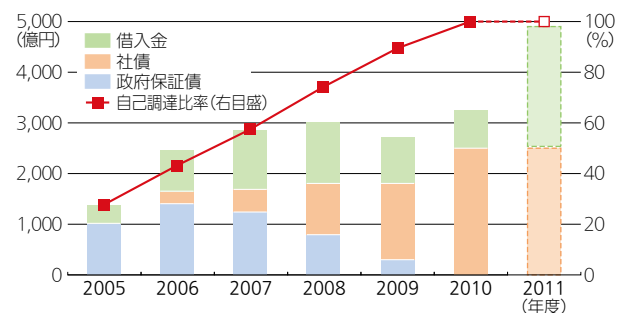
NEXCO中日本では、投資家・金融機関の皆さまとの『ONE on ONEミーティング』や建設現場見学会などの積極的なIR活動を通じ、事業活動への理解を深めていただくことで、長期的・安定的な関係を築いていくことにより、柔軟な資金調達を行っています。

資金の自主調達の拡大

2005年の会社設立以降、資金の自主調達を拡大し、政府保証債の発行は、2009年度を最終年度として、2010年度は必要資金の全額を自己調達により確保しました。

2011年度以降もマーケット動向を注視しながら、社債を主軸とした低利で安定的な資金調達を行います。

▼資金調達額と自己調達比率の推移



情報開示

「金融商品取引法」などの各種法令・規則に沿って作成する有価証券報告書などはもとより、投資判断に重要な企業情報を積極的かつ公正に開示しています。また「IR情報」サイトを開設し、タイムリーで充実した情報を発信しています。

IR情報 <http://www.c-nexco.co.jp/corp/ir/>

社債の格付け取得

当社への投資にあたっての客観的な評価の拡充のため、以下のとおり格付けを取得しています。なお、いずれも日本国債と同じ高い格付けとなっています。

▼格付投資情報センター(R&I)／長期個別債務格付け

2006年12月20日取得

AAA	AA	A	BBB	BB	B	CCC	CC	D
+	+	+	+	+	+	+	+	+

▼ムーディーズ・ジャパン(Moody's)／発行体格付け

2008年4月23日取得

Aaa	Aa	A	Baa	Ba	B	Caa	Ca	D
1	2	3	1	2	3	1	2	3

高 ← 信用力 → 低

公正・効率的な料金収受

お客さまに、公平に通行料金をご負担いただくため、「不正通行は許さない」との強い姿勢で、グループ一体となり、不正通行車両対策の強化に取り組んでいます。

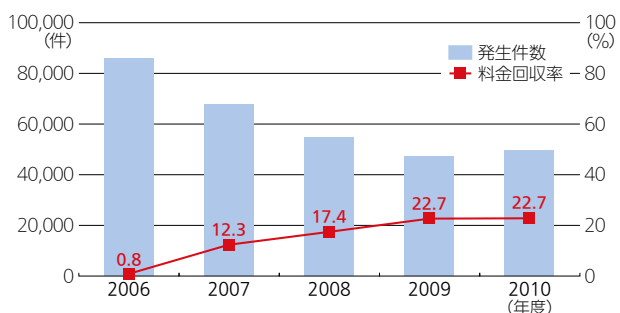
また、機械化・集約化など料金収受業務の効率化を図っています。

高性能カメラ、開閉バーの設置

主要な料金所の一般レーンには、未課金車両を捕捉するための高性能カメラを設置し、未課金車両のデータベース化を図るとともに、開閉バーを設置することで、車両の特定や不正通行の抑止に努めています。

2010年度は、未課金車両のうち、約11,000件について適正料金を回収しました。このほか、通行料金の支払いに応じていただけない場合は、支払い訴訟も実施しています。警察とも連携して、不正通行ゼロをめざし、引き続き対策を行います。

▼未課金通行発生件数と適正料金回収率の推移



高性能カメラ



開閉バー

料金収受業務の効率化

「対距離型料金精算機」の整備を進めるほか、スマートインターチェンジの管理を集約して実施するなど業務の効率化に努めています。



対距離型料金精算機



東名 遠州豊田スマートIC

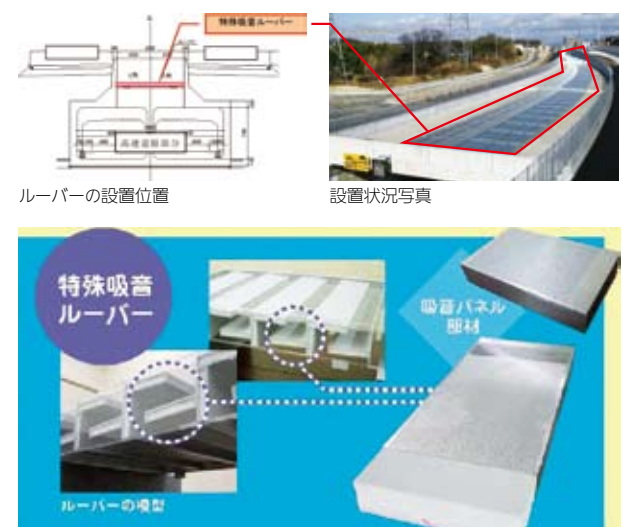
コスト削減とインセンティブ助成金

事業の実施にあたっては、ICT(インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー)の活用による新技術・新工法の積極的な採用、資機材調達の工夫などにより不断のコスト削減を進めます。

これらの成果に基づき、事業の実施段階に応じたインセンティブ助成金の交付申請を行っています。

コスト削減の事例

2010年度に開通した名二環(名古屋南JCT～高針JCT)の掘削構造区間の環境対策として、模型実験・性能確認試験を経て、新型の特殊吸音ルーバーを開発し、建設コストの削減を図っています。



ルーバーの簡易模型など

ICTの事例

新東名ではICTを活用した効率的な現場施工として、自動追尾トータルステーション(TS)により、路盤工などの施工を行っています。これにより精度の高い施工や品質向上につなげています。



路盤工施工状況



TS



モニター

インセンティブ助成金

高速道路会社の経営努力により高速道路の新設、改築または修繕に関する工事に要する費用を削減した場合、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構に対してインセンティブ助成金(削減額の一定額)の交付を申請することができ、承認されれば受け取ることができます。

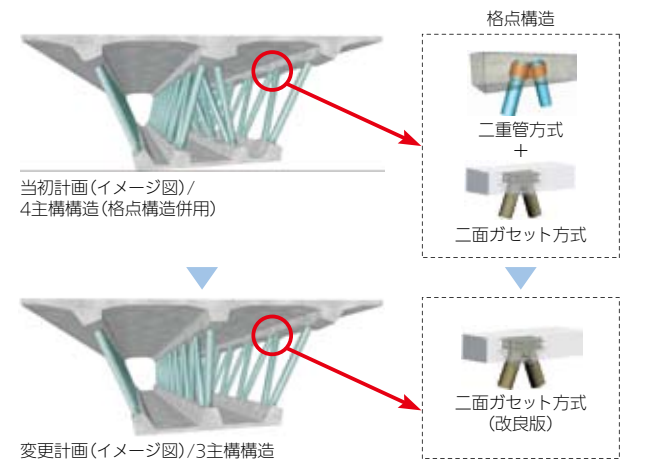
インセンティブ助成承認事例

複合トラス橋の4主構から3主構への変更及び格点構造の見直し ～新東名(長泉沼津～三ヶ日JCT)～

橋桁を架ける工事において、先行して施工を行った下り線は、二重管方式及び二面ガセット格点構造を併用した4主構構造(新技術)を採用しました。

その後、上り線の施工を行うにあたり、先行して施工された下り線において得られた知見をもとに、工費の大きな部分を占めている鋼トラス材を減らす検討を行いました。

その結果、上り線は3主構構造へ変更することで、格点構造の見直しが可能となり、工事費の削減を図ることができました。



変更計画(イメージ図)/3主構構造

技術・ノウハウの活用

NEXCO中日本グループがこれまで蓄積した高速道路の建設、管理に関する技術・ノウハウを活用し、コンサルティング業務を行います。

新直轄事業への参画

高速道路ネットワークの円滑かつ効率的な構築のため、新直轄区間において工事監理などの技術的支援に積極的に参画します。

・中部横断自動車道 富沢～六郷(28km)

スマートICなどの整備

お客さまの利便性の向上、さらには地域間の連携の強化、地域生活や産業の活性化などを目的に、スマートICなどの整備を進めています。

スマートICの整備

スマートICは、2010年度に新たに1箇所を整備し、現在12箇所で運用しています。現在事業中の10箇所について、地域との連携やコスト縮減を行いながら着実に整備します。

▼スマートIC一覧(運用中)

運用開始年度	路線：スマートIC名称
2006	北陸道：①入善、②徳光 中央道：③双葉
2007	東名：④富士川、⑤遠州豊田 東名阪道：⑥龜山PA
2009	東海北陸道：⑦ひるがの高原 東海環状道：⑧鞍ヶ池 北陸道：⑨南条、⑩安宅、⑪流杉
2010	長野道：⑫梓川

▼スマートIC一覧(事業中)

完成予定年度	路線：スマートIC名称(仮称)
2012	中央道：⑬府中 新東名：⑭静岡SA、⑮浜松浜北 東海環状道：⑯五斗蒔
2013	名神：⑰湖東三山
2014	東名：⑱守山 中央道：⑲富士吉田北 東海北陸道：⑳南砺 北陸道：㉑高岡砺波
2015	東名：㉒大井川藤枝

追加JCT、ICの完成

高速道路の利便性を向上するため、高規格幹線道路や地域高規格道路と接続する追加JCTや追加ICを整備します。

▼追加JCT・IC完成予定

完成予定年度	路線：JCT・IC名称(仮称)
2011	伊勢湾岸道：東海JCT 中央道：都留IC 北陸道：白山IC
2012	名神：養老JCT
2013	東海北陸道：西尾張IC

長野自動車道(長野道) 梓川スマートICの整備効果

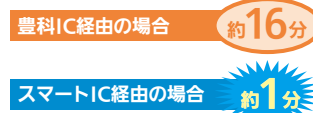
梓川スマートICが整備されたことで、周辺にある商工業施設や病院へのアクセスが便利になっています。

＜所要時間、一般道路走行距離の短縮＞

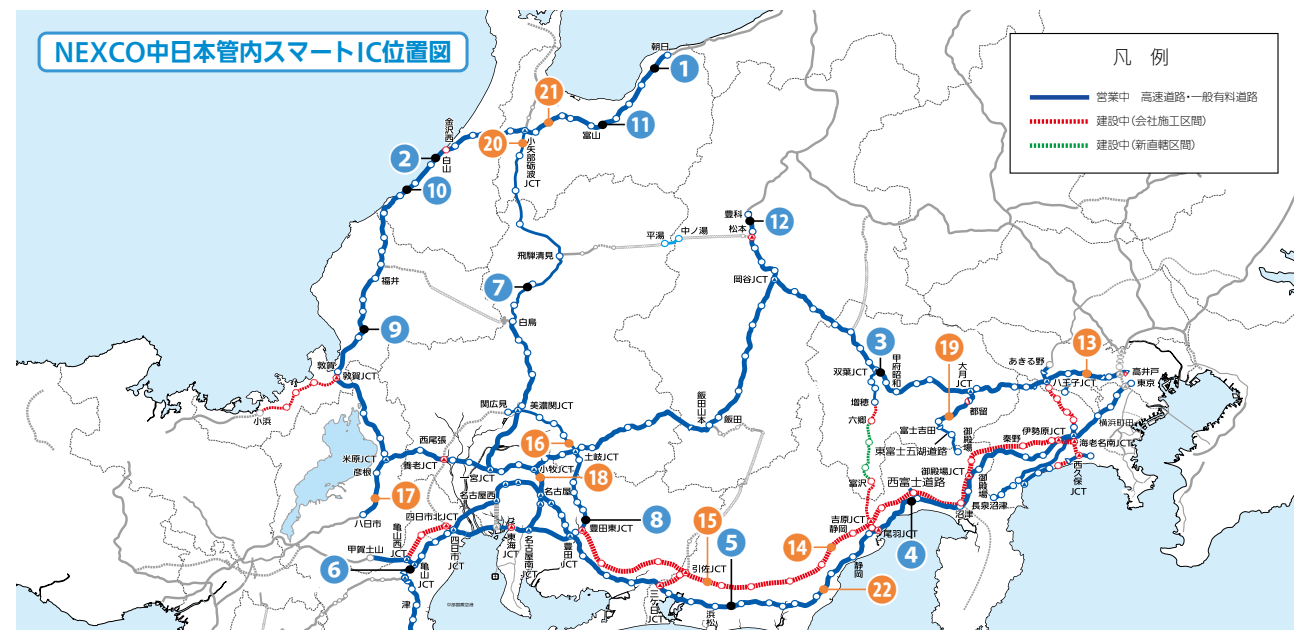
長野県下第1位の製造品出荷額をほこる安曇野市では、スマートICに隣接する「あづみ野産業団地」に、27の企業が進出しています。

これまでは、高速道路を利用するには、最寄りの豊科ICまで、一般道を経由しなければなりません。

梓川スマートICを利用することで、工業団地へのアクセスが容易となり、所要時間が約15分間短縮されます。



※地区協議会による交通状況調査結果



地域と密着したサービスエリアづくり

サービスエリア周辺のより多くの地域の皆さまにサービスエリアをご利用いただけるよう、「ぶらっとパーク」の整備を進めています。

また、高速道路と地域との交流の拠点となるよう、地域に根ざした店舗や地域産品直売店の展開などを進めています。

「ぶらっとパーク」の整備

「ぶらっとパーク」とは、サービスエリア・パーキングエリアが地域の皆さまに“ぶらっと”立ち寄れる、身近なスポットであることを表現しています。

2010年度は、25箇所です新たに整備・改築し、計106箇所となっています。



東名 EXPASA足柄(上り・下り) ぶらっとパーク



地産地消などの推進

地元の料亭などが地元食材を使用して提供する「速弁」は、2010年度も季節に合わせて多彩に提供し、お客さまに大変好評をいただいています。また、各エリアのレストランでは、積極的に地元食材を使ったメニューを提供しています。

さらに、地域との交流イベントとして、東名 富士川SA(上り)、浜名湖SAで「ふじのくに地産地消週間」に合わせて農匠マーケットを開催するなど、地域との連携を深めながら、地産地消を推進しています。



地元食材を使用したメニュー
東名 日本平PA(上り)わさびづくし膳



農匠マーケットの開催風景
東名 富士川SA(上り)、浜名湖SA



地域とのふれあい

高速道路をご利用いただくお客さまだけでなく、沿線住民の皆さまなど、多くの方々とさまざまな活動を通じて交流を図っています。

富山三大民謡の競演

北陸自動車道(北陸道) 有磯海SA(上り)での特別企画として、高速道路では初となる富山県を代表する三大民謡を一堂に披露する公演を行いました。



富山三大民謡の競演

地元大学などとのマーケティングプロジェクト

岐阜女子大学や金沢美術工芸大学のマーケティングなどの研究をしている学生の皆さんと共同で、商業施設の改良や新業態導入のためのプロジェクトを進め、産学協同によるエリアづくりを進めています。



岐阜女子大学
マーケティングプロジェクト



金沢美術工芸大学
マーケティングプロジェクト

地元の園児と巣箱掛けを実施

東名 EXPASA足柄(下り)において、近隣の幼稚園児による小鳥の巣箱掛けを23年間継続開催するなど、イベントなどを通して沿線自治体や住民の皆さまと積極的に交流を図っています。



巣箱掛けの開催風景
東名 EXPASA足柄(下り)

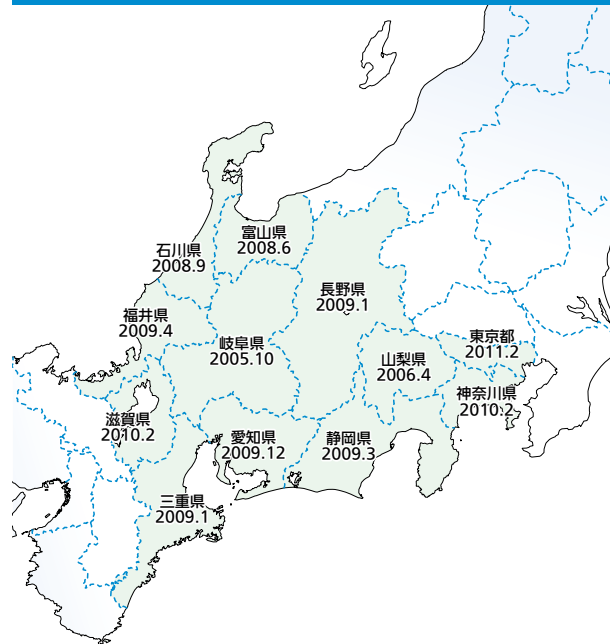
包括的提携協定による地域活性化

関係自治体や地域拠点大学と包括的提携協定を締結し、高速道路を活用した地域産業・観光の振興、地産地消の促進、文化の交流、人材育成などにおける連携や、災害発生時の協力体制を強化しています。

自治体との包括的提携協定の締結

2009年度までに11県、2010年度には東京都と包括的提携協定を締結しました。これにより当社事業エリアすべてとなる12都県と包括的提携協定を締結しました。

協定の締結状況



主な連携事項

(1) 防災分野での相互協力

災害時における相互協力、防災対策の強化・防災訓練などへの当社の参加

(2) 観光・文化振興分野での相互協力

休憩施設などでの地域の観光・文化イベントのPR、地産地消の推進、各県が推進する事業への協力・参画

(3) 環境分野での相互協力

地球温暖化防止の取り組みに関する相互協力、廃棄物不法投棄対策の相互協力

(4) 教育・福祉分野での相互協力

インターンシップの受け入れ、高速道路交通安全セミナーの実施、子育て支援施策への協力・参画

活動事例

防災分野での相互協力(静岡県)

建設中の新東名を活用した防災訓練を静岡県と共同で実施しました。



大学との連携

2010年5月には、名古屋大学と包括的な連携推進に関する協定を締結し、高速道路の建設、維持管理、環境など幅広い分野で、研究成果の活用や人材育成を推進しています。2011年4月からは、名古屋大学に当社の寄附講座となるインフラ技術開発・移転講座を開設しています。

また、2010年4月、山梨県北杜市、早稲田大学と協働提携に関する基本協定を締結し、高速道路・休憩施設でのサービス向上と地域の観光・産業の振興、大学の人材や技術の育成に取り組んでいます。

ステークホルダーからの声

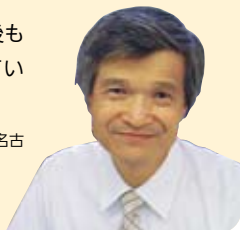
包括的提携協定の活用による県民満足度の向上

静岡県 交通基盤部 道路局 道路企画課 課長代理 原 広司さん

本県はこれまで、NEXCO中日本様と、「大規模災害時における新東名の工事中区間の使用に関する基本協定※」の締結など、防災分野での協力を進めてきました。また、双方の資源を最大限に活用するため、包括的提携協定によるパートナーシップをさまざまな分野へ拡充、発展させてきました。

特に、本県の飛躍的發展に大きく寄与すると期待される新東名をはじめ、高速道路の利活用をこれまで以上に広い分野で推進するため、関係部局で構成する「高速道路利活用推進会議」を設立し、包括的提携協定を活用して、利活用施策実現に向けた調整を進めています。県民の満足度を向上させるため、今後もNEXCO中日本様との連携を進めていきたいと考えております。

※「大規模災害時における第二東海自動車道横浜名古屋線の工事中区間の使用に関する基本協定」



災害発生時における迅速な復旧・救援対応

災害発生時の被害拡大を防ぎ、早期に道路交通を確保するために、グループ一体で防災体制を強化するとともに、国や自治体などと緊密な連携を図りながら、迅速な復旧・救援に向けた対応を行います。

異常降雨時の交通確保

異常降雨による災害が発生した場合は、安全確保のため交通規制を実施し、早急に応急復旧を行い、速やかに交通を確保します。

災害対応事例1

2010年5月23日に大雨により東名阪道 亀山JCT付近で切土のり面が崩落しました。深夜の被災にも関わらず、迅速に応急復旧工事を開始し、約17時間後には通行止めを解除しました。



のり面崩落状況

災害対応事例2

2010年9月8日に台風9号による大雨のため東名 鮎沢PA(上り)付近で用地外からの土砂が流入し、通行止めとなりました。約21時間後に通行止めを解除し、その後応急復旧工事のため、上り線を閉鎖し、下り線2ルート(左右ルート)を上下線に活用し、交通を確保しました。



土砂流出状況

冬期の確実な道路交通確保

冬期的高速道路の安全のため、効果的な雪氷対策、広報の充実(雪道走行安全運転の啓発)及び情報提供(気象・道路情報)を行い、確実な交通確保を行います。

雪害対応事例

2011年1月30日から2月1日にかけて北陸地方を中心とした大雪のため、各交通機関は全面的にストップとなりました。福井県域を中心とする北陸道についても、日降雪量が140cmを記録するなど過去に類をみない降雪でしたが、懸命の除雪作業を行い、約29時間後に通行止めを解除しました。



立ち往生となった車両付近の除雪作業

お客さま支援

災害や事故などにより長時間高速道路に滞留されたお客さまに対して、飲料水・食料・携帯トイレを配布するなど積極的にお客さま支援を行っています。



お客さま支援状況

地域災害支援

災害により被災した地域の迅速な復旧のため、人、物資、給水などの支援を積極的に行っています。

2010年9月8日の台風9号に伴い、神奈川県小山市で発生した災害に対し、支援活動を実施しました。



散水車による道路清掃

緊急地震速報装置の整備

緊急地震速報を休憩施設で自動放送提供するとともに、お客さまを適切に誘導します。東海地震強化区域内については整備済みであり、東海地震強化区域外においても、2012年度までに完了します。

グループ一体の防災訓練

万一災害が発生した場合、応急活動が迅速かつ適切に行われるよう、防災体制の実効性を確認・検証するとともに、関係機関、グループ会社などの幅広い参加を通じて、社員の一人ひとりが防災に対して考える防災訓練を実施しています。

2010年度は9月1日の「防災の日」に、グループ一体で総合防災訓練を行いました。



消防との合同訓練



TV会議を利用した本部運営訓練

道路通信ネットワーク機能の強化

情報提供装置など高速道路施設の運用に必要な道路通信ネットワークについて、災害によるダウンに対応するべくバックアップ機能を強化し、災害時の高速道路機能の確保を図っています。



通信ネットワーク迂回構成図

地域・福祉への貢献

NEXCO中日本グループは、地域社会の一員として、地域の活性化や福祉の充実に向けた活動を地域の皆さまとともに進めています。

■授産施設への就労支援

2010年7月から金沢社では、富山・石川・福井の3県の障がい者団体と連携して、授産施設をご利用の方へ、サービスエリアやパーキングエリアに設置してある草花プランターの入れ替え作業を委託し、働く場を提供する支援をしています。



草花の入れ替え作業の様子

■地域清掃活動への取り組み

袋井保全・サービスセンターでは、1978年より浜名湖をきれいにする清掃活動を継続しています。2010年度は5月26日に、浜名湖SA周辺の湖岸を総勢70名で清掃し、浜名湖の景観と環境保全に努めました。



浜名湖湖岸清掃の様子



消波ブロック隙間のごみ回収

■福祉基金などへの寄付

2010年8月7日、静岡県長泉町で開催された「第14回わくわく祭り」に、沼津工事事務所と御殿場保全・サービスセンターが参加し、受賞した優秀賞の賞金を長泉町の福祉団体に寄付しました。また、さまざまなイベント会場にて募金活動を行い、お客さまからいただいたご厚意は、「交通遺児育成基金」などへ寄付しています。エコキャップをリサイクルして海外の子どもたちにワクチンを提供するボランティア活動にも積極的に参加しています。



SAで育てたゴーヤと募金箱



エコキャップアートコンテスト作品

教育への貢献

小・中学生、高校生など未来を支える子どもたちへ高速道路事業を通じて教育支援をしています。

■地域小学生の「探検学習」

2010年6月16日、富山県滑川市立北加積小学校2年生の児童8名が授業の一環で企業の仕事を現場で体験学習をする「探検学習」として、北陸道 滑川料金所に来訪しました。料金所の仕組みや係員の仕事、高速道路で活躍する道路巡回車や除雪車の役割などを勉強し、実際に道路巡回車に乗ったり、除雪車のプラウの動きを見学するなど、普段、学校ではできない体験をしました。



料金所設備を見学する様子



パトカーに乗車する子ども隊員

■地元高校生へ現場で伝えた土木の魅力

2010年12月14日に、静岡県立島田工業高校都市工学科の2年生と先生方約50名を招き、新東名で土木の魅力を伝える現場研修を開催しました。舗装工事や橋などの現場では、模擬体験を交えながら説明を行い、また、現場で働く若手社員も参加して「土木の仕事」に関するグループ討議を行うなど、直接体感しながら学べる研修となるように工夫しました。



静岡SAでの現場見学の様子

■夏休みの自由研究に一新聞紙で作る「橋作り教室」

2010年7月24・25日に、夏休みの自由研究に役立ててもらおうという企画で、新聞紙で作る高速道路「橋作り教室」を名古屋市の本社にて開催しました。実際の橋の種類や構造を説明した後、新聞紙の重さ測定や耐荷実験などを行い、橋の制作に取り組みました。新聞紙の強度に驚いたり、時間ぎりぎりまで頑張る子どもたちの姿がみられました。



新聞の重さを計測



親子で橋を制作

文化・スポーツ活動

NEXCO中日本グループとして、独自の手法を通じて、文化・芸術やスポーツ分野の活動を支援しています。

■伝統文化の競演

2010年10月に、北陸道のサービスエリア4会場において、北陸の地元行政や観光連盟などと協力して、北陸地方の食と文化をPRするイベントを行いました。各会場では、地元郷土芸能を披露したり、地場産の特産物を販売するなど、北陸の魅力を伝える地域色豊かなイベントを企画しました。



「山代湯華太鼓」(尼御前SA)



富山三大民謡の競演(有磯海SA)
写真は「越中おわら節」

■「少年少女サッカー教室」

2010年11月13日に、J1清水エスパルスの協力を得て、スポーツを通じた子どもたちの健全な育成を目的に、「少年少女サッカー教室」を開催しました。初対面の子どもたちがすぐに仲良くなれるように鬼ごっこから始め、ドリブルを中心とした練習、最後はミニゲームをして楽しみました。



ドリブルを練習する子どもたち



3人のコーチと記念撮影

■書道ガールズの力作披露

2010年7月24日に開催された南条SAのイベントで、仁愛女子高等学校書道部の皆さんに、交通安全啓発の揮毫を行っていただきました。日本の伝統芸術である書道の魅力・迫力をお客さまに間近で感じていただくことができました。



力作を前に記念撮影する書道部の皆さん

高速道路関連社会貢献事業の推進

NEXCO中日本グループは、高速道路関連社会貢献協議会と協力して、お客さまの安全性や信頼性、サービス向上を図るため、高速道路の有効活用に関する支援事業を進めています。

■2010年度の主な支援内容

主な実施内容	支援などの実績(中日本)
交通事故防止	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者の高速道路利用の教育支援 ●高速道路跨道橋(オーバブリッジ)のコンクリート剥落対策支援
お客さまサービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ●SA・PAのバリアフリー化 ●オストメイト対応トイレの整備 ●障がい者お手洗いの暖房器具整備
救急救命	<ul style="list-style-type: none"> ●日本航空医療学会講習会の支援 ●ドクターヘリ助成金交付事業への支援
自然エネルギーの利活用	<ul style="list-style-type: none"> ●太陽光発電設備の整備 ●飛騨トンネルの湧水を活用した小水力発電
環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> ●アイドリングストップ給電システムの設置 ●電気自動車対応の急速充電器の設置 ●SA・PAへのミスト(噴霧装置)の設置
地域社会による高速道路の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ●「緑の里プロジェクト」への支援(2010年度:6箇所)

社員の声

地域の小学生をお迎えして

滑川料金所長(現:黒部料金所長) 那知 富行

滑川市立北加積小学校からの探検学習の依頼を受けて、滑川料金所で料金所の仕事や高速道路で活躍する車の見学会を行いました。当日やってきた児童は8名、「料金所のお休みはいつ?」「滑川 ICの交通量は?」など熱心に質問があり、わかりやすく丁寧に答えました。見学会の最後に児童からお礼の言葉をいただくとともに、「また探検にきます」と元気に声で話していたことがとても印象に残っています。今回の見学会を通じて高速道路に興味をもってもらい、少しでもNEXCO中日本のファンが増えればと思います。次回このような機会があれば、喜んでお手伝いさせていただきます。



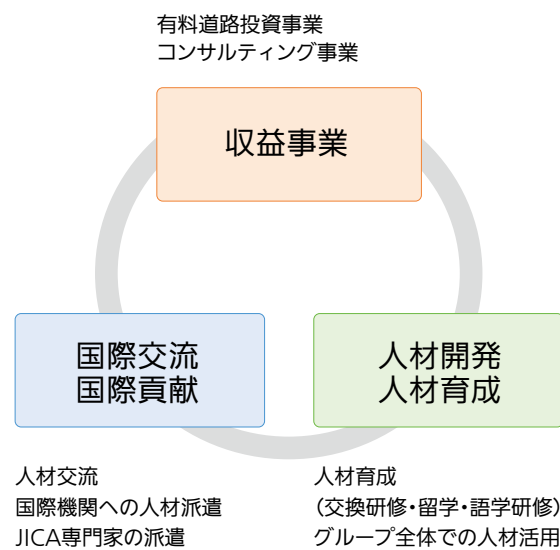
海外への展開

NEXCO中日本グループ全体がこれまで蓄積した高速道路に関するさまざまなノウハウ・技術力を、国内だけでなく、海外にも展開していきたいと考えています。海外道路事業者との情報ネットワークの強化や積極的な国際貢献を引き続き行うとともに、グループ全体の人材を活用し、アジア地域を中心とした海外有料道路事業へ参画していきます。

■NEXCO中日本の海外事業展開方針

- ①海外収益事業への参画
- ②国際協力・国際貢献
- ③人材育成・活用

の3つの要素を柱として海外事業を展開しています。



国際交流・国際貢献

海外道路事業者との関係強化を図るとともに、情報収集や相互の人的交流を深めています。国際会議・セミナーなどへの参加やJICAなどを通じた各国からの研修・視察の受け入れによる情報発信を行っています。また、当社社員を高速道路専門家として必要な国に派遣することで、国際社会に貢献しています。

■ベトナムとの交流

2007年11月にベトナム道路公社と覚書を締結し、2008年12月には当社初の海外拠点となるベトナム事務所を開設しました。現地事務所では情報の収集や現地機関との関係強

化に努めています。

また、2010年12月には当社社長がベトナムを訪れ、交通運輸省(MOT)のドック副大臣と意見交換を行うなど幅広い交流に努めています。



当社社長のベトナムMOT訪問



ベトナム事務所での活動状況

■マレーシアとの交流

マレーシア最大の高速道路事業者であるPLUS社(PLUS Expressways Berhad)と2009年2月に、交換研修や情報交換などを目的とした覚書を締結し、これに基づいて2009年と2010年に交換研修を実施しました。今後は活動の範囲を拡大し、両社の結びつきを一層強くしていきたいと考えています。

▼2010年度PLUS社との交換研修の概要

派遣側	研修期間	主な研修内容
PLUS社(2名) 専門分野: ・ファイナンス ・道路施設	2010年 6月～9月 (4ヵ月間)	高速道路の運営手法 (リスクマネジメント、資産管理、 トンネル施設、電気通信設備、 ETCなど)
NEXCO中日本(1名) 専門分野: ・土木工学	2010年 10月～12月 (3ヵ月間)	海外事業実施ノウハウ (パートナー選定、投資判断、 資金調達手法、案件形成手法など)



当社社員のPLUS社での研修



PLUS社員の当社での研修

■各種国際会議への参加

2010年度は計9回の国際会議に社員が出席しました。今後も引き続き積極的に参加し、各国の道路事業者との交流や情報収集に努めていきます。

▼主な国際会議への出席(2010年度)

会議名	開催国	時期	テーマ
ISAP	日本(名古屋)	2010年8月	アスファルト舗装技術
IBTTA	アメリカ (サンディエゴ)	2010年9月	世界の有料道路 事業者間の情報交換
PIARC	中国(北京)	2010年11月	道路事業に関する リスクマネジメント



PIARCの会議でディスカッションに参加する社員(中国)



IBTTA年次総会(アメリカ)

■各国からの研修・視察の受け入れ

2010年度は23カ国から道路関係者の方々が当社の建設や維持管理の現場、サービスエリアなどの視察に訪れました。

▼主な視察受け入れ(2010年度)

相手方	時期	視察内容
スリランカ 道路開発庁	2010年7月5日～7日	東名における 維持管理全般
ベトナム 交通運輸省ほか	2010年8月1日～5日	新東名建設現場、 新名神の維持管理現場
アフガニスタン 公共事業省	2011年1月24日～25日	中央道での冬季における 維持管理



東名の管理施設で維持管理車両を視察するアフガニスタン道路関係者



新東名で排水実験を視察するベトナム道路関係者

■発展途上国への専門家派遣

道路の整備が遅れている発展途上国に社員を派遣し、高速道路の設計、施工、維持管理について専門的な指導を行っています。

2010年度は計5名の社員(継続中含む)がそれぞれの国で活躍しました。



ITSについて講演する当社社員(ベトナム)

対象国	期間	派遣先
スリランカ(1名)	2008年5月～2011年4月(3年)	道路開発庁
ベトナム(1名)	2010年5月～2012年4月(2年)	交通運輸省
エチオピア(1名)	2010年3月～2013年2月(3年)	大使館
スリランカ(2名)	2011年3月13日～19日(1週間)	道路開発庁

■コンサルティング業務

2010年度はベトナム、フィリピン及びキルギスにおいて高速道路建設事業のフィージビリティスタディや高速道路の維持管理など、7件の業務を受注しました。今後も、当社グループのもつ技術力を活かし、コンサルティング業務の展開を図っていきます。



ベトナムで受注した橋梁点検研修の一環として日本で実地訓練を行うベトナム道路関係者

社員の声

My Experience with Japan's ODA

関連事業本部 海外事業チーム 森 俊之

2008年4月から2年間、JICA経済基盤開発部へ研修員として所属し、日本からの技術協力や有償資金協力などの国際協力に携わりました。複数国へ出張し技術協力などの方針や内容について先方政府機関と協議のうえ、合意文書に署名するというODAの最上流部分に関する経験を通して海外から見た日本やわが社を客観的に見ることができ、非常に視野の広がる研修をさせていただきました。この経験を今後はフィードバックできればと思っています。



公正・透明な取引関係を築くために

NEXCO中日本は、公正・透明な手続きのもと、「より安全なものをより確実に、より良いものをより安く」を基本とし、「調達の基本方針」として以下の5つの方針を定め、調達を実施しています。さらに、持続可能社会の実現に向けてCSR調達を推進してまいります。

調達の基本方針

1. 公正な取引の推進
2. 法令・社会規範の遵守
3. 入札・契約情報の積極的な開示
4. 環境への配慮
5. お取引先との信頼関係

公正な取引の推進

公正かつオープンな取引を推進し、お取引先の選定は、品質、経済性、納期の確実性、技術的能力などを勘案して行っています。高速道路事業における250万円以上の調達は、原則として一般競争入札により実施しており、調達目的達成のために必要な一定の条件を満たす事業者であれば誰でも入札に参加できるようになっています。

「総合評価方式」の全面的な採用、契約手続きの改善

技術と経営に優れた企業による、価格と価格以外の多様な要素が考慮された公正な競争を行うことを目的とした「総合評価方式」を全面的に採用しています。この方式により、品質の向上、工事期間の短縮、環境への配慮などを図っています。

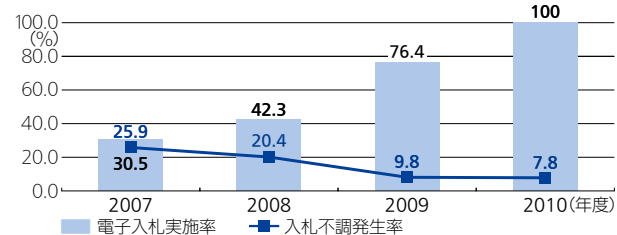
また、継続的な取引について予め基本的事項を約定しておく「基本契約方式」の採用やITを活用した電子入札、電子契約の拡大など、取引の効率化に資する契約手続きの改善を推進しています。

入札不調、低入札の改善

入札情報の積極的な提供や見積金額の妥当性などを協議のうえ契約を締結する「見積協議方式」の採用などにより、入札不調（不成立・不落札）の発生防止に努めています。

また、不当に安い価格の入札が行われた場合には、適正な履行がなされないおそれもあるため、失格基準の設定など低入札防止対策を強化し、工事の品質確保及び不良・不適格企業の排除に努めています。

▼「電子入札」の実施状況及び「入札不調」の発生状況



法令・社会規範の遵守

「中日本高速道路グループ倫理行動規範」を定め、役員、グループ会社を含めた社員一人ひとりがコンプライアンス厳守の高い理念と規範に基づき行動することを推進しています。

また、国連グローバル・コンパクトの10原則に賛同・署名し、同原則の一つである「腐敗防止」に向けた積極的な取り組みを続けてまいります。

法令に則った調達活動

「独占禁止法」「建設業法」「公共工事の入札及び契約の適正化に関する法律」「WTO政府調達協定」など、調達に関する法令を厳格に遵守します。

入札監視委員会の設置

入札及び契約の適正化を確保するため、外部有識者によって構成される「入札監視委員会」を設置し、入札及び契約手続きについて審議をいただき、意見の具申または勧告が行われた場合には、是正を図ることとしています。

（その審議内容については当社ホームページで公表しています。（2010年度は、同委員会を延べ10回開催））

入札・契約情報の積極的な開示

契約手続きの透明性を確保するため、工事の年間発注見通しや入札結果、契約締結結果など、積極的な情報開示を実施しています。（当社ホームページの「契約情報」欄に掲載）

環境への配慮

グリーン購入法に基づく物品調達に加え、工事発注においては、環境負荷低減（CO₂排出抑制、騒音防止、振動防止など）の実施計画やISO14001取得状況を評価項目とする「総合評価方式」の実施を推進しています。

お取引先との信頼関係

取引先の皆さまとは、公正かつ誠実な取引を通じてより確かな信頼関係を築き、協働して社会の発展に貢献します。

具体策として、高速道路事業などを適切に執行するため、地域建設業団体との意見交換などを通じて、取引先の皆さまにおける課題などの実情把握に努めています。

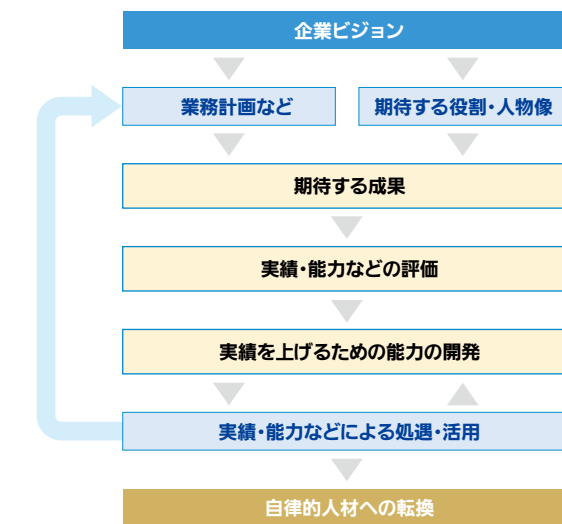
また、当社との間で災害応援協定を締結した企業や地域に精通した企業を評価するなど、連携強化を推進します。

CSR調達の推進

CSR調達を通じて取引先の皆さまとともに持続可能社会の実現をめざすため、2011年度中に「CSR調達ガイドライン（仮称）」を公表します。

人事制度

当社の人事制度は、「企業ビジョン」をもとに、社員に期待する役割や成果を明確にし、目標の達成度や行動、能力などを公正に評価することで、社員がモチベーションを高め、成長し続ける変革への強い意志をもち、主体的にキャリア形成に挑戦することを目的としています。



ダイバーシティ・マネジメント

多様な人材を活かす企業経営をめざし、女性や障がい者などがいきいきと働ける職場環境づくりを進めています。

多様な人材の確保

経営環境が大きく変化する中、社員採用においては『質重視』の方針のもと、2011年4月是新卒で36名の社員を採用しました。

引き続き、中長期視点に立って、優秀で多様な人材の確保に努めます。

インターンシップ

学生に就業体験の場を提供する「インターンシップ」を実施しています。2010年度は3会場（東京・名古屋・金沢）で開催し、延べ106名が参加しました。



女性社員の積極的な採用

全社員のうち、女性社員は約1割ですが、2011年度の新規採用の女性社員比率は36名中14名で約4割となっており、引き続き女性社員の採用に積極的に取り組みます。

女性社員の活躍の支援

女性が大部分を占める地域限定職から、基幹職・ブロック基幹職へのコース転換制度を創設しました。2011年度は、3名が転換しています。

女性社員間の情報交換の活性化、異業種交流の機会の提供、上司向け講演会の開催など、女性社員の活躍を支援する取り組みを行っています。

女性社員の「視点」の事業への反映

女性・若手社員のプロジェクトチームによる魅力あるサービスエリアの検討など、「女性」や「若手」の視点を活かせる場を設けています。

2009年度にスタートした当社公式ブログ『NEX子HAPPY☆ドライブ』では、女性社員が積極的にサービスエリアやお勧めドライブ情報を発信しています。

また、女性が考える新商品として、高速道路の新しい食のスタイルを提案する「Pecoliano Deli（ペコリアーノ・デリ）」というワンハンドフードシリーズを企画・開発しました。

このほかにも、商業施設大規模改良工事ではEXPASA内の女性トイレやパウダーコーナーを女性ならではの視点でデザインし、お客さまに喜んで使っていただける魅力あふれる空間をプロデュースしました。



女性・若手ワーキンググループの様子

障がい者雇用の拡大

障がい者の自立を支援するため、積極的に障がい者の採用を進めています。

当社単体では、法定雇用率（1.8％）を達成しましたが（2010年6月1日現在 2.07％）、2013年度までにグループ全体で法定雇用率の達成をめざします。

社屋のバリアフリー化など、障がい者が働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組んでいます。

人材育成の充実

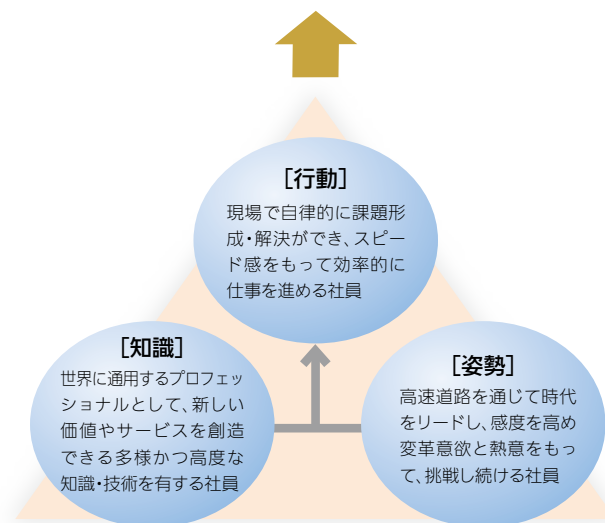
“社員は会社にとって、最大の『財(たから)』である”との考えのもと、当社の求める社員像に基づき、環境変化への感度が高く、自律性を発揮できる「強い現場力をもった社員」の育成を実施しています。仕事を通じたOJTを基本に、階層別・専門研修などの集合研修や自己啓発などのOFF-JTと連携し、社員がめざすべきキャリアの実現を支援しています。

また、海外機関や他企業への派遣研修、博士号取得補助、資格取得補助など、社員の能力や専門性をより高めるために支援を拡充しています。

▼NEXCO中日本の求める社員像

道を通じて感動を 人へ、世界へ

私たちはお客さまに私たちのサービスを通じて、感動を得ていただけるように常に努めています。この感動を、より幅広くさまざまな人へ、さまざまな国へ広げていきます。そして未来につないでいきます。



ワークライフバランスの促進

仕事と家庭の調和、社員一人ひとりのライフステージに応じた時間の充実と、次世代育成支援のため、さまざまな取り組みを行っています。

ワークライフバランスと職場コミュニケーションの促進

仕事と家庭の両立を推進し、次世代の育成を支援するため、時間外労働の削減や休暇取得の促進に取り組んでいます。なお、2010年度の育児休業取得者は21名で、男性は8名でした。

「くるみん」の取得

男性社員の育児休業や年休取得促進などを定めた「次世代育成支援行動計画(2008年6月策定)」を達成し、2010年7月14日に愛知県労働局から認定を受け、くるみんマークを取得しました。



職場のレクリエーション活動

社員の勤労意欲の向上や職場活性化のため、名古屋地区での運動会をはじめ、各職場においてレクリエーション活動を実施しました。

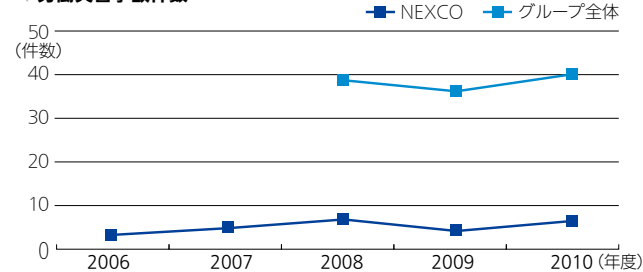


職場のレクリエーション活動(名古屋地区大運動会)(2010年11月)

労働災害ゼロをめざして

労働災害ゼロをめざして、安全衛生に関する委員会を定期的に開催し、安全チェックリストの実施状況の確認や労働災害の分析を行い、その結果を安全対策に反映しています。

▼労働災害事故件数



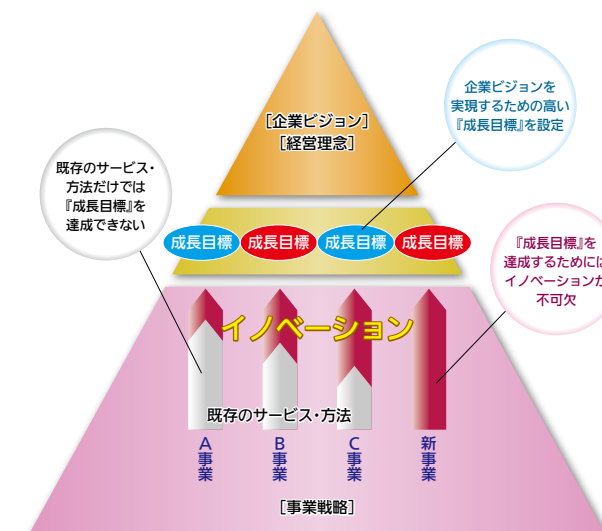
健全な労使関係の維持

経営環境が大きく変化する中、雇用の安定を第一に、労使相互の信頼関係の維持に努めています。

職場のコミュニケーションと社員相互の信頼関係が健全な労使関係の基本と考え、意見交換を行うため、労働組合と定期的に「労使懇談会」を開催(2010年度は3回)し、相互理解を深めています。

イノベーションの推進

企業が成長していくためには、社会の動向変化と同じように、企業としても変化・変革していくことが必要であり、社会変化に対応する施策・事業などを展開し、イノベーションを促進させていくことが不可欠であると考えています。NEXCO日本グループがさらなる飛躍をするため、社員一人ひとりからのイノベーションを推進しています。



イノベーション・ポスト

業務改善・改革のポイントを一番よく知っているのは、現場で実際にその業務を担当している社員一人ひとりであることに着目し、社員が気軽に提案できる創意工夫制度として、「イノベーション・ポスト」を創設しました。

社員であれば、個人の端末からいつでも提案できるもので、2010年10月の開設から、およそ300件の提案がありました。そのうち18件については、特に有効であり、2011年度の実現に向けて、検討を実施しています。



「イノベーション・ポスト」トップ画面

イノベーションタイムの導入

イノベーションへの価値を高め、自由闊達で横断的なコミュニケーションを向上させるとともに、イノベーションの議論を活発にし、アイデアを提案する「イノベーションタイム」を2011年度より導入することとしました。

また、議論を活発にするための促進役となる人材を養成すべく、ファシリテーター研修を実施しています。

今後も継続して、ファシリテーターの育成を推進していきます。



イノベーションタイム(オフサイトミーティング)風景

2010年度業務研究発表会

当社グループでは、日頃の業務の成果をグループ全体で共有し、今後の業務改善につなげていくため、「業務研究発表会」を開催しています。2010年度は9月6日～8日(3日間)に行われ、グループ全体で609編の報告が集まりました。このうち、特に優秀な発表として最優秀グランプリ賞1編、最優秀賞13編が選ばれました。

2011年度以降は、イノベーションをさらに促進させ業務の成果をイノベーションに直結させることを目的として、これまでの「業務研究発表会」を拡充し、「イノベーション・フォーラム」として開催する予定です。



最優秀グランプリ発表風景

社員の声

NEXCO中日本グループ社員の日頃の業務におけるCSRへの取り組み

中日本ハイウェイ・メンテナンス中央(株)
甲府事業所
双葉SA エリアキャスト
小林 ふさ江



エリアキャストになって、3年ほどになります。日々、お客さまが気持ちよく旅ができるように心掛けております。時々、車いすのお客さまのお世話をすることがありますが、大変感謝され、大事な仕事を任されていると感じました。この双葉SAをご利用になるお客さまの中には、植物のこと、周辺の山のことなど、私がお案内することもなく、反対に、お客さまから教えていただくことが数多くあります。お客さまと打ちとけた会話ができる瞬間がとても楽しく、お客さまの旅の思い出の一つになればと思っています。またサービス介助士の資格も取得いたしましたので、一助として積極的に活用してまいりたいと思います。

中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京(株)
御殿場道路事務所 技術管理第一課長
眞田 謙之



私たちエンジニアは、道路保全・点検を実施しています。道路保全のノウハウをもったエンジニアとして、安全、安心を脅かす要因を見つけ対処することが責務です。そのため、日夜道路と接して、道路の構造物や設備の変化に目を配り、その状態を知り、将来起こりうる損傷の予測・改善・予防の方法を提案しています。

また、今後、人も道路もますます高齢化していきます。道路を支える社員もまた人間保全をしながら、道路を利用されるお客さまに、いつまでも、喜ばれるように業務を進めていきます。

中日本ハイウェイ・パトロール名古屋(株)
彦根基地 隊長
井上 正昭



我々交通管理隊でも現場到着時には、かなりの緊張感をもって初期対応にあたっているわけですから、高速道路に不慣れなお客さまにとっては、我々の到着を待っている時間というのは、長く不安でいっぱいではないでしょうか。現に我々の巡回車に気付いた時の安堵の表情は我々も使命感がより強くなる瞬間でもあります。そんな時には必ず笑顔とやさしい口調で接することになっています。特に私のような強面(こわもて)の笑顔は効果てき面です。緊張の中でのやさしい対応、これができれば一人前の交通管理隊員となるわけです。

中日本エクストール横浜(株)
茅ヶ崎海岸料金所
猶野 秀子



通っていただいたお客さまに、正確な収受はもちろん、心のこもったご挨拶、親切・丁寧な対応は気持ちの良い雰囲気を与えます。そしてETCトラブルなどの安全な対応、ブースや事務所での適切な判断やご案内もお客さまの安全な走行をお守りするものです。「お客さま第一」を常に念頭に置き、これからもお客さまの「ウオンツ」を把握し、実行できるよう取り組んでいきます。

中日本エクシス(株)東京担当
EXPASA足柄 総支配人
後藤 光司



EXPASA足柄の取り組みの一つとして、昨年11月から毎月第4日曜日に「JAZZ LIVE」を開催しています。徐々に地域の方に浸透してきており、「ぶらっとパーク」も満車になります。4月のライブでは近隣のおばあちゃんやお子さまが音楽に合わせてダンスする姿が見られました。会場には、東日本大震災復興支援の義援金箱を設置し、住民の方々と一体となった復興支援活動を展開しています。また、地域の清掃活動に参加し、近隣の環境美化へも取り組んでおります。このように地域の方々と一緒に世界一のエリアを作り上げていければ、そのプロセスそのものが世界一になるのだと思っています。

NEXCO中日本サービス(株)
安濃SA サービスエリアコンシェルジュ
主任
川村 育子



私たちコンシェルジュは5年前に呼称が変わり、高速道路の総合案内所としての基本の接客に加え、「お引き」と「おもてなし」の心でそれぞれのお客さまに合わせたパーソナルな対応をすることによってお客さまに「感動」を与えることができるよう、日々頑張っております。また、私たちはお客さま対応の最前線におりますのでNEXCO中日本の看板を背負っているという自覚をもち、影で支えてくださる他部署の皆さまに感謝し、さらには2011年4月よりグループ社員の一員となった誇りをもって勤務しています。



中央道フォトコンテスト 特別賞「錦秋の諏訪湖サービスエリア」 小泉 敏夫

環境報告

私たちは、常にその事業活動による環境への影響や

道路利用によるCO₂排出の負荷を念頭に置き、

地球環境との共生に取り組んでいます。

資源の3R推進、地域環境への配慮のため、環境技術の開発や

あらゆる活動を、美しい地球と地域を未来に残す一歩と位置づけ、

社員一丸となって推進しています。



CSR情報 > 環境報告

目次

環境方針 P49

環境活動

地球温暖化の抑制 P50

資源の3Rの推進 P55

地域環境への配慮 P57

環境技術 P63

環境マネジメント P65

環境会計 P67

環境方針

中日本高速道路株式会社は、常に変革と向上を求め、安全・安心・快適で、時代をリードする高速道路空間を創出し、地域社会の発展と暮らしの向上、日本経済全体の活性化、そして世界の持続可能な成長に貢献します。

当社の事業は、多くの方々のご協力とお客さまにご利用をいただき、広く環境と関わりを持っています。このため、当社の事業活動を通じて地球温暖化の抑制や、資源の3R(リデュース(発生抑制)・リユース(再使用)・リサイクル(再生利用))の推進、地域環境への配慮に取組みます。

これらの実現のため、環境マネジメントシステムを構築し、環境の目的・目標を明らかにし、環境法令及び当社が約束した事項の遵守ならびに環境影響の予防に努め、継続的な改善に取組みます。環境マネジメントシステムの運用に当たり、その基準、手順等を定めて文書化し、定期的に見直します。

当社は、世界一の高速道路会社をめざして、環境に関わる活動や技術開発に挑戦し、次に掲げる経営上の重点施策等を実施しています。

＜環境に関わる経営上の重点施策＞

●地球温暖化の抑制

高速道路ネットワークの整備や渋滞緩和、省エネルギーなどの取組みにより、地球温暖化の抑制に貢献します。

●資源の3R推進

廃棄物の発生を抑制し、事業活動により発生した副産物の有効活用に努めます。また、「百年道路(健全な状態で百年以上維持し、後世に優良な資産として継承する高速道路)」計画の実施などにより環境負荷を低減します。

●地域環境への配慮

地域環境への貢献や動植物の生息・生育環境への負荷を低減する「エコロード(自然環境に配慮した道)」づくりを推進します。

この環境方針は、全ての従業員に周知するとともに公開します。

2011年4月28日
中日本高速道路株式会社
代表取締役会長 兼 社長CEO 金子 剛一

CO₂の排出削減の環境目標

NEXCO中日本グループでは、長期的なビジョンに立ち、温室効果ガス削減など、世界的な環境負荷低減に向けた動向を踏まえながら、政府目標を考慮して、CO₂排出削減の目標を設定し、施策を着実に実行します。

中・長期目標

世界レベルで温室効果ガス削減に関する議論がなされている中、国内においても中・長期的な目標設定に向けた検討が進められており、2020年までに1990年比で25%、2050年までに同80%を削減する目標が掲げられようとしています※。

NEXCO中日本グループは、「環境・持続可能社会への貢献」をCSR重点領域の一つとして掲げ、高速道路ネットワークの整備や「百年道路」の推進、資源の3Rなどのあらゆる事業活動を通じて環境負荷を低減し、政府の環境目標達成へ積極的に貢献します。

※地球温暖化対策基本法案
・2010年10月8日に閣議決定。
・温室効果ガス(二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素など)の中・長期的な目標について記述。
→2020年までに、1990年比排出量に25%の割合を乗じて計算した量を削減。
→2050年までに、1990年比排出量に80%の割合を乗じて計算した量を削減。

短期目標

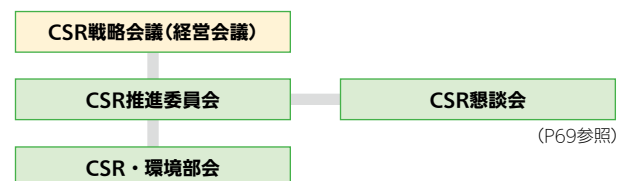
2015年度までの短期目標を以下のとおり設定しています。設定にあたっては、現状値を適切に把握するとともに、経営計画で示されたCO₂削減のための施策による効果を考慮しています。

指標	単位	現状値	2011年度	2015年度
CO ₂ 排出量 (オフィス活動)	t-CO ₂	10,327	10,223	9,810
CO ₂ 排出量 (保・サ事業、関連事業及び走行車両)	t-CO ₂ /km	5,293	5,241	4,520

環境活動推進体制

NEXCO中日本では、環境方針の趣旨に従い、CSR戦略会議(経営会議)において、環境活動推進のための計画・施策の審議を行います。

具体的な施策の検討や企画・実施計画の立案は、CSR推進委員会で行っています。また、より実務的な議論を行う場として、CSR・環境部会を設置しています。



地球温暖化抑制の取り組み

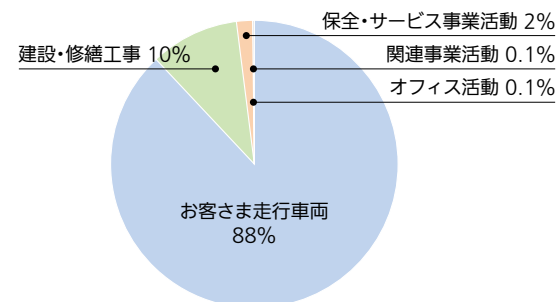
NEXCO中日本では、高速道路ネットワーク整備や交通渋滞の緩和、省エネルギーの推進などを通じて、地球温暖化の抑制に取り組んでいます。

■高速道路事業に係るCO₂の排出量

当社の事業活動により排出されるCO₂は、2009年度に約993万t-CO₂となりました。

その構成は、高速道路をご利用いただくお客さまの車両から排出されるものが約88%、高速道路の建設・修繕工事によるものが約10%、保全・サービス事業活動と関連事業活動・オフィス活動によるものが残り約2%となりました。

▼要因別CO₂排出量の割合(2009年度)



■取り組み項目

CO₂排出削減の短期目標を達成するため、2010年度は以下の項目について取り組みを実施しました。

- ・高速道路ネットワークの整備による環境負荷物質の排出抑制
- ・ETCの普及、利用促進
- ・高速道路のり面の樹林化
- ・省エネルギーへの取り組み
- ・再生可能エネルギーの活用
- ・「エコ・エリア」の推進

▼新たにネットワークが完成した名二環



名古屋南JCT付近
(伊勢湾岸道より名二環方面を望む)



高針JCT付近
(新たに建設した名二環より、営業中の名二環と名古屋高速方面を望む)

高速道路ネットワークの整備

NEXCO中日本では、大都市圏の通過交通や都市内の交通集中などに起因して発生する交通渋滞の緩和・解消をめざして、高速道路ネットワークの早期整備を進めています。この整備により、渋滞の少ない道路空間を確保し、一般道から高速道路利用へと交通の転換を図ります。

■高速道路ネットワークの整備による環境負荷物質の排出抑制

交通渋滞の発生は、走行の定時性が損なわれることによる経済的損失に加え、走行速度の低下や停止・発進を繰り返すことにより、自動車から排出される環境負荷物質(二酸化炭素(CO₂)や窒素酸化物(NOx)・浮遊粒子状物質(SPM))などの排出増加につながります。

高速道路ネットワークの早期整備、ボトルネック箇所の改良、ETCの利用促進などを行うことにより、高速道路の利用を拡大し、円滑な走行を確保することで、自動車からの環境負荷物質の排出抑制に取り組んでいます。

■2015年度までの整備計画

2011年度～2015年度までの5年間で306kmの高速道路ネットワークの整備を計画しています。

2010年度は名古屋第二環状自動車道(名二環)(名古屋南JCT～高針JCT)の12.7kmが開通しました。同時に、営業中区間の高針JCT～上社JCT間に上社南ICを整備し、交通環境の向上を図りました。



名二環開通の様子

高針JCT交差点【開通前】



上社方面から高針JCT交差点を望む
(2011年3月8日 8時頃)

高針JCT交差点【開通後】



上社方面から高針JCT交差点を望む
(2011年3月23日 8時頃)

写真は名二環の開通前後の高針JCT付近の一般道の混雑状況の変化です。出勤時間帯の午前8時頃では、これまでの渋滞長が減少しています。

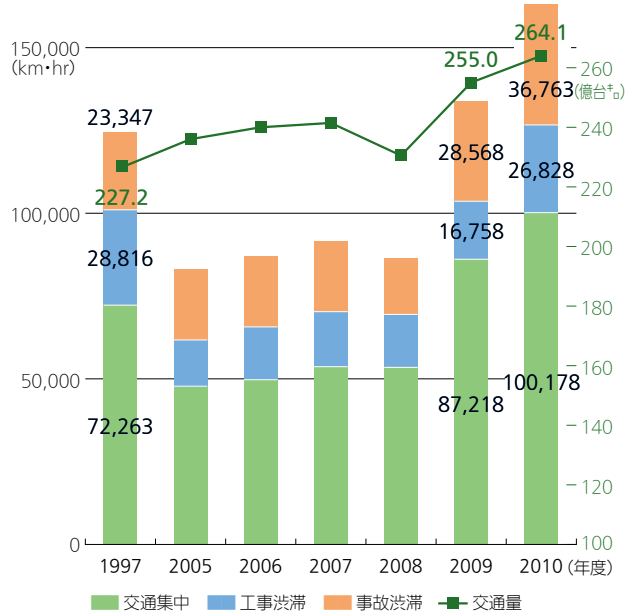
交通渋滞の状況

当社では、「時速40km以下で低速走行または停止・発進を繰り返す車列が1km以上かつ15分以上継続」した状態を渋滞と定義しています。

2010年度の渋滞要因は、交通集中によるものが約62%、事故によるものが約16%、工事によるものが約22%となっています。高速道路通行料の「休日特別割引」の実施に加え、一部区間での無料化社会実験施策により交通量が増加したため、渋滞量は昨年度を上回る約163,800km・時間となりました。特に、交通集中による時間ロス、約100,100km・時間となっています。

渋滞の緩和・解消をめざし、渋滞要因を分析して各種対策を効果的・効率的に行うなど、CO₂排出抑制に向けて取り組みを続けます。

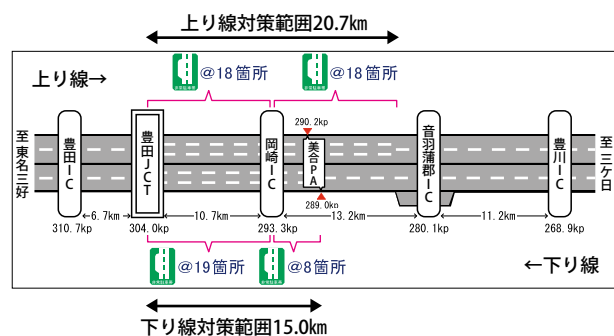
▼高速道路における渋滞状況



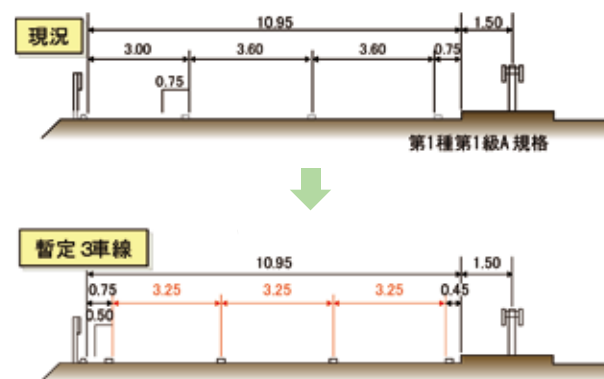
付加車線の設置

東名高速道路(東名) 音羽蒲郡IC～豊田JCT間は、朝夕の通勤時間帯やお正月・GWなどに大規模な渋滞や渋滞に伴う事故が発生しています。過去、さまざまな対策を実施してきましたが、さらなる対策として、新東名高速道路(新東名)が完成するまでの間、暫定的に3車線運用する計画に着手しました。

▼東名 豊田JCT～音羽蒲郡IC間の交通対策案の概要(位置図)



▼東名 豊田JCT～音羽蒲郡IC間の交通対策案の概要(断面図)



ETCの普及・利用促進とCO₂排出の抑制効果

ETCのご利用により、料金所付近の渋滞は減少し、料金所通過後の再加速に必要なエネルギーも少なくなることから、ETCの普及・利用促進はCO₂排出量の抑制に効果があります。

ETCのご利用によるCO₂排出の抑制量

ETCのご利用により、2010年度は約13,000tのCO₂排出が抑制されたと推測されます。

渋滞緩和・解消に有効なETCの普及・利用促進を進め、高速道路の利便性をより向上させるため、スマートICの整備を進めています。2011年～2015年までの5年間で10箇所のスマートICの整備を計画しています。

2010年度は長野自動車道(長野道) 梓川スマートICを整備しました。



梓川スマートIC開通初め

高速道路のり面の樹林化

高速道路の建設は、自然環境に影響を及ぼす場合があります。当社では、高速道路のり面(人工的に作られた斜面)の樹林化を行うことで、道路が山などに囲まれている場合は早期の自然環境の復元を、住宅地に隣接する場合は生活環境の向上を図るとともに、地球温暖化の抑制のためCO₂の吸収・固定化を進めています。

営業中道路での盛土のり面の樹林化計画

2010年度に北陸自動車道(北陸道)の盛土のり面13haを樹林化することで、当社が管理する高速道路のり面の樹林化面積は約1,287ha(東京ドームの約275倍の面積)となりました。これにより年間約13,600tのCO₂を固定したと推計されます。

▼盛土のり面の樹林化の目標と実績

事業内容	予定数量	2010年度		2011年度 計画値
		目標値	実績値	
のり面樹林化(ha)(累計)	1,300	1,287	1,287	1,300
進捗率	—	99%	99%	100%

自然遷移による樹林を含みます。
森林のCO₂の吸収量は、10.6t-CO₂/ha・年として換算しています。
[出典]「土地利用、土地利用変化及び林業に関するグッド・プラクティスガイド」(優良手法指針)」

▼東名 本宿バーストップ付近の事例



植栽直後(1995年3月)



植栽後16年経過(2011年5月)

省エネルギーへの取り組み

エネルギー使用の合理化に関する法律などの趣旨に沿って、省エネルギーへの取り組みを進めています。

電気自動車用急速充電システムの整備

CO₂排出量の抑制に向け、電気自動車の普及促進に貢献するため、電気自動車の急速充電器を、2010年度までに東名・名神高速道路(名神)・東名阪自動車道(東名阪道)の15箇所に整備し、東名では50～70kmの間隔で電気自動車の急速充電ができることになりました。

●電気自動車用急速充電システムのご利用に必要な手続きはこちらをご確認ください。
<http://www.smartoasis-saas.jp/REG/c-nexco/index.html>



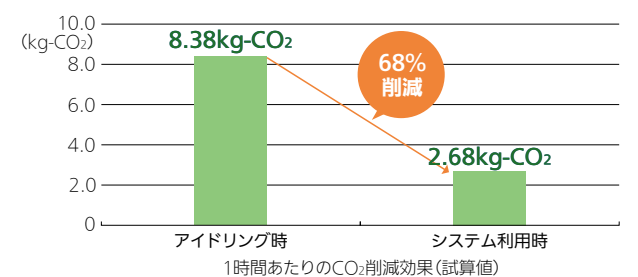
電気自動車と急速充電器



外部電源式アイドリングストップ給電スタンドの整備

長距離トラックなどが休憩する際には、車内の冷暖房装置を使うためアイドリングをします。これをストップさせるため、車両に電力を供給する給電スタンドを6箇所のSAに整備しています。

▼輸送用冷蔵ユニットを給電稼働した場合の効果



●外部電源式アイドリングストップ給電スタンドのご利用に必要な手続きはこちらをご確認ください。
・東京電力サイト <http://www.tepco.co.jp/eco/i-stop/>
・中部電力サイト http://www.chuden.co.jp/corporate/study/stu_other/istop/index.html



トンネル照明の電力量の削減

トンネル内の老朽化した照明設備(ナトリウム灯)を更新する際に、Hf(高周波型)蛍光灯などの高効率照明灯具に交換することで、照明灯具の使用電力を30%削減します。

また、照明灯具の前面カバーを金属製の枠のない構造に変更することで灯具の設置間隔を広げ、設置灯具数を削減しています。

さらに、省電力で従来の照明器具と同等の照度を確保可能なLED照明灯具の導入も検討しています。



ナトリウム灯使用例

Hf蛍光灯使用例

トンネル換気設備の運転制御の改善

中央自動車道(中央道) 恵那山トンネルでは、換気設備の制御プログラムを改善し、きめ細かい管理を行うことで、2010年度は、年間電気使用量を約720万kWh削減しました。

効率的な土運搬

新東名の建設現場では、綿密な施工計画と、路面整備や走行の安全確保を行うことで、工事車両が通常20km/hで走行するところを、50km/hでの走行を可能としました。

2010年度は、57万m³を高速土運搬しましたが、通常走行と比較して約1,440t(約34%)のCO₂の排出を抑制しました。併せて、工程短縮と運搬経費を大幅に削減しています。



新東名の建設現場(静岡市)を土運搬するダンプトラック

再生可能エネルギーの活用

当社では、太陽光や風力、湧水などの再生可能エネルギーを休憩施設や道路設備に活用し、CO₂排出量の抑制を図っています。

太陽光発電設備の整備

当社の太陽光発電設備は、1995年度にお手洗いの照明用として足柄SAに18kWを設置以降、現在も整備を続けています。2010年度までに合計約2,500kWhの太陽光発電設備を設置しました。

▼太陽光発電設備の設置箇所

設置年度	設置場所	発電規模	利用方法
1995	東名 足柄SA(上り)	18kW	お手洗いなど
2000	中央道 談合坂SA(上り)	15kW	
2007	新名神 土山SA(上・下一体)	10kW	
2008	紀勢道 奥伊勢PA(上り・下り)	12kW	
2009	東名 海老名SA(上り)	23kW	事務室
	東名 静岡IC	100kW	
	東名 富士川SA(上り・下り)	160kW	
	東名 上郷SA(下り)	100kW	お手洗いなど
2010	名二環 高針JCT～名古屋南JCT	2,016kW	道路照明
	東名阪道 御在所SA(上り・下り)	60kW	お手洗いなど
	名神 多賀SA(下り)	20kW	

写真は2011年3月20日に開通した名二環の名古屋南JCT～高針JCT間に設置した2,016kWの道路照明用の発電設備です。この区間は、半地下構造となっており、昼間の照明が必要となりますが、その電力をほぼ太陽光発電設備で賄っています。



名二環に設置した太陽光発電パネル

湧水を活用した水力発電や湧水を熱源とするヒートポンプによる融雪

東海北陸自動車道(東海北陸道)の飛驒トンネルで、トンネル照明用の電力供給を目的に、トンネルから発生する大量の湧水を有効活用し、50kWの小水力発電設備を、2010年12月に設置し運用を開始しました。

また、融雪設備に湧水を熱源としたヒートポンプ方式のロードヒーティングを設置することで、約883t-CO₂/年を削減しています。

CO₂排出を抑制し持続可能社会に貢献する「エコ・エリア」の推進

サービスエリアなどにおいて、CO₂削減のためにサイン看板や店舗内にLED照明を採用したり、再生資源の利用促進のためリサイクル建材の採用を行っています。

さらに、商業施設のリニューアルに合わせ、室内環境保持を目的とした複層ガラスや遮熱シートの採用によるCO₂排出抑制や、ウッドデッキなどへの再生資源の採用など、環境配慮型の「エコ・エリア」を推進し、持続可能な社会に貢献するサービスエリアを創造しています。

	2010年度		2011年度計画値
	計画値	実績値	
当該年度	5エリア	5エリア	4エリア
累計	5エリア	5エリア	9エリア

「エコ・エリア」の取り組み

LED照明灯具(省エネルギー)
商業施設内の照明に使用して省電力化複層ガラス・遮熱シート(省エネルギー)
建物ガラス面に使用することで、空調負荷を低減ペレットボイラー(リサイクル)
燃料として、木質ペレット(再生資源)・重油を併用したボイラーの導入

緑のカーテンプロジェクト

東名 牧之原SA・中央道 双葉SA・東海北陸道 関SA・北陸道 有磯海SAなどで、アサガオ、ゴーヤなどを利用した「緑のカーテンプロジェクト」に取り組みました。葉が生い茂ることで夏の日差しを遮り、見た目にも涼しい空間の提供をめざしました。



北陸道 有磯海SAの緑のカーテン

社員の声

高速土運搬による環境負荷の低減

東京支社 静岡工事事務所 工務課長 北村 佳則

新東名高速道路の工事現場では、工事中の高速道路の本線を有効活用して効率的な土運搬を行うため、通常では現場内におけるダンプトラックの走行速度が20km/hのところ、50km/hで走行ができるよう、高速土運搬路を整備して工事を行いました。

土運搬は、2006年より合計490万m³、ダンプ台数で約110万台の土をこの高速土運搬路を利用して運び、2011年夏に完了します。

この高速土運搬により、ダンプトラックの走行時の燃料消費量、CO₂排出量が抑制でき、20km/h走行時でのCO₂排出量が約3万7千tに対し、50km/h走行時では、約2万4千tとなり、約1万3千t(約35%)のCO₂の排出量が低減されました。

また、この高速土運搬により工程短縮、運搬経費も大幅に削減することができました。



廃棄物の発生抑制

持続可能な社会の貢献に向け、施工計画や工法の工夫・技術開発により、3Rのうち廃棄物の発生抑制(リデュース)に努めます。

■照明ランプの長寿命化

道路やトンネルなどの照明設備に使用している「高圧ナトリウムランプ」の長寿命化を図り、従来の約18,000時間から約24,000時間(約30%向上)に伸ばしました。これにより、廃棄物の削減を図っています。2010年度は、照明灯具のランプ交換などで長寿命高圧ナトリウムランプを約1,100灯設置しました。今後は、長寿命化高圧ナトリウムランプと同じ約24,000時間の長寿命ながらより自然光に近いセラミックメタルハイドランプを採用し、また長寿命のLED照明灯具の導入を検討しています。



セラミックメタルハイドランプの照明設備

■黄鉄鉱の活用

愛知県内の新東名では、黄鉄鉱を含む土砂が出土します。黄鉄鉱含有土は水や空気と接触することで、強酸性水(硫酸)を生成してしまうため、適切な廃棄処分が必要となります。新東名では、雨水または表面水が盛土内に侵入しないように盛土内に封じ込め、高速道路の盛土材として活用することで、廃棄物の発生の抑制を図りました。

廃棄物の再使用・再生利用

持続可能な社会の貢献に向け、関連する法令を遵守し、その趣旨に沿って廃棄物を資源と考え、3Rのうち廃棄物の再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)を積極的に行っています。

■ガードレール・トンネル換気設備の再使用

高速道路のガードレールは適時、更新・交換されています。撤去されたガードレールのうち、再使用可能なものは回収・再メッキをして再設置しています。

また、高速道路の4車線化(片側2車線化)工事などで、2車線(片側1車線の対面通行)時よりトンネル内の換気がスムーズになることで、不要となったトンネル設備(ジェットファン・送風機・集塵機装置)を回収し、分解・整備(オーバーホール)して、再使用しています。



分解・整備

■植物発生材のリサイクル

高速道路の草刈り・樹木の剪定で発生する植物発生材や、建設工事で発生する根株などをリサイクルして、廃棄物の減量に努めています。

■高速道路での「緑のリサイクル」

営業中の高速道路内で繁茂し過ぎた樹木や雑草は、適切に剪定・草刈りを行い、植物発生材として当社のリサイクルプラント(5箇所)に運び、堆肥やチップを製造して植栽の雑草防止(マルチング)用資材、建設中高速道路の植生基盤材などに使用しています。また、ペレット化を行い、サービスエリアで暖房の燃料として再生利用しています。2010年度のリサイクル率は約95%でした。



草刈り

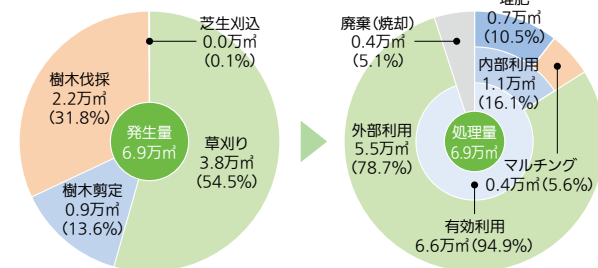


プラント(堆肥化)



リサイクルした堆肥

▼「緑のリサイクル」量(2010年度)



ペレット化した植物発生材



ペレットストーブ

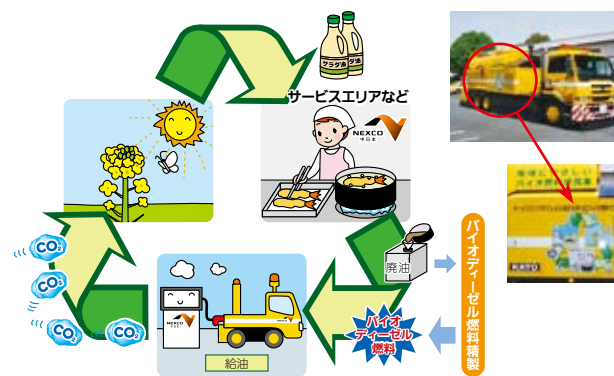
▼ペレットストーブ設置箇所

道路	休憩施設	上下線	基数
中央道	双葉SA	上り線	1
		下り線	1
	諏訪湖SA	上り線	1
		下り線	1
長野道	梓川ISA	上り線	1
		下り線	1
北陸道	賤ヶ岳SA	上り線	2
		下り線	2
	尼御前SA	上り線	2
		下り線	2
	小矢部SA	上り線	2
		下り線	2
東海北陸道	有磯海SA	上り線	2
		下り線	2
東海北陸道	城端SA	上下線	2

■廃食用油のリサイクル

サービスエリアなどの営業施設で廃棄処分されるてんぷら油などをバイオディーゼル燃料(Bio Diesel Fuel)としてリサイクルし、標識車などの燃料として利用しています。化石燃料の使用を抑制し、カーボンニュートラル(一連の活動で排出されるCO₂と吸収されるCO₂が同じ量と定義)であるバイオディーゼル燃料を使用することで、地球温暖化の抑制を図っています。2010年度は、軽油を使用した場合と比較して、約76tのCO₂排出[※]が抑制されたことになります。

▼廃食用油のリサイクルイメージ図



▼バイオディーゼル燃料の使用実績

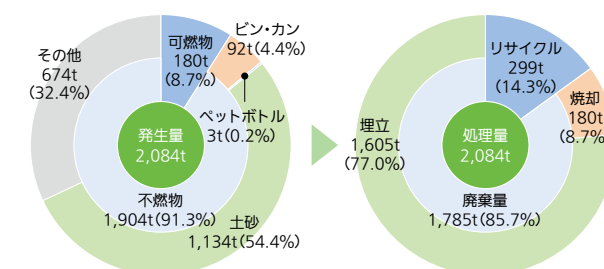
事務所名	試行開始年	車両台数	バイオディーゼル燃料の混合率(%)	2010年度	
				バイオディーゼル燃料使用量(ℓ)	CO ₂ 抑制量(kg-CO ₂)
富士(保)	2006	5	100	12,300	31,980
静岡(保)	2009	2	100	5,100	13,260
袋井(保)	2009	2	100	9,600	24,960
甲府(保)	2009	1	100	100	260
彦根(保)	2008	7	5	1,950	5,070
計	—	17	—	29,050	75,530

※バイオディーゼル燃料1ℓあたりCO₂排出抑制量を2.6kgで換算しています。

■路面清掃に伴う発生材のリサイクル

路面清掃は、路面上にある落物物やごみ・土砂などを収集・清掃する作業です。路面清掃で集めた廃棄物は分別し、びん・缶・ペットボトルなどの再資源化が可能なものはリサイクルしています。また、再資源化できないものは、廃棄物の処理に関する法律に従って適切に処分しています。

▼路面清掃に伴う発生材のリサイクル

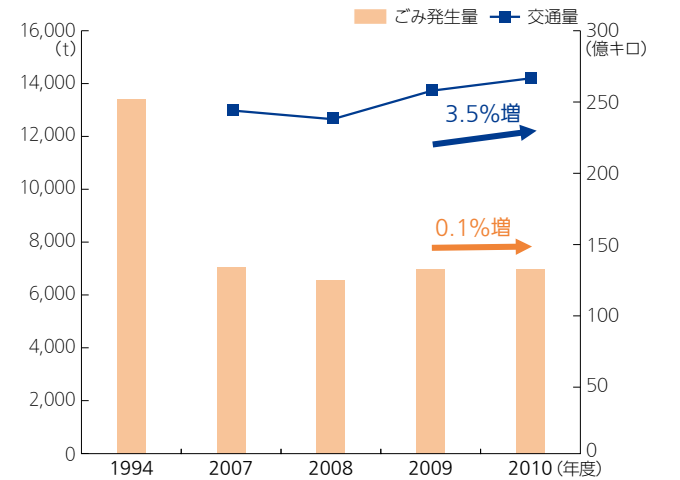


■サービスエリアでの3Rの取り組み

当社グループでは、お客さまやテナントのご協力をいただきながら、地球環境への負荷低減の観点から循環型社会へ向けた、3Rへの取り組みを推進しています。ごみの減量化の取り組みや社会的意識の高まりで、休憩施設のごみ発生量は1994年度のピーク時では約13,400tでしたが、2010年度には約7,171tに減少(約47%減)しました。

2009年度との比較では、交通量が増加(3.5%増)していますが、ごみ発生量は変わっていません(0.1%増)。

▼サービスエリアでのごみ発生量



■ごみの分別とリサイクルへの取り組み

サービスエリアでは、お客さまのご理解とご協力のもと、地球環境にやさしい「エコ・エリア」をめざして、ごみの削減やリサイクルなど環境負荷低減に取り組んでいます。

ごみを6つに分別するごみ箱「リサイクルボックス」をすべてのエリアに設置しています。また、ごみの分別のお願いやエコPRを行い、ごみ分別の徹底とリサイクル率の向上に取り組んでいます。2010年度には資源ごみのリサイクル率は、100%を達成しました。

また、お客さまのご利用の多いサービスエリアでは、「リサイクルボックス」の扉をスケルトン(ボックスの中が見える)タイプにして、分別しやすくしています。加えて、ごみの投函口を小さくすることで、レジ袋などにまとめたごみを捨てることのできない構造にし、ごみの分別を促す取り組みを行っています。



スケルトンタイプの「リサイクルボックス」

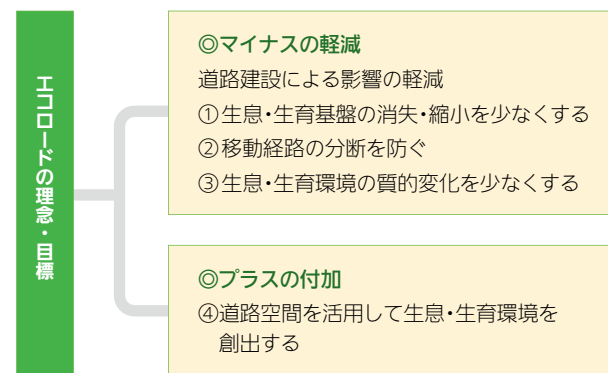
生物多様性への配慮

日本は緑豊かで地形の変化に富み、温暖湿潤気候特有の明瞭な四季のもと、多種多様な動植物や自然環境に恵まれています。NEXCO中日本では、生物多様性に配慮したエコロード（自然環境に配慮した道）づくりに取り組み、自然環境の保全に努めています。

■エコロード（自然環境に配慮した道）づくり

道路建設は、周辺の動植物の生息・生育基盤の消失、動物の移動経路の分断、生息・生育環境の質的変化をもたらす恐れがあります。このため、当社では、建設に際して地域生態系への影響を回避・低減し、新たな生息・生育環境の創出などを進めて、生物多様性の保全に取り組んでいます。

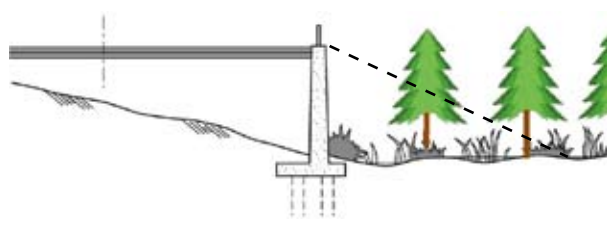
▼エコロードの取り組み



事例 1 生息・生育基盤の消失・縮小を少なくする

新東名の建設予定地で、タヌキノシヨクダイ※の分布が1999年に確認され、2000年に個体調査を実施しました。確認された個体の保全について学識経験者の意見をいただき、道路構造をのり面から擁壁に変更することにより改変面積を約6割に縮小しました。また改変が避けられない箇所を確認した個体については非改変地へ移植を行いました。移植先では日照調整などの保全対策を行い、その結果、継続的に生育が確認されています。

※ 環境省レッドデータブック 絶滅危惧ⅠB類



道路構造変更による保全状況（破線の盛土から擁壁へ）



現地の保全状況



タヌキノシヨクダイ（2008年6月）

新東名の建設区間では、現地調査の結果、高速道路と交差する河川において、絶滅危惧種に指定されるナガレホトケドジョウ※が確認されました。2007年度以降保護対策として、工事による影響を受けない箇所、もしくは生息環境が類似した近隣河川への移植を実施しています。

※ 環境省レッドデータブック 絶滅危惧ⅠB類



採取したナガレホトケドジョウ



ナガレホトケドジョウの放流状況

事例 2 移動経路の分断を防ぐ

首都圏中央連絡自動車道（圏央道）では動物の移動経路を確保するためのけもの道となるトンネル（高速道路下の通路）や、動物のための水たまりを造っています。

夜間の自動撮影カメラを設置したところ、さまざまな動物が利用していることがわかりました。



水を飲みに来たイノシシ



アナグマのトンネル利用

事例 3 生息・生育環境の質的変化を少なくする

新東名の建設予定地では、国の天然記念物にも指定されているゲンジボタルが広く生息する区域があり、その区域で河川改修工事が必要となりました。

そこで、2009年度の工事の際には、ゲンジボタルの生息環境を損なわないように、現地の表土を利用した自然環境型ブロック積み護岸の採用や、河床ヘ Wand（流水の淀み場）を設置し、ゲンジボタルの餌となるカワニナを放流するなどの対策を行いました。



自然環境型ブロック積みを用いた改修河川

東海北陸道 飛騨トンネル付近は、岐阜県のクロサンショウウオ繁殖地の中でも産卵数の多い貴重な生息地となっています。

クロサンショウウオ※の生息環境の確保を目的として、2004年に産卵場所として産卵池を整備しましたが、近年、イノシシの水浴びや土砂の流入などで、水量が減るなど生息環境が悪化しており、産卵数が減少してきました。

そこで、2010年度に学識経験者の指導のもと、繁殖地を安定させるため、新たな産卵池を整備して、産卵を確認することができました。

※ 岐阜県レッドデータブック 絶滅危惧Ⅱ類



クロサンショウウオ



クロサンショウウオの卵

事例 4 道路空間を活用して生息・生育環境を創出する

東名阪道 弥富ICと蟹江ICでは毎年春になると数千羽のサギが飛来して営巣しています。高速道路に野鳥が大規模なコロニー（集団営巣地）を形成する事例は全国的に例がありません。当社は、開発が進みサギの生息域が失われつつある中、高速道路が自然を守る場所と考え、お客さまの安全を図りながら野鳥と高速道路との共生の道を選び、生息環境の保全に努めています。

なお、高速道路の機能と安全を損なうことなくサギの生息環境を保全し、野鳥と高速道路との共生を継続的に図っていくことを目的として、「愛知県弥富野鳥園」「日本野鳥の会愛知県支部」と、覚書を締結しました。



サギのコロニー



冊子



お客さまの安全とサギを守るためのフェンス

社員の声

サギとの共生をめざします

名古屋支社 桑名保全サービスセンター 副所長 梁川 俊晃

インターチェンジの木々いっぱい白いサギが群がる光景は驚きです。高速道路を管理するうえではやっかいな住人ですが、野鳥園や野鳥の会と連携・協力しながら、高速道路の安全とサギたちが安心して子育てできる環境を両立させていきたいと考えています。

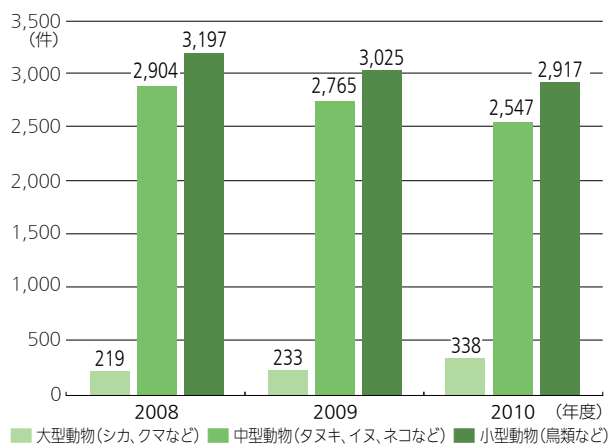
「なぜ高速道路にサギが？」という疑問に答えた「高速道路がサギのすみかになったわけ」という冊子をつくりました。これを読んで地域の方々が共生の取り組みを理解してくれたり、子どもたちが身近な環境問題について考えたりするきっかけになればいいなと思っています。



野生動物などの保護

高速道路は自然豊かな地域や野生動物の生息地を通過する箇所があることから、走行車両と野生動物の衝突事故が起きています。当社では走行車両の安全確保と野生動物の保護のために、ドライバーへの注意喚起や動物侵入防止柵設置などの対策を行っています。

▼衝突事故件数※



当社が管理する高速道路での、2010年度の野生動物などの衝突事故件数は5,856件で、このうち最も多いのは小型動物（鳥類など）です。道路で事故にあった動物の死肉を求めて鳥類が飛来するケースもあり、二次的な衝突事故の一因になることから、速やかな死骸の回収に努めています。
※高速道路の本線内で、パトロールにより動物の死骸を回収した件数を表しているため、すべてが衝突事故とは限りません。



動物侵入防止柵の嵩上げ

エコロードに対応した地域性苗木

自然環境が豊かな地域を通過する道路の区間では、建設現場などに自生する樹木のタネをあらかじめ採取し、そのタネから（株）高速道路総合技術研究所緑化技術センターで育て、地域性苗木として高速道路ののり面などに植える緑化手法を展開しています。

当社では、1996年に全国の高速道路で初めて地域性苗木によるのり面の緑化を行って以来、継続して地域性苗木を用いた自然生態系の保全に努めてきました。2010年度末までに全国のNEXCO高速道路会社では、約200種78万本の地域性苗木を植えました。そのうち約55万本を当社が植えています。

なお、地域性苗木は土木学会「環境賞」及び「日経地球環境技術賞」を受賞しました。



事例 八王子JCT

1996年に日本で初めて地域性苗木を中央道に試験的に植栽しました。その後、圏央道の建設で地域性苗木を使った緑化を実施しています。植栽後十数年が経過した地域で造園専門家のご協力をいただいて、樹木の生長量や自然の回復度合いなどの追跡調査を実施し、結果を建設や管理に反映しています。



圏央道 八王子JCT 植栽直後
(2000年5月)



圏央道 八王子JCT 植栽11年後
(2011年5月)

ステークホルダーの声

ロードマップの続き：一過性で終わらせないために

名古屋市立大学大学院 経済学研究科 香坂 玲 准教授

2010年10月に開催されたCOP10では、2002年のCOP6で採択された「同年までに生物多様性の損失速度を顕著に減少させる」という目標が達成されなかったことが確認された。そこで2020年に向けては、より具体的に達成状況が把握できる20項目からなる「愛知目標」が合意された。ただ、愛知目標は宿題を先延ばしした「追試」ともいえ、継続して保全やNPOを含む市民社会、企業、行政の連携した体制づくりが重要となる。

NEXCO中日本では、COP10以降も一貫して、市民社会と連携しながら、地域の生態系に配慮した地域性苗木の活用に取り組んできた。戸田川緑地でのCOP10の記念植樹にも貢献し、私も緑化技術センターでの苗木の栽培やさまざまな試行錯誤の努力の現場をみてきた。植林は、活動を通じた環境教育、二酸化炭素の固定、生き物の生息地の確保、また土砂崩れを防ぐといった防災の役割を期待されている。道路を緑化し安全・安心を確保するという側面に加えて、地域性に配慮しながら生態系への貢献もめざした活動であり、NEXCO中日本の息の長い活動に期待したい。



沿道環境への貢献

高速道路は、自然の多い山間部や住宅地に近接する都市部など多種多様な空間を通過します。都市部では、地域の皆さまの生活基盤の確保を目的とし、「環境影響評価法」「騒音規制法」などの趣旨に沿って、生活環境の保全に努めています。

騒音対策

道路交通騒音の低減に向け、道路の計画・設計から営業まですべての段階で、騒音対策などを実施しています。

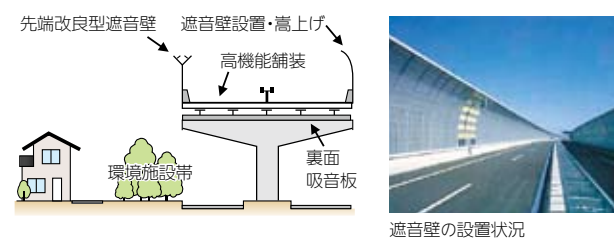
この対策には当社だけでなく、沿線自治体、警察、お客さま、自動車メーカーなど、関係者が一体となり取り組んでいます。

遮音壁・環境施設帯・特殊吸音ルーバーの設置

事前の騒音予測や沿道自治体からの要請に基づき、計画を立て遮音壁を設置しています。また、住居の立地条件や土地利用の状況により、必要な地域には環境施設帯を設置しています。

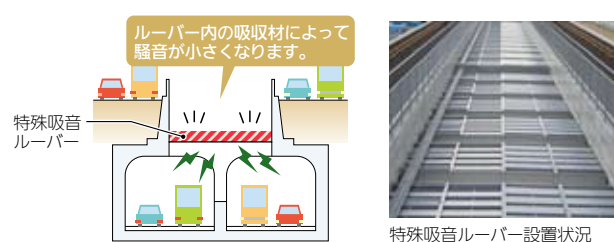
名古屋では、市街地を通過する掘割構造となったため、掘割上部の特殊吸音ルーバーを開発・設置して沿道環境の改善に努めました。

▼騒音対策の概念図(遮音壁・環境施設帯)



遮音壁の設置状況

▼騒音対策の概念図(特殊吸音ルーバー)



特殊吸音ルーバー設置状況

▼遮音壁設置の計画・実績(累計延長)

2010年度 計画値	2010年度 実績値	2011年度 計画値	長期計画値 (2015年度)
899km	898km	902km	要請に応じ対策実施

高機能舗装

通常の舗装に比べ、水はねが少なく、さらに騒音も低減する効果(2～4db)がある舗装を採用しています。



高機能舗装の施工状況(写真右側)

▼営業中路線の高機能舗装計画・実績

2010年度 計画値	2010年度 実績値	2011年度 計画値	長期計画値 (2015年度)
143km・車線 (4,956km・車線) 81%	127km・車線 (4,940km・車線) 80%	88km・車線 (5,028km・車線) 81%	340km・車線 (5,368km・車線) 87%

()内は累計車線延長

光源対策

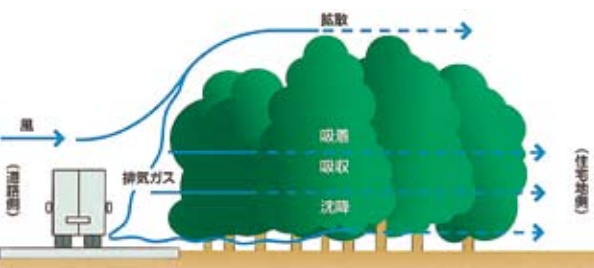
高速道路のインターチェンジ(IC)、サービスエリアや一定の条件を満たす重交通量区間の本線部には、交通安全のために道路照明を設置しています。そこから漏れた光が隣接する畑の農作物や周辺の動植物に影響を及ぼしたり、天体観測の支障となる場合には、低位置照明設備などの光源対策を実施しています。

大気汚染対策

当社では、高速道路ネットワークの整備、付加車線の設置やETCの普及による走行速度の向上とりのり面の樹林化などにより、CO₂だけでなく、NOxやSPMの排出削減・抑制することで高速道路周辺の大気環境を改善しています。



名神 生活環境を保全している樹林



樹林によって大気がきれいになる仕組み(イメージ図)

環境コミュニケーション ～お客さまや地域の皆さまとともに～

当社グループでは、お客さまや地域の皆さまとともに、社会との環境コミュニケーションを大切にし、地域との連携を進めています。

生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）開催への協力

COP10開催への積極的な協力・支援として、生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会のポスターデザインをもとにCOP10開催のオリジナルポスターを作成し、SA・PAなどに掲示してCOP10の広報活動を行いました。

中日新聞が主催するCOP10パートナーシップ事業「エコキャップアニマルプロジェクト※」に賛同し、透明な動物型（アクリル製）の回収ボックスを上郷SAに設置しました。

※ペットボトルのキャップを回収してリサイクル業者へ売却して得た利益を「WWFジャパン」へ寄付し、生物多様性を支援する活動に役立てる事業。



オリジナルポスター



カエル型の回収ボックス

COP10関連イベントへの参加

COP10を盛り上げるため、積極的に参加したイベントは次のとおりです。

主なイベントへの参加状況

●『国際生物多様性の日・COP10半年前記念行事』

開催日: 2010年5月22日(土)・23日(日)
場 所: オアシス21

●『生物多様性交流フェア』

開催日: 2010年10月18日(月)～29日(金)
場 所: 白鳥会場及び名古屋国際会議場

●『COP10サイドイベント』

開催日: 2010年10月26日(火)
場 所: 名古屋国際会議場 など



COP10半年前記念行事の様子



生物多様性交流フェアの様子

「ハイウェイ緑の里プロジェクト」の推進

地域の皆さまとの連携・協働により、当社が建設・管理する高速道路のり面などの緑化・美化をすることで、地球環境の保全や沿道環境の改善・維持向上を図ることを目的とする「ハイウェイ緑の里プロジェクト」を2007年5月より実施しています。

地域の自治会、学校や企業の皆さまのご協力をいただき、2010年度は8箇所で開催を実施し、累計26箇所となりました。これからも、地域の皆さまのご協力のもと、活動の拡大と継続した管理に努めます。



ご協力: 静岡市葵区内牧町内会
実施箇所: 新東名
実施日: 2011年3月



ご協力: (株)金の鍵・社会福祉法人千歳会
実施箇所: 名神 彦根市内
実施日: 2010年6月

種子採取を通じた児童との交流

圏央道 相模原IC～八王子南IC間及び紀勢自動車道(紀勢道) 紀伊長島IC～紀勢大内山IC間の緑化で使用する苗木の育成と子どもたちの自然学習を目的として、合計約110名の地元の小学生による地域性苗木の種子採取を行いました。苗木が大きくなった際には、種子をとってもらった児童と一緒に高速道路のり面に植栽する予定としています。



圏央道で種子採取をした子どもたち



紀勢道で種子採取をした子どもたち

ギフチョウの保全

東海北陸道 城端SA近隣に生息しているギフチョウが飛来する環境を整備するため2000年に雑木林となる苗木と餌となるヒメカンアオイの植栽を行いました。植栽から約10年が経過し、ギフチョウが生息可能な環境が整ったことから、2010年4月に城端小学校の生徒とギフチョウ里づくりの会などの関係者の方々約120名が参加して、サービスエリア内で初めての放蝶会を行いました。



放蝶会の様子



舞い立つギフチョウ

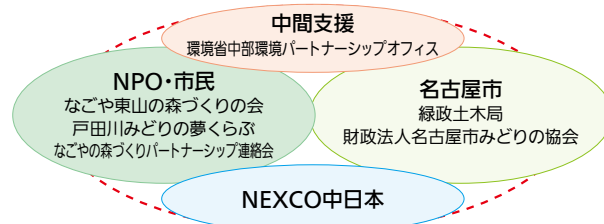
郷土種保全協議会活動の推進

「地域連携の強化、地域社会・経済への貢献」「環境・持続可能社会への貢献」はCSR活動の重点領域です。その一環として、2009年5月、名古屋市やNPOと協議会を設立し、「生態系保全」「地域性苗木育成」の技術を高速道路以外でも活かす活動を開始しています。活動内容は、名古屋市内の公園などで採取した郷土種樹木の種や枝から地域性苗木を育て、名古屋市内の緑地に植えるものです。2010年度は、育てた地域性苗木を、戸田川緑地と東山の森に植樹を行いました。



戸田川緑地での植樹

▼【郷土種子を活用した名古屋の緑化及び生態系保全推進協議会】の構成



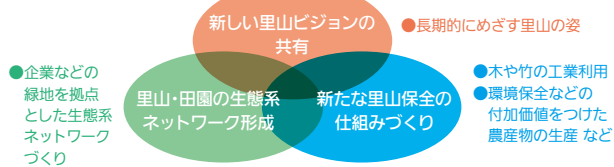
西三河生態系ネットワーク協議会への参画

岡崎から豊田にかけての西三河地域は、日本を代表する産業の集積地である一方、愛知県内で最も多くの里山が存在する地域となっています。

西三河地域の生態系の保全をめざし、地域住民・NPO・行政や学識者・民間企業21団体と一体となった「西三河生態系ネットワーク協議会」が2011年3月に設立されました。

当社も協議会に参画し、当社の緑化技術を活かして西三河の里山保全による生態系ネットワークの保全をめざします。

▼検討テーマ



ヤギによる草地管理

東海北陸道 城端SAでシバヤギ7頭のヤギ牧場を開設し、高速道路をご利用されるお客さまとのふれあいの場を設け、別の箇所でもヤギを3頭飼ひ始めました。併せて、ヤギがサービスエリアや高速道路のり面の草を食べることに伴い、廃棄物の削減、草刈機による騒音の抑制、化石燃料に頼らない草地管理を行っています。



ヤギの放牧状況

フォレストサポーターズへの参加

森林のチカラを取り戻すために始められた「美しい森づくり推進国民運動」を全国で展開していくため、さまざまな個人・団体が「フォレストサポーターズ」に参加し、協働して「森にふれよう」「木をつかおう」「森をささえよう」「森と暮らそう」の活動に取り組んでいます。

当社では、上記4つの活動のうち「森をささえよう」「木をつかおう」に取り組んでいます。「森をささえよう」では、地域性苗木の活用・盛土のり面の樹林化・緑の里プロジェクト・緑のリサイクルの推進、「木をつかおう」では立入禁止柵や樹木の支柱などへ木材を用いるなどの活動に取り組んでいます。今後も、取り組みを継続していきます。



道路景観への配慮

当社グループでは、お客さまと地域の皆さまにとって良好な環境を提供するため、地域環境への配慮の観点から「道路景観」の整備を進めています。

高速道路景観理念の整備

当社グループでは、景観理念を2009年4月に制定し、高速道路ネットワーク整備における景観方針を示し、実践することで、質の高い高速道路景観の実現をめざしています。

中日本高速道路景観理念

質の高い優れた社会資本を目指すために、次の基本理念により行動する。

- ①高速走行にあたって、安全・安心・快適を感じられる道路空間を構築する。
- ②高速道路の通過する地域を眺め、理解・認識できる新たな景観を創造する。
- ③通過する地域の自然環境や社会環境と共生する高速道路を目指す。
- ④お客さまや地域の皆さまが楽しめる休憩施設空間を創造する。



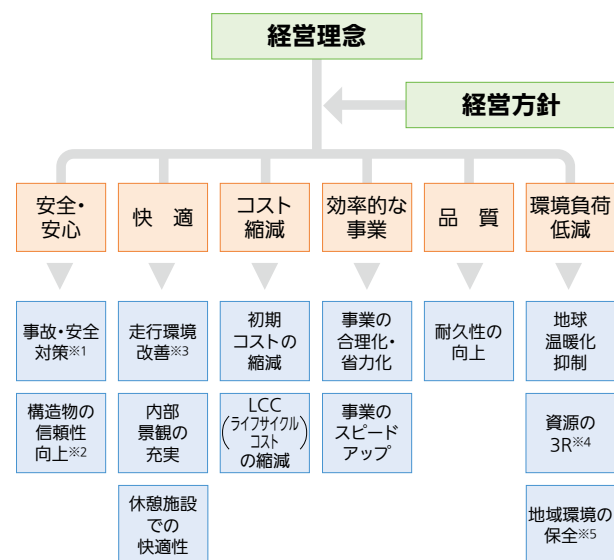
質の高い高速道路景観整備の事例(中央道 小牧JCT～小牧東IC)

技術開発の推進

NEXCO中日本では、(株)高速道路総合技術研究所の活用や民間会社・大学・グループ会社などとの共同研究により新技術・新工法・新材料の開発を推進しています。

技術開発の理念

安全・安心・快適で、時代をリードする高速道路空間を、技術開発により創出します。



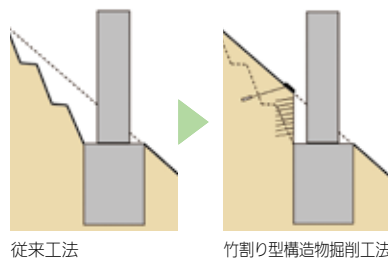
※1 第三者影響度を含む ※2 災害に強い道路を含む ※3 渋滞対策を含む
※4 3R:Reduce(発生抑制)、Reuse(再使用)、Recycle(再生利用) ※5 外部景観を含む

技術開発事例

環境や景観に配慮した技術開発として、地球にやさしい施工方法や設備技術の開発・研究に取り組んでいます。

自然地掘削最小工法の開発 (竹割り型構造物掘削工法)

急峻な斜面に橋脚を建設する場合に、従来工法では広範囲にわたって掘削するため、広大なのり面が発生しました。そこで、橋脚の周囲にリング状の鉄筋コンクリートの壁を構築し、ロックボルトや吹付コンクリートなどで周辺の地山を補強しながら掘削する工法(特許第3516391号)を開発しました。これにより掘削面積を最小にして、自然環境への影響を少なくするとともに、景観にも優れた橋脚の建設が可能になりました。新東名など急峻な地形が多い路線では積極的に採用しています。

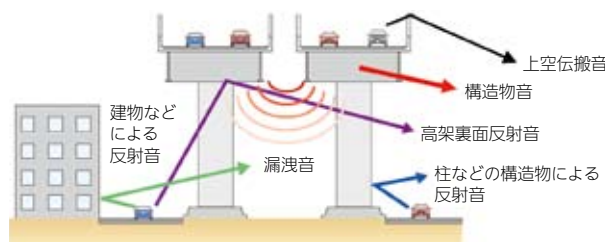


竹割り型構造物掘削工法で施工された橋脚

音源探査装置による効率的な調査技術

高速道路の周辺では、遮音壁の上から回り込む上空伝搬音や、橋梁の本体から発生する構造物音、併設する一般道からの騒音が構造物に反射し伝わる反射音などさまざまな騒音が存在します。音源探査装置は、苦情の原因となる騒音の発生源を容易に特定するために、新たな調査技術の開発を行い、製作されました。当社では、今後も新たな環境技術の開発に取り組んでまいります。

▼さまざまな音源(イメージ図)



着色部が音の発生箇所



音源探査装置

景観配慮型草地管理の研究

高速道路のICでは地域の玄関口として「美しい芝生地」をめざしていましたが、それには高度な管理が必要となります。ICでは40km/h程度の走行時の景観が主であり、芝生地のような「美しい草地」でも景観的に代用が可能であると考え、抑草剤を主体としたケミカルコントロールによる「景観配慮型草地管理技術」を開発しています。これにより、管理作業低減による地球温暖化防止(CO₂削減)と交通規制・維持管理費の削減が図れます。



美しい芝生地



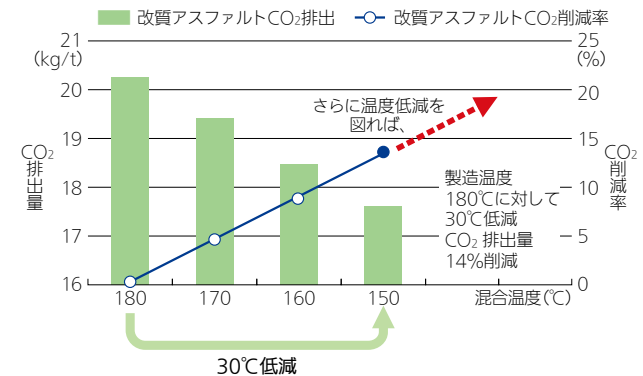
芝生地のような美しい草地

共同研究の推進

当社グループでは、最新技術情報の収集や共同研究協力者を広く公募し、環境負荷の低減につながる技術開発を推進しています。

事例1 アスファルト舗装の中温化技術に関する研究

アスファルトの製造温度を低下させる特殊添加剤などの技術を用いて、従来の混合物のすべり抵抗性、耐久性などを保持したうえで、製造時の温度を180℃から100℃程度まで低下させる技術を開発しています。これにより、CO₂の排出抑制による地球温暖化防止と、アスファルト舗装工事による交通規制時間の短縮化が図れます。



事例2 有機発生材の3Rシステムに関する研究・開発

高速道路事業では、刈草・剪定枝・伐採木などの多種多様な有機性発生材が排出されます。地球温暖化防止(CO₂削減)、維持管理費削減の観点から、こうした発生材を利用した3R(リデュース・リユース・リサイクル)技術について、以下のとおり検討しています。

▼植物発生材を活用した3Rシステム

技術分類	高速道路事業への導入検討
直接燃料化	×
液体燃料化	×
気体燃料化	○
固形燃料化(ペレット化)	○
肥料化(堆肥化)	○
飼料化	×
プラスチック化	×

事例3 植物発生材を活用したペレット製造技術

共同研究で開発された技術をもとに、植物発生材を用いたペレット製造及び利用検討を進めることで、循環型エネルギーへの転換や一般廃棄物の低減に取り組んでいます。



刈草破裁



刈草から製造されたペレット



刈草ペレットの燃焼実験状況

環境マネジメントへの取り組み

NEXCO中日本では「環境・持続可能社会への貢献」の考えのもと、当社の環境活動を継続的に改善していく環境マネジメントを経営に取り入れて活動を進めてまいります。

環境活動成果

高速道路の環境に対する影響は広範囲に及びます。本報告書では、把握可能な代表的な環境への影響を以下にまとめました。

当社は、環境活動による環境への影響やコストを今後も幅広く定量的に把握していきます。

ISO14001の認証取得

2010年度本社では、環境方針に基づき、環境マネジメントシステム(EMS)を構築しました。本社はこれに基づき環境活動を行っています。当該EMSは2010年12月にISO14001を認証取得しました。

2011年度はEMSに基づく環境活動をすべての支社及び事務所へ拡大する予定です。



ISO14001 登録証(複写)

環境活動の計画と実績(総括)

	指数	2010年度		2011年度 計画値	長期計画値 (2015年度)	ページ
		目標値	実績値			
交通渋滞対策の実施						
高速道路網の整備 (早期開通へ努力)	整備延長	13km	13km	2km	(2011～2015年度) 305km(累計)	P16・ P50
高速道路のり面の 樹林化	樹林化 面積比率 (対象1,300ha)	99% (累計1,287ha)	99% (累計1,287ha)	100% (累計1,300ha)	100%	P52
資源の3R推進						
建設発生土	再利用率 (発生量)	長期計画値以上	98.8% (1,986千m ³)	長期計画値以上	95%以上	P66
アスファルト・ コンクリート塊	再資源化率 (発生量)	長期計画値以上	99.9% (325千t)	長期計画値以上	98%以上	P66
コンクリート塊	再資源化率 (発生量)	長期計画値以上	99.3% (65千t)	長期計画値以上	98%以上	P66
建設発生木材	再資源化・縮減率 (発生量)	長期計画値以上	96.4% (15千t)	長期計画値以上	95%以上	P66
建設汚泥	再資源化・縮減率 (発生量)	長期計画値以上	99.7% (7千t)	長期計画値以上	95%以上	P66
営業中の高速道路からの騒音対策						
遮音壁の設置	設置延長	899km	898km	902km	(要請に応じ対策実施)	P60
高機能舗装の設置	設置率 (対象6,196km車線)	143km車線 (4,956km車線) 81%	127km車線 (4,940km車線) 80%	88km車線 (5,028km車線) 81%	340km車線 (5,368km車線) 87%	P60

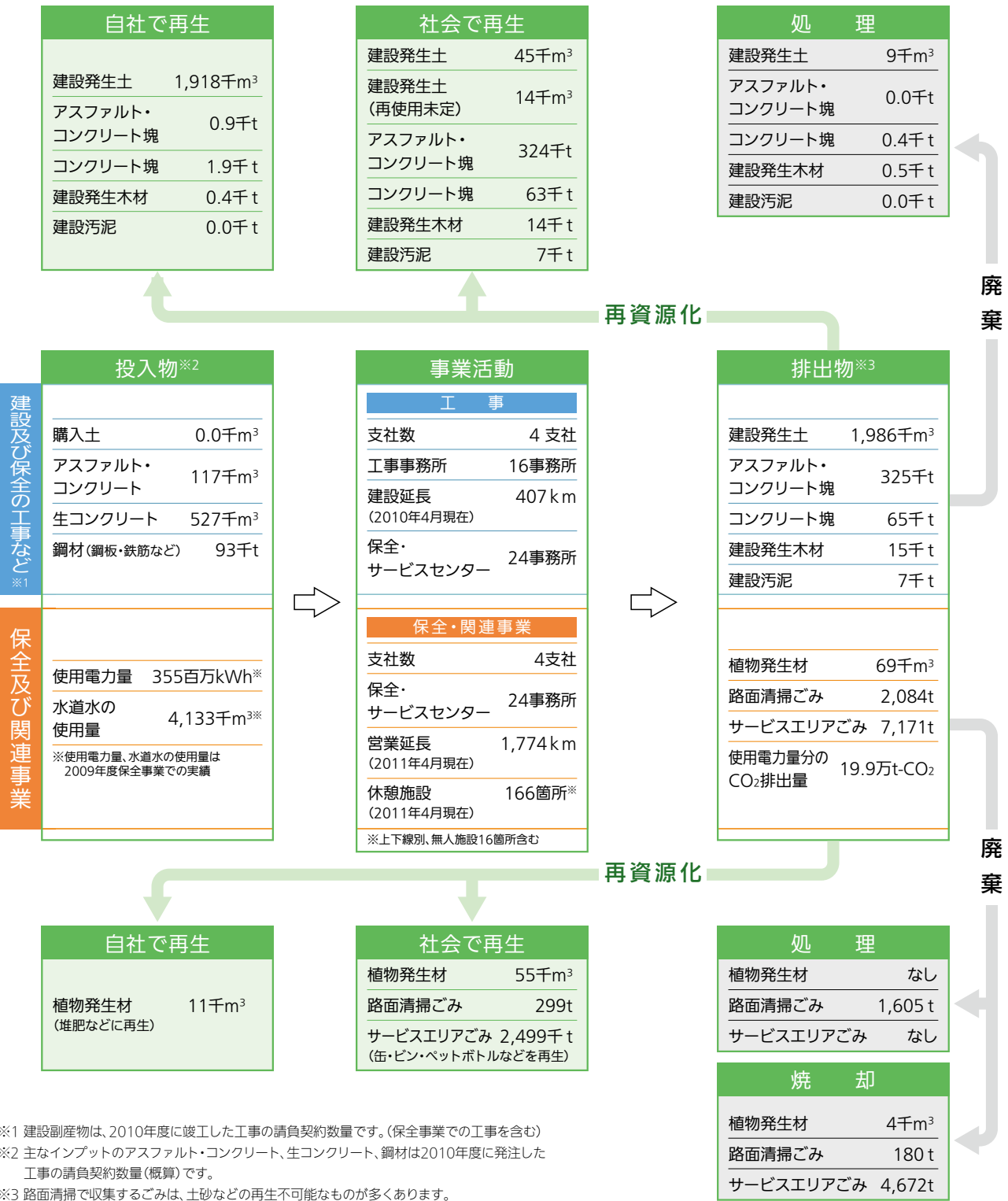
上記表の「資源の3R推進」では、目標・実績は2007年度に完了した「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に定める特定建設資材の工事での再資源化率などを記載しています。長期計画値について、アスファルトコンクリート塊・コンクリート塊及び建設発生木材は、国土交通省の「建設リサイクル推進計画2008」(2008年4月)の計画目標を当社の計画値とし、それ以外については当社独自の計画値としています。

事業活動成果

当社グループでは、高速道路やサービスエリア・パーキングエリアなどの休憩施設の建設、維持・保全とその他の事業を行ううえで、その事業活動が環境に与える影響(環境負荷)を定量的に把握するように努めています。

また、把握した環境負荷の削減をめざして環境に配慮した事業活動や取り組みを企画・立案し、実施しています。事業活動(建設・工事、保全・関連事業)に関わる2010年度の環境負荷のマテリアルフローは、以下のとおりです。

事業活動に伴う環境負荷のマテリアルフロー(2010年度実績)



※1 建設副産物は、2010年度に竣工した工事の請負契約数量です。(保全事業での工事を含む)
※2 主なインプットのアスファルト・コンクリート、生コンクリート、鋼材は2010年度に発注した工事の請負契約数量(概算)です。
※3 路面清掃で収集するごみは、土砂などの再生不可能なものが多くあります。

環境会計の導入

NEXCO中日本では、環境保全活動に関わるコストとその活動により得られた効果を可能な限り定量的に把握し、より客観的に評価することを目的に、2009年度より環境会計を導入しています。そして、環境保全活動をより効率的かつ効果的に推進していきます。

2010年度環境会計の集計結果

1. 環境保全コスト

環境保全コストは事業活動に応じ、事業エリア内コスト、管理活動コスト、研究開発コスト、社会活動コストに分類し、投資額と費用額のそれぞれについて算出を行いました。

その結果、2010年度の環境保全のための投資額は3,213百万円となり、2009年度と比較して1,611百万円増加しました。これは、名二環（2010年度に開通）に設置した太陽光発電設備など、自然エ

環境会計集計の基本的事項

- 1. 集計範囲
NEXCO中日本（一部、グループ会社を含む）の事業活動
- 2. 対象期間
2010年4月1日～2011年3月31日
- 3. 集計方法
環境会計ガイドライン2005年度版（環境省）、NEXCO中日本グループ内での独自の研究成果を参考にして集計。

ネルギーの活用のための投資や遮音壁の新設など、騒音防止のための投資によるものでした。

また、2010年度の環境保全のための費用額は6,575百万円となり、2009年度と比較して7,263百万円減少しました。これは、建設発生土などの再利用・再生利用に関わる発生量の減少に伴い費用が減少したことによるものでした。

分 類			2010年度の取り組みの内容	投資額(百万円)		費用額(百万円)	
				2009年度	2010年度	2009年度	2010年度
(1)事業エリア内コスト	1. 地球環境保全コスト	渋滞対策による地球温暖化防止	ネットワーク整備、ETCレーン整備、渋滞減らし隊キャンペーンなど	603	670	176	172
		省エネルギーによる地球温暖化防止	トンネル内高効率化照明灯具の採用、効率的な土運搬、ヒートポンプ方式の融雪装置の採用、トンネル換気運転制御の改善、自然エネルギーの活用、オフィス活動、エコショップの整備、維持管理など	102	1,452	28	34
		植樹(CO ₂ 吸収)による地球温暖化防止	のり面樹林化	105	105	38	33
	2. 地域環境保全コスト	騒音防止	高機能舗装化、遮音壁の新設、遮音壁の嵩上げ	693	930	856	1,209
		植栽・緑化対策	地域性苗木による緑化	48	48	8	6
	3. 資源循環コスト(資源の3R)	資源の効率的利用、産業・一般廃棄物のリサイクル	照明ランプの長寿命化による廃棄物削減、建設発生土などの再利用・再生利用及び適正な処分、ガードレールのリユース、廃食用油のリサイクル、トンネル設備のリユース、植物発生材のリサイクル、サービスエリアにおけるリサイクル・リサイクルボックスの設置	51	8	12,520	4,872
	(2)管理活動コスト		ISO14001認証・運用、環境対策組織運営、環境情報公開(CSR報告書など)、社員の環境教育	0	0	76	77
(3)研究開発コスト		環境保全対策に資する研究業務	0	0	133	160	
(4)社会活動コスト		COP10関連広報・イベントへの協賛など	0	0	2	12	
合 計				1,602	3,213	13,838	6,575

※「投資額」は、減価償却資産への投資額のうち、環境保全を目的とした支出額を計上しました。

「費用額」は、当社の費用のうち、環境保全を目的とした発生額を計上しました。なお費用額には、減価償却資産の減価償却費を含めることを基本としていますが、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構への引渡し資産にかかる減価償却費については計上していません。

複合コストの考え方

以下の事業活動の環境保全コストは複合コストとして認識されることから、合理的な基準により按分集計しました。

●高速道路ネットワーク整備事業、車線拡幅事業

高速道路の新規整備や車線拡幅により期待される3便益（走行時間短縮便益、走行経費減少便益、交通事故減少便益）の合計額に対するCO₂排出削減貨幣価値換算額の比率(0.2%)でコストを按分しました。

●ETCレーン整備、渋滞減らし隊キャンペーン、携帯Webを活用した渋滞予測情報提供、高機能舗装化

当社グループ内での独自の研究成果をもとに設定した算定基準を参考に、環境保全が主目的でなく、環境保全目的を除いた代替施設もないと判断し、簡便集計としてコストの25%を計上することとしました。

なお、上記の事業活動以外にも、環境保全コスト以外を控除した差額集計を一部行っております。

2. 環境保全効果

環境保全効果を、「事業活動から排出する環境負荷に関する指標」「事業活動から排出する廃棄物に関する指標」「その他の指標」に分類して整理を行いました。このうち、渋滞対策によるCO₂削減量が2010年度は1,514千 t-CO₂になりました。

分 類	指 標	単 位	効 果(数量)		関連ページ
			2009年度	2010年度	
1. 事業活動から排出する環境負荷に関する指標(地球環境保全)	渋滞対策によるCO ₂ 削減量	千t-CO ₂	1,438	1,514	P50～
	省エネルギー(オフィス活動含む)によるCO ₂ 削減量	千t-CO ₂	8	8	
	植樹(CO ₂ 吸収)によるCO ₂ 削減量	千t-CO ₂	14	14	
2. 事業活動から排出する廃棄物に関する指標(資源循環)	建設発生土再利用率	%	83	99	P55～
	アスファルト・コンクリート塊再資源化率	%	99	99	
	コンクリート塊再資源化率	%	97	99	
	建設発生木材再資源化・縮減率	%	94	96	
	建設汚泥再資源化・縮減率	%	100	99	
3. その他の指標(地域環境保全)	高機能舗装化延長	車線・延長(km)	284	315	P60
	遮音壁の新設延長	m	300	1,800	
	遮音壁の嵩上げ延長	m	2,000	1,100	

3. 環境保全対策に伴う経済効果

環境保全対策に伴う経済効果(環境保全対策を進めた結果、企業などの経済的利益に貢献する効果)については、2010年度において発生が回避されたと認められる費用を算定しました。

2010年度は全体で13,623百万円となり、2009年度と比較して

13,952百万円減少しました。これは、建設発生土などの再利用・再生利用に関わる発生量の減少に伴い回避されたと認められる費用が減少したことによるものでした。

分 類	2010年度の取り組み内容	実質的效果(費用縮減)(百万円)			
		2009年度		2010年度	
地球環境保全 (省エネルギー) による経済効果	トンネル内高効率化照明灯具の採用	27	660	26	425
	効率的な土運搬	490		247	
	ヒートポンプ方式の融雪装置の採用	27		26	
	トンネル換気運転制御の改善	115		101	
	自然エネルギーの活用、エコショップの整備・維持管理、オフィス活動	1		25	
資源循環による 経済効果	照明ランプの長寿命化による廃棄物削減	14	26,915	14	13,198
	建設発生土などの再利用・再生利用	26,529		12,992	
	ガードレール、トンネル設備のリユース	168		37	
	廃食用油、植物発生材(内部利用のみ)のリサイクル	97		46	
	サービスエリアにおけるリサイクルなど	108		109	
	合 計	27,575		13,623	

※建設発生土などの再利用・再生利用に関する経済効果は、当社事業に再利用したことにより発生が回避された資材購入費、処分場への運搬費及び処理費や、他事業に再利用したことにより発生が回避された処分場への運搬費及び処理費を計上しています。

◎事業ごとの環境保全コストと環境保全対策に伴う経済効果

名二環の開通など、当社の建設事業は年度変動が大きいため、建設事業と建設事業以外の保全・関連事業とに分けて集計を行いました。建設事業については、太陽光発電設備などの設置により投資額は増加し、建設発生土などの発生量の減少により費用及び経済

効果は減少しました。保全・関連事業については、建設発生土などの発生量の減少に伴い費用や経済効果が減少したものの、遮音壁の新設や高機能舗装の補修が増加したため投資額、費用額は増加しました。

	環境保全コスト				環境保全対策に伴う経済効果(百万円)	
	投資額(百万円)		費用額(百万円)		2009年度	2010年度
	2009年度	2010年度	2009年度	2010年度		
建設事業	287	1,772	9,547	1,812	22,750	10,140
保全・関連事業	1,315	1,441	4,291	4,763	4,825	3,483
合 計	1,602	3,213	13,838	6,575	27,575	13,623

CSR懇談会

社外の有識者の方々を委員とした「NEXCO中日本CSR懇談会」を設置し、企業が社会や文化の発展に果たすべき役割や意義、さらには環境に関する事項などについて、大局的な観点から当社経営陣と定期的に意見交換をしています。

CSR懇談会委員

座長：奥野 信宏	中京大学 総合政策学部 教授	城戸 真亜子	洋画家
委員：青山 佳世	フリーアナウンサー	柴田 昌治	日本ガイシ株式会社 取締役相談役
亀山 章	NPO法人地域自然情報ネットワーク 理事長 東京農工大学 名誉教授	嶋津 八生	NHK解説委員
川勝 平太	静岡県知事	服部 力	建築家 (株式会社服部都市建築設計事務所 主宰)

※ 敬称略 五十音順



中京大学 教授 奥野 信宏 座長

「災害に強いしなやかな国土づくり」は、第6次国土計画の基本戦略だが、東日本大震災では計画が想定していない重要な問題が提起された。大都市圏が甚大な災害に見舞われた時のバックアップ機能についてである。首都圏が最も深刻だが、程度の違いはあれ、類似のことは行政・企業・生活などのあらゆる面において、名古屋圏・大阪圏の大都市圏をはじめ全国の都市圏についていえる。

高速道路網は、復旧・復興において最初に確保されなければならない。今回の大震災では、東名高速の一部が津波の恐れで閉鎖され、その間、工事中の新東名が使われたことがあった。また6月上旬の新聞に東海環状道の西半分の工事を急ぐという記事が掲載されていたが、これも東西交通のリダンダンシーの確保のためだろう。東海北陸道や新名神も北陸や名古屋・大阪圏が大規模災害にあった時のバックアップに欠かせない。NEXCO中日本はまさに日本の屋台骨を背負っている。

リダンダンシーは、大規模災害が起きると重要性が強調されるが、やがて忘れ去られ、その機能を担う施設は無駄の象徴のような言い方をされる。経済学の立場からすれば、“無駄”は経済が効率的に機能するための重要な要件である。

第6回CSR懇談会

2010年12月10日、CSR懇談会の委員の皆さまに、名二環の建設現場とEXPASA御在所をご視察いただき、地域に開かれた魅力あるサービスエリアや都市部の環境に配慮した高速道路づくりについて意見交換を行いました。

委員の皆さまからいただいたご意見

- 企業は日本の中だけにとどまらず、世界に打って出なければならない。「世界一の高速道路会社」をめざすという目標は、非常に良いイメージであり、それをめざして活躍して欲しい。
- 名二環で採用されている技術はすばらしいと感心するが、もっと世の中にアピールしてもらいたい。
- 名二環では、太陽光発電やLED照明などさまざまな環境対策を行っているが、それらを製作するために大量のCO₂を排出している。全体のライフサイクルコストをトータルで考える必要がある。
- EXPASA御在所は、これまでの高速道路のイメージと異なり、地域に開かれて、雇用の創出や周辺住民の利用を誘発している。高速道路と地域とのあり方が完全に変わった。地域としてどのように車社会や道路と付き合っていくかということについて、新たなあり方の提案をされていると感じた。



名二環 建設現場視察



第6回CSR懇談会の様子

第7回CSR懇談会

2011年6月10日に「第7回CSR懇談会」を開催し、EXPASA足柄や新東名の沼津サービスエリアにて、多様なニーズに応えるサービスエリアづくりの現場を視察いただいた後、「CSR報告書2011」及び当社が取り組むべきCSR活動などについて、活発な意見交換を行いました。

委員の皆さまからいただいたご意見

東日本大震災への対応について

- 今回の震災で、鉄道と高速道路は社会経済の動脈としての社会的な使命と価値をもっているということが再認識された。仮に浜岡原発で事故が起こると、警戒区域である20km以内の東名や新幹線などは機能しなくなるため、新東名は東日本と西日本をつなぐ命の道である。これからは、新東名の災害上の意義をもっと強く対外的に訴え、本当に地域に受け入れられるような社会インフラの整備を進めて欲しい。
- 国土施策に長く関わっているが、今はハードとソフトが両輪となっている。ハードとは物の整備で、ソフトとは新しい公共の取り組みである。ハードは地元のことを知らないよ者でもできるが、ソフトの方はよ者ではできない。そういった意味で、高速道路整備では地域と一体となった取り組みが非常に大事である。
- 東日本大震災への対応というより、東日本大震災に学ぶことが一番大事であり、さらなる防災体制の強化をお願いしたい。

企業ビジョンについて

- 「世界一の高速道路会社」という目標が、ただの夢物語ではないことが外部の人にもわかるよう数値で示されているということが非常にわかりやすい。さらに数値の根拠についても記載されていた方が、ステークホルダーの方の共感を得るのではないか。
- KPIという成果指標を24項目にまとめたこと、さらにそれを社員が共有できるプロセスを経ていることは、大変高く評価したい。



東名 EXPASA足柄(下り)現場視察

魅力あるサービスエリアづくりについて

- 高速道路会社というと、単に高速道路をつくって運営して、ある地点からある地点まで人が移動するサービスを提供するというのが基本だと思うが、やはり地域といかにうまく共生していくかというのが今の時代には大事である。
- サービスエリアは本当に進化が目覚ましい。特に「ぶらっとパーク」には、地域のお客さま向けに店舗の楽しさをアピールするような看板や門扉を設置するなど、細かい配慮があり、非常に効果的である。だが、一部バックヤードの施設が見えているところがあるので、目隠しをしてもらえるとさらに良い。
- EXPASA足柄は、古い建物を残しリニューアルしているが、廃材を少なくし、もとの躯体、基礎、柱、梁、屋根をできるだけ活かして中身を変える方法は、21世紀に必要な工法だと思う。
- 景観が素晴らしいエリアでは、建物に入らなくても景観が見えるような工夫があったら良い。園地からでも景色が見える環境整備をお願いしたい。
- 省エネについて、今回の地震で見直されてきている。機能が複雑になり過ぎたトイレや、オール電化のあり方について、再検証する転換期にきている。太陽光発電・風力発電はいろいろ問題があるため、最近地熱発電も注目されてきているので、そのようなものも取り入れてみたらどうか。
- EXPASA足柄については、ゆとり時代のサービスエリアだということが非常に感じられ、これからのサービスエリアの一つのあり方が示されたと思う。ただ、緑が極端に少ないところもあったので、アイランドに木を植えるなどの工夫があると良いと思う。



東名 EXPASA足柄(上り)現場視察

ステークホルダーコミュニケーション

NEXCO中日本では、ステークホルダーの皆さまのご意見を企業活動に積極的に反映させるため、外部の有識者の方々をお迎えし、活発な意見交換を行っています。

さまざまな立場の有識者の方々と、安全・安心・快適な高速道路の推進に向けた取り組みや、お客さまサービスの向上施策について活発な議論が行われました。

すべてのステークホルダーの皆さまに感動と満足をお届けするため、2011年度以降も引き続き、定期的に意見交換の機会を設け、さまざまな取り組みを積極的に進めてまいります。

東京支社

東京支社では、お客さまサービスの向上、業務改善、ブランド価値の向上を目的として、13名の有識者の方を委員にお迎えした「ハイウェイアドバイザー委員会」を設置しています。2010年度は8月と3月に、新東名の建設現場やEXPASA足柄を視察していただき、新東名でのさまざまな取り組みや、サービスエリアのあり方など、活発に意見を交換しました。



東京支社ハイウェイアドバイザー委員会の様子

八王子支社

八王子支社では、管内の高速道路の技術的課題の克服と危機管理の向上を図ることを目的として、「八王子支社沿線大学技術交流会議」を設置しています。

2010年度は、老朽化した橋梁で顕在化している塩害や疲労による損傷状況をご覧いただき、学識経験者の方々から適切な助言や提言をいただきました。いただいたご意見は、「百年道路」計画の策定や実行に反映しています。



八王子支社沿線大学技術交流会議の様子

名古屋支社

名古屋支社では、管内のCS活動について、幅広くご意見をいただくため、「名古屋支社CSモニター会議」を設置しています。2010年度は7月と2月の計2回会議を開催し、8名の有識者の委員の方々から、無料化社会実験の状況やCSモニターアンケートの内容について、活発にご議論いただきました。



名古屋支社CSモニター会議の様子

金沢支社

金沢支社では、障がい者の方々にとってやさしい高速道路空間を提供することをめざし、障がい者団体の方々に高速道路を視察していただくとともに、意見交換会を実施しています。

2010年度は、聴覚障がい者の方のご意見を受け、係員とメールでやり取りをする際に、お客さまがアドレスを入力する手間を省くため、スマートICの看板にQRコードを設置しました。



北陸道 徳光スマートIC出口看板

第三者からのコメント



グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク

事務局長 宮本 武 氏

この報告書では、高速道路という重要な社会基盤を支える企業としての社会的責任への強い認識と決意が随所に盛り込まれており、ステークホルダーにとって必要な情報が全分野でバランスよく端的に報告されています。特に、東日本大震災への対応と、これを踏まえたさらなる防災体制の強化が具体的に記載されており、「安全・安心の提供」についての的確な説明がなされています。また「本業を通じたCSR」という考え方が随所に現れ、納得性の高い報告書となっており、特に「主な事業と今後の方針」は、CSRをいかに本業へ統合していくかという観点から、納得性を裏付けるものとなっています。

また、グローバル・コンパクト署名企業として10原則を企業ビジョンや本業の遂行へ統合することへの努力を感じました。具体的には「ISO26000と10原則との関わり」が明確にされている点、「GC-JNの活動に対する、自社の貢献とリーダーシップの発揮」が明確に記載されている点など、取り組みへの真剣さが伝わってきます。

その一方で、以下の三つの点を考慮していただければ、より良い報告書になると思います。一点目は、10原則が自社の企業ビジョンにどう組み入れられ、どのように社内浸透を図っているかについて言及があればもっと良かったという点です。例えば、経営理念の中核をなす「安全・安心・快適」という概念は、10原則4分野のうち「人権・労働・環境」には直接的に、「腐敗防止」には間接的にそれぞれ関係しており、この観点でのより具体的な言及があればより良かったと思います。二点目としては、報告書から「安全・安心・快適」を「お客さまとともに」という括りのみでとらえている印象を受けました。「地域社会・取引先・社員」もその重要対象であり、この方面に対する言及も必要であると思います。三点目は、今年度に公表される「CSR調達ガイドライン（仮称）」についてです。我々GC-JNもサプライチェーンを通じた10原則の実現をめざし世界中の企業に対し呼びかけを行っていることから、大いに期待するところであり、制定後の「説明・定点観測・是正/指導」などの活動についても報告いただければと思います。

以上感じた所を述べさせていただきましたが、「世界一の高速道路会社」の実現とその中での10原則の実効のより一層の進展を願い、第三者コメントの結びといたします。

第三者からのコメントをいただいて

本報告書は、ステークホルダーの皆さまとの重要なコミュニケーションツールとして、当社グループのCSRの取り組みとその成果を、できるかぎりわかりやすくお伝えするよう編集しました。特に今回は「本業を通じたCSR」という考え方にに基づき、当社グループ全体の事業活動がどのようにCSRと結びついているかを、よりわかりやすくお伝えするよう心がけて編集しております。

宮本様からのご意見にもありましたように、3月に発生した東日本大震災を通じて、高速道路の社会での役割が非常に大きいことを再認識いたしました。その社会的役割を果たし、「安全・安心な高速道路」を提供するため、さらなる防災体制の強化にグループ体となって取り組んでいるところです。

また宮本様からは、国連グローバル・コンパクトの世界的な視点から、具体的な項目についてのご提言をいただきました。そのような点に充分配慮し、今後のCSR活動を展開していきたいと考えております。

引き続き、すべてのステークホルダーの皆さまに感動と満足をお届けできるよう、「世界一の高速道路会社」、さらには「夢を実現できる会社」の実現をめざすことで、企業の社会的責任を果たしてまいります。

中日本高速道路(株)

企画本部長 小室 俊二

データ集

(1) 2010年度路線別断面交通量など

2011年4月1日現在

路線名	区間	営業中延長 (km)	車線数	平均断面交通量 (台/日) ※1	利用交通量 (台/日) ※2
中央自動車道	高井戸 ～ 八王子	25.8	4	80,991	116,736
	八王子 ～ 河口湖	68.1	4-7	45,555	65,818
	大月JCT ～ 小牧JCT	272.9	4-6	37,245	97,678
名神高速道路	小牧 ～ 八日市	87.5	4	54,235	75,737
長野自動車道	岡谷JCT ～ 豊科	33.1	4	41,227	37,357
東名高速道路	東京 ～ 小牧	346.7	4-7	80,543	428,434
東海北陸自動車道	一宮JCT ～ 小矢部砺波JCT	184.8	2-4	14,412	53,893
中部横断自動車道	増穂 ～ 双葉JCT	16.0	2	5,550	6,642
北陸自動車道	朝日 ～ 米原	282.1	4	26,638	103,974
名古屋第二環状自動車道	名古屋南JCT ～ 名古屋西	43.6	4	49,957	125,599
東名阪自動車道	名古屋西 ～ 伊勢関	55.1	4	71,138	96,095
伊勢自動車道	関JCT ～ 伊勢	68.8	4	33,704	57,086
伊勢湾岸自動車道	豊田東JCT ～ 東海	30.6	6	65,074	102,206
	飛島 ～ 四日市JCT	19.6	6	59,825	57,053
新名神高速道路	龜山JCT ～ 甲賀土山	18.8	4-6	38,581	—
紀勢自動車道	勢和多気JCT ～ 紀勢大内山	23.8	2	10,485	6,485
新湘南バイパス	藤沢 ～ 茅ヶ崎海岸	8.7	4	32,084	48,243
西湘バイパス	西湘二宮 ～ 箱根口	14.5	4	39,684	61,125
東富士五湖道路	富士古田 ～ 須走	18.0	2	15,778	31,337
小田原厚木道路	小田原西 ～ 厚木	31.7	4	29,670 ※3	66,579
伊勢湾岸道路	東海 ～ 飛島	6.1	6	81,085	90,201
圏央道	八王子JCT ～ (あきる野)	9.2	4	24,717	11,556
	海老名JCT ～ 海老名IC	1.9	4	11,542	6,064
東海環状自動車道	豊田東JCT ～ 関広見	75.9	4	16,420	48,474
箱根新道	山崎 ～ 箱根峠	13.8	2	15,492	15,492
八王子バイパス	相原 ～ 打越	4.5	4	43,957	43,957
西富士道路	<富士市> ～ <富士宮市>	6.8	4	34,332	34,332
安房峠道路	<上宝村> ～ <安曇村>	5.6	2	2,894	2,894
	合計	1,774			1,891,045

※ 1 区間毎 (2つのインターチェンジ間) を通過した台数の平均値 ※ 2 料金所を通過した台数の平均値 (1回の利用につき1台カウント)
※ 3 小田原、平塚の各本線料金所通過交通量を距離で按分

(2) 供用延長

(単位: km)

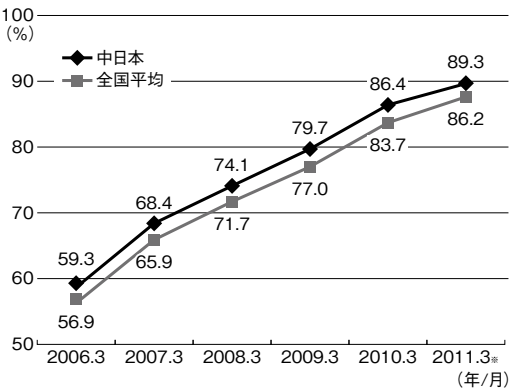
年度	中日本 供用延長	備考
2005	1,687	2006.3.11 紀勢道13.4km開通
2006	1,693	2006.12.16 中部横断道6.2km開通
2007	1,721	2008.2.23 新名神18.8km開通 2007.6.23 圏央道9.2km開通
2008	1,757	2009.2.7 紀勢道10.4km開通 2008.7.5 東海北陸道24.9km開通
2009	1,761	2009.4.18 東海環状道2.9km開通 2010.2.27 圏央道1.9km開通
2010	1,774	2011.3.20 名二環12.7km開通

(3) 路線別渋滞量

(単位: 渋滞長 (km) × 時間 (hour))

路線名	2010年				
	交通集中	工事	事故	その他	総計
東名高速道路	43,784	16,489	20,482	2,710	83,465
名神高速道路	6,221	1,561	3,113	370	11,265
中央自動車道	27,049	3,029	6,611	572	37,261
中部横断自動車道	0	0	0	0	0
長野自動車道	555	28	122	113	818
北陸自動車道	636	23	313	89	1,061
東海北陸自動車道	3,274	20	538	93	3,925
伊勢湾岸自動車道	790	169	922	71	1,952
東名阪自動車道	12,184	5,131	4,099	344	21,758
伊勢自動車道	890	155	120	22	1,187
紀勢自動車道	7	0	2	0	9
新名神高速道路	368	231	281	0	880
新湘南バイパス	35	0	0	0	35
西湘バイパス	727	0	6	11	744
東富士五湖道路	384	33	10	7	434
小田原厚木道路	725	36	107	12	880
伊勢湾岸道路	0	6	36	0	42
圏央道	111	0	98	10	219
東海環状自動車道	422	0	53	2	477
箱根新道	68	1	21	6	96
八王子バイパス	0	0	0	0	0
西富士道路	103	0	0	0	103
安房峠道路	0	0	0	0	0

(4) ETC利用率の推移



出展：平成22年版ETC便覧 ※2010.3速報値 (ORSE HPより)

(5) ETC専用レーンにおける停止処理状況 (2010年度日平均)

(単位: 台/日)

	誤進入によるもの 一般車道のETCレーン への誤進入など	カード未挿入などによるもの ETCカード 未挿入	通行券を持った ETC車道の進入など	有効期限切れ カード利用など	システム原因によるもの 車載器の 不具合など	合計
4月	832	1,119	363	165	80	2,559
5月	870	1,222	398	198	87	2,775
6月	910	1,199	395	162	100	2,766
7月※	878	1,138	478	152	116	2,762
8月※	946	1,291	489	179	129	3,034
9月※	980	1,140	425	149	118	2,812
10月※	826	1,077	393	153	103	2,552
11月※	817	1,100	388	166	102	2,573
12月※	754	1,027	320	175	106	2,382
1月※	691	902	307	147	90	2,137
2月※	709	950	303	141	94	2,197
3月※	718	978	296	165	88	2,245
合計	9,931	13,143	4,555	1,952	1,213	30,794
割合	32.2%	42.7%	14.8%	6.3%	3.9%	100%

※2010.7以降は、有料区間のみ

(6) サービスエリア一覧

路線名	サービスエリア名		上下	所在 都道府県	形式	総面積 (㎡)	駐車場面積 (㎡)	二輪車 マス数	小型車 マス数	小型車・大型車 兼用マス数	大型車 マス数	バス優先 マス数	トレーラー マス数	身障者マス数		単純合計 マス数
														大型車	小型車	
東名高速道路	海老名	エビナ	上	神奈川	分離	47,299	22,437	60	325	58	64	15	10	1	6	479
			下			59,300	30,800	54	342	36	81	26	9	1	7	502
	足柄	アシガラ	上	静岡	分離	137,000	54,500	80	221	105	142	13	11	3	6	501
			下			174,000	56,000	48	268	29	207	15	16	3	5	543
	富士川	フジカワ	上	静岡	分離	72,360	37,743	8	79	80	39	10	4	1	5	218
			下			44,740	22,439	8	186	15	38	15	3	1	8	266
	牧之原	マキノハラ	上	静岡	分離	83,520	37,960	8	190	5	188	20	24	1	5	433
			下			130,380	80,440	17	250	0	200	20	30	1	5	506
	浜名湖	ハマナコ	上	静岡	集約	75,610	19,700	8	123	44	0	12	20	1	5	205
			下			57,110	24,700	8	94	90	0	12	23	1	5	225
名神高速道路	上郷	カミゴウ	上	愛知	分離	47,030	9,270	8	123	38	104	8	8	1	5	287
			下			32,410	8,570	8	145	31	95	8	8	1	5	293
	養老	ヨウロウ	上	岐阜	分離	35,470	10,430	15	62	22	56	0	6	0	3	149
			下			42,390	13,040	20	93	23	91	0	10	1	4	222
	多賀	タガ	上	滋賀	分離	100,040	22,400	8	109	0	105	0	5	0	2	221
			下			61,520	21,447	8	200	0	73	8	9	1	6	297
	談合坂	ダンゴウザカ	上	山梨	分離	144,480	42,290	34	284	87	38	8	5	3	8	433
			下			62,930	23,280	12	137	89	31	0	5	1	6	269
	双葉	フタバ	上	山梨	集約	31,610	14,820	4	166	25	35	11	4	1	2	244
			下			47,769	17,112	4	166	0	58	5	3	1	2	235
中央自動車道	諏訪湖	スワコ	上	長野	分離	58,126	11,070	8	132	0	41	0	3	0	3	179
			下			41,366	13,630	8	130	0	41	0	3	0	3	177
	駒ヶ岳	コマガタケ	上	長野	分離	101,826	13,066	7	149	0	45	3	0	1	3	201
			下			100,970	12,880	7	148	0	43	5	0	1	3	200
	恵那峡	エナキョウ	上	岐阜	分離	38,885	10,395	4	143	19	23	0	5	0	2	192
			下			32,695	6,785	5	163	14	40	0	3	0	2	222
長野自動車道	梓川	アズサガワ	上	長野	分離	36,830	14,438	8	153	3	22	3	8	0	2	191
			下			37,980	12,073	8	154	6	13	3	4	0	2	182
北陸自動車道	有磯海	アリソウミ	上	富山	分離	38,564	13,313	4	98	0	38	0	4	0	1	141
			下			39,340	11,829	4	97	0	37	0	4	0	1	139
	小矢部川	オヤベガワ	上	富山	分離	27,959	8,579	8	104	0	21	0	0	0	1	126
			下			24,375	9,217	4	103	0	21	0	3	0	1	128
	尼御前	アマゴゼン	上	石川	分離	17,039	6,780	8	88	0	19	6	0	0	1	114
			下			19,579	6,780	8	95	0	21	3	0	0	2	121
	南条	ナンジョウ	上	福井	分離	32,000	10,422	4	83	11	12	0	2	0	3	111
			下			38,100	12,081	4	126	0	20	0	4	0	3	153
東海北陸自動車道	賤ヶ岳	シズガタケ	上	滋賀	分離	17,916	8,122	4	78	27	0	1	5	0	1	112
			下			20,160	8,079	4	70	29	0	1	5	0	1	106
	関	セキ	上	岐阜	分離	35,510	8,900	4	88	0	30	0	3	0	1	122
			下			39,650	9,210	4	82	3	25	0	3	0	1	114
東名阪自動車道	ひるがの高原	ヒルガノコウゲン	上	岐阜	分離	15,527	3,370	6	52	10	14	0	2	0	2	80
			下			20,373	3,370	6	80	10	14	0	2	0	2	108
	城端	ジョウハナ	上	富山	集約	40,902	5,567	4	19	2	9	0	2	2	1	35
			下			40,902	5,283	4	22	6	5	0	2	2	1	38
伊勢自動車道	御在所	ゴザインショ	上	三重	分離	40,900	11,770	8	147	15	36	0	3	1	3	205
			下			44,190	11,910	8	146	15	36	0	3	1	3	204
新名神高速道路	土山	ツチヤマ	上	滋賀	集約	59,696	8,336	8	113	0	24	0	4	0	2	143
			下			67,604	8,664	8	110	0	25	0	4	0	3	142
			上			87,300	18,538	4	88	0	75	0	3	1	2	169
			下			87,300	18,476	4	88	0	75	0	3	1	2	169

(7) スマートIC一覧

路線名	スマートIC名		営業時間	出入方向	対象車種
東名高速道路	富士川スマートIC	フジカワ	終日	フル方向	入口：全車（車長12.0m以下） 出口：中型車以下（車長8.5m以下）
	遠州豊田スマートIC	エンシュウトヨタ	終日	フル方向	全車（車長12.0m以下）
中央自動車道	双葉スマートIC	フタバ	終日	フル方向	二輪車、軽自動車、普通車、 中型車（車長8.5m以下）
長野自動車道	梓川スマートIC	アズサガワ	終日	フル方向	全車（車長12.0m以下）
	入善スマートIC	ニウゼン	終日	フル方向	全車（車長12.0m以下）
北陸自動車道	流杉スマートIC	ナガレスギ	終日	フル方向	全車（車長12.0m以下）
	徳光スマートIC	トクミツ	終日	フル方向	米原方面への入口、新潟方面からの出口： 全車（車長12.0m以下） 米原方面からの出口、新潟方面への入口： 二輪車、軽自動車、普通車（車長6.0m以下）
	安宅スマートIC	アタカ	6～22時	福井方面 への入口 福井方面 からの出口	全車（車長12.0m以下）
	南条スマートIC	ナンジョウ	6～22時	フル方向	全車（車長12.0m以下）
	ひるがの高原スマートIC	ヒルガノコウゲン	終日	フル方向	全車
東名阪自動車道	亀山PAスマートIC	カメヤマ	終日	フル方向	全車
東海環状自動車道	鞍ヶ池スマートIC	クラガイケ	6～22時	フル方向	全車（車長12.0m以下）

(8) ETCカード未挿入による停止率、
停止台数の比較

	2010年4月1①	2011年4月1②	②－①
ETCカード未挿入率 （％）	0.206	0.11	－0.096
ETCカード未挿入台数 （台／月）	1,645	823	－822

※2010年度 既存路線の入口に設置した14箇所のお知らせアンテナによるデータ

(9) ETC専用運用レーンにおけるバー接触件数
（2010年度日平均）

時期	バー接触件数 （件／日、日平均）	時期	バー接触件数 （件／日、日平均）
4月	243	10月※	217
5月	246	11月※	232
6月	278	12月※	224
7月※	266	1月※	195
8月※	259	2月※	211
9月※	221	3月※	215

※2010.7以降は、有料区間のみ

CSR報告書2011用語集

本報告書に使用されている専門用語について、詳細に解説した用語集です。

あ

◎アイドリングストップ 40頁

自動車が増車時においてアイドリングを行うなど、不要時におけるエンジン稼働状態を抑制しようとするもの。

保冷車など増車中もアイドリングを行う必要がある車両についても、外部電源による電力補給によりアイドリングを停止することができるシステムも開発されている。

い

◎インターンシップ 37頁

学生が在学中に自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと。

え

◎エコロード 6頁

地域の環境・生態系に極大影響を与えず、自然環境に配慮した道路建設に際して、周辺地域の生態系への影響を回避・低減するとともに、動植物などの新たな生息・生育環境の創出を目的としている。

お

◎オストメイト 31頁

病気などが原因で、人工肛門・人工膀胱をもつ方々。

か

◎環境影響評価法 60頁

(1997年6月13日法律第81号)

大規模公共事業など環境に大きな影響を及ぼす恐れのある事業について、その事業(民間事業者によるものも含む)を実施する事業者自らが環境への影響を予測評価し、その結果に基づいて事業を回避し、または事業の内容をより環境に配慮したものとしていく環境アセスメントについての手続きを定めた法律。

◎環境施設帯 60頁

道路に付帯して整備される、植樹帯、路肩、歩道、副道などの幹線道路の沿道の生活環境を保全するための道路施設。

く

◎グリーン購入法 43頁

原材料・製品などを購入する際に、環境負荷の少ない物品を優先して調達したり、そのような配慮をしているメーカーから優先して調達すること。

◎くるみん 45頁

厚生労働省が認定した従業員子育て支援事業の愛称。2003年7月に「次世代育成支援対策推進法」が公布され、301名以上の労働者を雇用する事業主は次世代を担う子どもたちが健やかに生まれ育成されるようにするために、事業所としても取り組みを行いその具体案を明記した「一般事業主行動計画」を厚生労働省へ届出することが義務付けられた。「一般事業主行動計画」の届出を行った事業者は「くるみん」ロゴマークの使用が認められる。

こ

◎高圧ナトリウムランプ 55頁

高圧のナトリウム蒸気を利用した電位差放電による発光器。発光色は橙色で視認性に優れ、照明の有効範囲も広い。

◎高機能舗装 60頁

舗装の表面(表層)において空隙を多くして、雨水などの排水機能を向上させ、水はねを軽減させるとともに、タイヤとの接地による摩擦音を吸音することにより騒音低減効果を有する舗装。

◎高速道路関連社会貢献協議会 40頁

2005年8月25日に、高速道路利用者などに対する安全性、信頼性及びサービス向上を図るための社会貢献事業を行う実施機関として設立。NEXCO中日本、NEXCO東日本、NEXCO西日本、財団法人高速道路交流推進財団の他、料金収受・交通管理・保全点検・維持修繕など高速道路の維持管理に従事する会社で、当高速道路関連の社会貢献事業の主旨に賛同していただいている会社73社などで構成されている。

◎コーポレートガバナンス 6頁

企業統治。企業経営において、その意思決定プロセスにおける経営機能の規律をチェックする仕組み。

◎コンプライアンス 6頁

法令遵守が原義。しかしながら今般においては、単に法令・規則などを遵守するに留まらず、法令などの背後にある立法趣旨を理解し、企業に求められている社会的要請に対して、高度な倫理観をもって適切に対応することと解釈されているのが一般的。

さ

◎サグ部 28頁

下り坂から上り坂に差し掛かる部分のこと。道路においては、速度が下がりやすいため、渋滞が発生する原因となっている。

◎サービスエリア(SA) 1頁

高速道路上にある休憩施設。レストランや給油所などを備えた休憩施設で、パーキングエリアより規模が大きいものが多いが、立地条件などにより、規模の小さいものもある。

は

◎ バイオディーゼル燃料 56頁

生物由来油から作られるディーゼルエンジン用燃料の総称であり、バイオマスエネルギーの一つ。NEXCO 中日本では、サービスエリアの使用済み天ぷら油などを利用して、維持管理車両の燃料に用いることに取り組んでいる。

◎ バリアフリー 40頁

障壁（バリア）を除く（フリー）こと。建築面においては、段差の解消や手摺の設置など、高齢者・障がい者にとっての障害をなくし、より使用しやすい空間を創造する考え方。

◎ パーキングエリア (PA) 26頁

高速道路上にある休憩施設。サービスエリアより規模が小さいケースが多い。

ひ

◎ ヒートポンプ 53頁

外部から電気・熱などの駆動エネルギーを与えて、低い温度の部分から温度の高い部分へ熱を移動させる装置。

ふ

◎ フィージビリティスタディ 42頁

費用便益調査。具体的には新製品や新サービス、新制度に関する実行可能性や実現可能性を検証する作業のこと。業務面、システム面、資金面、投資採算など、複数の視点から分析を行い、その実現可能性を検証する。

◎ 付加車線 28頁

インターチェンジやサービスエリアなどへの進入・合流路やトンネル部分など渋滞が顕著に発生する区間において、交通流を円滑にするため車線を追加して増やすこと。

◎ プロビーム照明 29頁

走行する自動車の進行方向に照明する方式の照明。トンネル坑口付近に存在する先行車の背面を照明することにより、先行車に対する視認性を向上させる。

も

◎ 木質ペレット 54頁

高速道路の草刈りなどで発生する植物発生材をリサイクルしてできる固形燃料のこと。

ゆ

◎ 有価証券報告書 33頁

社債や株式など有価証券の発行企業が自社の情報を外部に開示するために作成する報告書。金融商品取引法第 24 条により、ディスクロージャー制度・不正取引の規制・投資勧誘の規制の 3 つを実現し、市場の公正化と投資家保護を図ることを目的として、毎事業年度終了後 3 ヶ月以内に内閣総理大臣に提出することが義務付けられている。

◎ ユニバーサルデザイン (Universal Design) 31頁

言語・文化・年齢・障がい者などを問わず、あらゆる人が利用することができる施設や製品の設計・デザイン。

り

◎ リサイクルプラント 55頁

再生工場。NEXCO 中日本では、植物発生材のリサイクルを 5 箇所で行っており、肥料や雑草防止用の資材として再生している。

◎ 裏面吸音板 60頁

道路の上部に高架道路があるような 2 層構造の道路において、下方の交通騒音が高架道路の裏面に反射して拡散することを緩和するために、高架道路の裏面に設ける吸音パネル。

ろ

◎ ロックボルト 63頁

ゆるみや脱落が予想される地山や岩塊を押さえつけるためのプレート締め付けのためのボルト。ボルトの定着部分（先端）は深部の締まった地山へ締め付ける。

◎ ロードヒーティング 53頁

道路の融雪や凍結を防止するため路面の温度を上げる施設。舗装内に電熱線類やパイプを埋設し、温水を循環させて路面を過熱する無散水型の融雪装置。高速道路では寒冷地以外でもトンネル出口や橋梁区間などに設置される。

わ

◎ ワークライフバランス (Work-Life-Balance) 45頁

仕事と生活の調和をとるという考え方。国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会を実現するとして、官民を挙げてさまざまな取り組みがなされている。

C

◎ COP10 (Conference of the Parties 10) 6頁

国際条約の締約国が集まって開催する会議のこと。ここでは生物多様性条約第 10 回締約国会議を指し、2010 年 10 月に愛知県名古屋市で開催された。「生物の多様性に関する条約（生物多様性条約）」は、ラムサール条約やワシントン条約などの特定の地域、種の保全の取り組みだけでは生物多様性の保全を図ることができないとの認識から、新たな包括的な枠組みとして提案されたもので国連環境開発会議（地球サミット）に先立ち 1992 年 5 月 22 日に採択された。1993 年 12 月 29 日に発効し、2010 年 6 月現在、192 ヶ国及び欧州連合 (EU) が締結。日本も 1993 年 5 月に締結している。

◎ CS (Customer Satisfaction) 25頁

お客さま満足。すべてがお客さまとその期待から始まるという考え方のもとに、お客さまに満足していただくために、自社の事業・サービスについて、何をどのように実施・提供していくのかを考え、それを達成するための仕組みを作りあげるといった考え方。

し

◎資源の3R 6頁

資源の3Rとは、循環型社会を形成するために必要な取り組みであるリデュース (Reduce)、リユース (Reuse)、リサイクル (Recycle) の頭文字がそれぞれRであることから名付けられた取り組み。

①リデュース (発生抑制) 省資源化や長寿命化といった取り組みを通じて製品の製造、流通、使用などに係る資源利用効率を高め、廃棄物とならざるを得ない形での資源の利用を極力少なくする。②リユース (再使用) 一旦使用された製品を回収し、必要に応じ適切な処置を施しつつ製品として再使用する。または、再使用可能な部品を利用する。③リサイクル (再生利用) 一旦使用された製品や製品の製造に伴い発生した副産物を回収し、原材料としての利用または焼却熱のエネルギーとして利用する。

◎新直轄 34頁

採算性が悪いと見込まれる高速道路を、国と地方自治体が建設する区間のこと。

◎自動追尾トータルステーション(TS) 34頁

トータルステーション (TS) とは、測量において使用する光学機器で、測角機能と測距機能が一体化したもの。自動追尾TSは、ターゲットとなるプリズムを自動で追尾し、プリズム側だけの作業による測量を可能にするため、コスト削減・作業の効率化を実現できる。

す

◎ステークホルダー 2頁

組織の行動により影響を受ける、または影響を与える個人やグループ。利害関係者 (利益共有者)。企業の場合は、顧客・株主・社員・地域社会・取引先など。

企業が事業活動を行う際には、さまざまなステークホルダーの要求・要望を把握して、活動に反映させることが重要となっている。

◎スマートインターチェンジ(スマートIC) 33頁

サービスエリアやパーキングエリアなどにおける、ETC専用の出入口機能をもった簡易インターチェンジ。

せ

◎政府保証債 33頁

法律によって設立された政府関係機関などが、事業資金の一部を調達するために発行する債券のうち、政府が元利金の支払いについて保証をしているもの。

◎生物多様性 6頁

生態系・生物群系または地球全体に、多様な生物が存在していることを指す。生物の多様性に関する条約では「すべての生物 (陸上生態系、海洋その他の水界生態系、これらが複合した生態系その他生息又は生育の場のいかなを問わない) の間の変異性をいうものとし、種内の多様性、種間の多様性及び生態系の多様性を含む」と定義されている。

◎セラミック(メタル)ハライドランプ 55頁

水銀とハロゲン化金属 (メタルハライド) の混合蒸気中のアーク放電による発光を利用した高輝度、省電力、長寿命のランプをメタルハライドランプといい、発光管の素材として浸食されやすい石英ガラスの替わりに透光性セラミックが用いられたもの。

そ

◎騒音規制法 60頁

工場及び事業場における事業活動や建設工事に伴って発生する相当範囲にわたる騒音について必要な規制を行うとともに、自動車騒音に係る許容限度を定めることにより、生活環境を保全し、国民の健康保護に資することを目的とした法律。

た

◎対距離型料金精算機(対距離ICM) 33頁

市中の駐車場の精算機と同じように、高速道路の通行料金を、お客さま自身の操作でお支払いいただくための機械。距離に応じて料金をお支払いいただく対距離区間の出口料金所に設置している。

◎ダイバーシティ・マネジメント (Diversity Management) 44頁

個人の多様性を尊重し活用する人材育成・管理の手法。多様な属性 (性別、年齢、国籍など) や価値・発想をとり入れることで、ビジネス環境の変化に迅速かつ柔軟に対応し、企業の成長と個人のしあわせにつなげようとする企業戦略の一つ。

ち

◎地球温暖化 6頁

地球の大気・海水温度が長期的にみて上昇している現象。特に近年問題化している現象は、地球規模の環境への影響、それに付随する社会への影響が懸念されている。近代以降の人類の社会活動により生じる化石燃料などの温暖化ガスが原因といわれている。

て

◎低入札 43頁

入札時の入札価格が、発注者の予定価格を大きく下回ったケース。工事など品質確保に支障を及ぼしかねないだけでなく、下請け業者へのしわ寄せ、労働条件の悪化、安全対策の不徹底などの悪影響が懸念されるため、NEXCO 中日本では、適正に工事ができるか否かの調査を行う。

◎電子入札 43頁

事業の入札について、オンラインで行う仕組みのこと。入札参加者は、入札関連書類の作成の簡素化・省力化が図れる一方、発注者も入札手続きの簡素化や入札の透明性を向上させる効果がある。

と

◎道路橋示方書 14頁

日本における橋や高架の道路などに関する技術基準を定めたもの。社団法人日本道路協会より「道路橋示方書・同解説」として発行されている。

◎ドクターヘリ 40頁

救急専用の医療機器などを装備したヘリコプターに救急医療の専門医及び看護師が同乗し、消防機関などの要請により救急現場に向かい、救急現場から医療機関に搬送する間、救命医療を行うことのできる救急専用ヘリコプター。

◎CSR(Corporate Social Responsibility) 2頁

企業の社会的責任。企業が利益のみを追求する存在であるのではなく、企業活動が社会に及ぼす影響に対して責任を負うという考え方。一般的には、企業活動において、経済、環境、社会の側面を総合的に捉え、競争力の源泉とし、企業価値の向上につなげることとされている。

◎CSR調達 43頁

調達先に対し、人権保護や労働環境の保護などCSRに関わる取り組みを調達基準として提示し、サプライチェーンでのCSR活動を推進すること。

E**◎ETC(Electronic Toll Collection System) 31頁**

高速道路の料金所ゲートのアンテナと、車両に装着した車載器との間の無線通信により、通行料金を支払うシステム。このシステムにより料金所にて一旦停止することなく料金精算が可能となり、料金所の渋滞解消に資している。

H**◎Hf蛍光灯 53頁**

高周波点灯専用形蛍光ランプ。蛍光灯と安定器（インバータ）とを組み合わせた、Hf専用器具で使用され、高効率、高出力を実現している。

I**◎IR(Investor Relations) 33頁**

企業が投資家(Investor)に対し、財務状況や事業状況など投資判断に関係する情報を提供する広報活動。

◎ISO14001 43頁

1996年に発行された環境マネジメントに関する国際規格。組織活動、製品及びサービスの環境負荷の低減といった環境パフォーマンスの改善を実施する仕組みが継続的に運用されるシステム(環境マネジメントシステム)を構築するための要求事項を規定した規格のこと。

◎IT(Information Technology) 43頁

コンピュータやデータ通信などの情報に係る技術の総称。業務をコンピュータ処理に置き換えたりすることをIT化するともいう。

◎ITS(Intelligent Transport Systems) 27頁

最先端の情報技術を活用して、人・道路・車を情報でつなぎ、交通事故や渋滞などの道路交通問題の解決を図る新しい交通システムの総称。ETCもITSに含まれる。

J**◎JICA (Japan International Cooperation Agency) 41頁**

独立行政法人国際協力機構。技術協力、有償資金協力(円借款)、無償資金協力の援助手法を一元的に担う、総合的な政府開発援助(ODA)の実施機関。

L**◎LED(Light Emitting Diode) 28頁**

発光ダイオード。電流を流すと発光する半導体素子の一種。白熱電球・蛍光灯と比較して消費電力が非常に少なく、長寿命なことから、地球環境にやさしい照明といわれている。

N**◎Nox 50頁**

窒素酸化物のこと。呼称は「ノックス」。光化学スモッグなどの原因となる大気汚染物質の一つで、主な発生源は自動車の排気ガスといわれている。

O**◎OJT(On-the-Job Training) 45頁**

企業内で行われる職業指導手法の一つで、職場の上司や先輩が部下や後輩に対し、具体的な仕事を通じて、仕事に必要な知識・技術・技能・態度などを、意図的・計画的・継続的に指導し、修得させることによって、全体的な業務処理能力や力量を育成する手法。

P**◎PIARC(Permanent International Association of Road Congress) 42頁**

世界道路協会。道路の建設、改良、維持、利用技術など、道路技術・行政の向上とこれによる経済的発展をめざし、1909年に設立された国際機関。世界の道路体系の発展を図ることを目的とし、世界各国の政府、道路管理者、道路関係団体、個人から組織されている。

S**◎SPM(Suspended Particulate Matter) 50頁**

浮遊粒子状物質。大気中に浮遊している粒子状の物質のことで、主に自動車の排気ガスや工場の煤塵など大気汚染物質の代表的なもの。

T**◎TDM(Traffic Demand Management) 28頁**

交通需要マネジメント。通行料金を割引くなどによって交通量の多い時間帯から少ない時間帯に利用をシフトしてもらうことにより、交通混雑の緩和を図ろうとするもの。